in TOKYO

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン

つながれ ひろがれ ちいきの輪

2017 報告書

社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会

東京都高齢者福祉施設協議会は、東京都内の特別養護老人ホーム・養護老人ホーム・軽費老人ホーム・地域包括支援センター・在宅介護支援センター・デイサービスセンター約 1,200 ケ所が集まるネットワークです。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO

はじめに

本書は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりをめざして、東京の高齢者福祉施設・事業所が地域の中で試みている様子をまとめ、伝える報告書として発刊しました。取組みごとの実施レポートを掲載する一方、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」という全都的なキャンペーンとして取組んできた背景やキャンペーンの流れについても分かりやすく伝えるよう心掛けています。

また、コンパクトなサイズになっており、本書を手に取った方が活用しやすい冊子となっています。

東京都内の高齢者福祉施設・事業所における地域によりそう活動への理解を深めるとともに、地域での実践の一助となれば幸いです。

●本書の構成について

本書は、４つの章で構成されています。

Ⅰ章　図解　明日が待ち遠しい暮らしをデザインする
～地域の中でつながりあう施設とは～

地域の中における高齢者福祉施設・事業所の現状や地域住民の暮らしによりそうために求められているものを「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」を実施する背景と合わせてイラストや図で解説します。

Ⅱ章　地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～

2017年12月に開催された実践報告会での報告からそれぞれの地域のニーズや取組みでの工夫やヒントを学びます。地域につながる中でみつけたたくさんの気づきが書かれています。

Ⅲ章　キャンペーン実施に至るまで～2017年度のふりかえり～

2017年度のキャンペーンを実施するにあたり、どのようなしかけをつくってきたか、学びの場づくりの様子やワーキングチームの活動の様子などから理解を深めます。

Ⅳ章　きっとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』
～キャンペーン取組みレポート～

都内の各地の地域によりそう取組みの様子について、キャンペーン参加施設・事業所から届いたレポートより掲載しています。

目　次

Ⅰ　図解　明日が待ち遠しい暮らしをデザインする～地域の中でつながりあう施設とは～ …… 2

Ⅱ　地域のニーズにこたえるヒント～実践報告会より～
施設も地域の一員として…… 6
施設のもつ強みを生かす…… 8
新しい取組み はじめてみました …… 10
施設内に理解を深める～高齢者施設がつくる親子の輪～…… 12
同じまちの事業所が連携…… 14
地域の声によりそう…… 16

Ⅲ　キャンペーン実施に至るまで～2017年度のふりかえり～
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO キャンペーン とは？ …… 20
着実な根づきを見据えた新たな試み…… 22
実施担当者向け説明会…… 24
見学会…… 26
実践報告会…… 28
高齢協全体での取組み…… 30
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム …… 31

Ⅳ　きっとみつかる！あなたのまちの「ちいきの輪」～キャンペーン取組みレポート～
実施施設・事業所 一覧 …… 36
実施施設・事業所取組みレポート 2017
テーマ１　認知症…… 39
テーマ２　介護予防・高齢者支援…… 46
テーマ３　アウトリーチ…… 59
テーマ４　相談・家族支援…… 62
テーマ５　カフェ・居場所…… 63
テーマ６　学びの機会…… 78
テーマ７　地域団体との協働…… 90
テーマ８　地域交流……101
テーマ９　防災……157
テーマ10　その他 ……160

資料
実施施設・事業所 募集要項 ……170
実施状況……174
施設・事業所の合同実施状況……176
広報グッズ紹介……180
広報ツール紹介……181
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム名簿 ……187

Ⅰ

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする

～地域の中でつながりあう施設とは～

図解 明日が待ち遠しい暮らしをデザインする
～地域の中でつながりあう高齢者施設・事業所とは～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOとは?

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が地域によりそうことで「ちいきの輪」をつくります。

「ちいきの輪」とは、一人ひとりの生活を、点（福祉サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えること（地域包括ケアの実現）を示しています。具体的な取組み例として右記イラストにまとめています。

キーワード

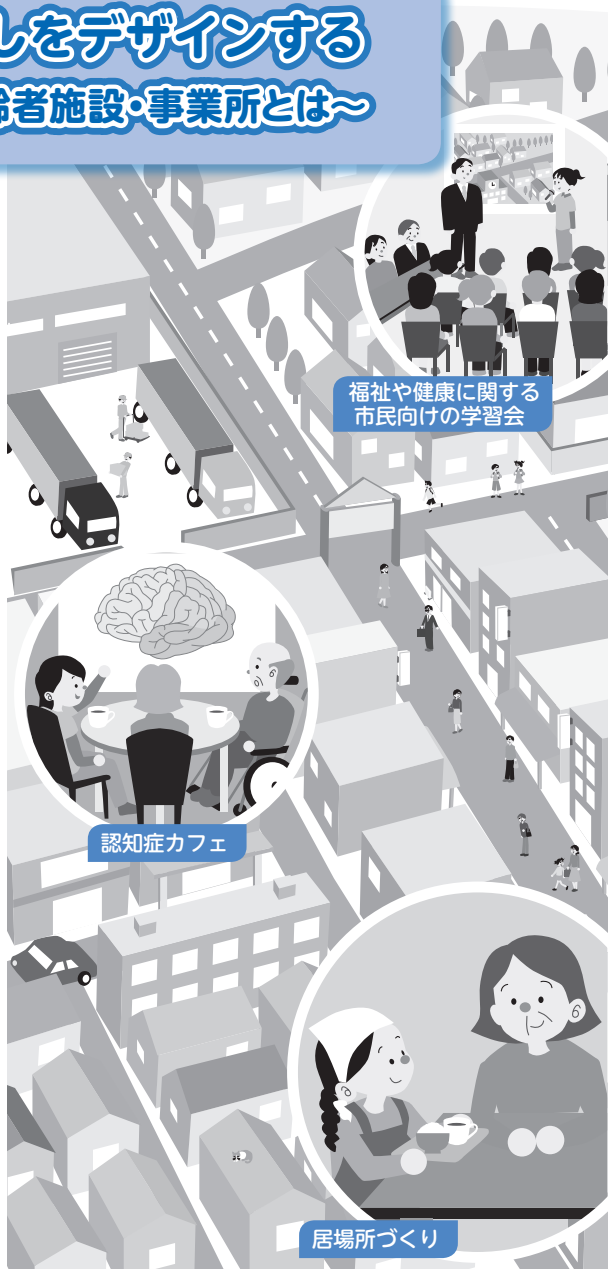
地域でこぼれ落ちる人

- 高齢者と家族を取り巻く暮らしの課題が多様化・複雑化し、社会のセーフティネットからこぼれ落ちることを防ぐ支援が必要。
- 東京の高齢者施設・事業所は、福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、地域で暮らす住民の役に立ちたいと願っている。

地域によりそう

- 地域のニーズを把握し、専門性を発揮しながら、解決に結びつく活動を展開。
- 暮らしの中でのちょっとした困りごとによりそい、地域住民にとって身近な存在として感じてもらう。
- 広く都民全体に知ってもらうために都内の高齢者福祉施設・事業所が一体となってつなひろキャンペーンを実施。

施設・事業所も地域の一員として、地域のゆるやかな支え合いネットワークを形成するために地域に参画し、住民とかかわり、地域の高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるはたらきかけを行います。かかわりの入口は高齢者ですが、家族・自治会・商店街などそれぞれの地域住民の個々の生活ニーズ把握を重ねていくことで、いずれは地域全体の課題をつかみ、新しい社会資源（サービス、ネットワークなど）を生み出すきっかけをつくり、最期の時まで安心して暮らせる地域の実現をめざしています。



東京の地域を取り巻く課題～制度の狭間にこぼれ落ちる人～

①高齢化の進行

2025年には、高齢者人口が約343万人、高齢化率は26.2%、都民の４人に一人が高齢者になると見込まれています。

②孤立の増加

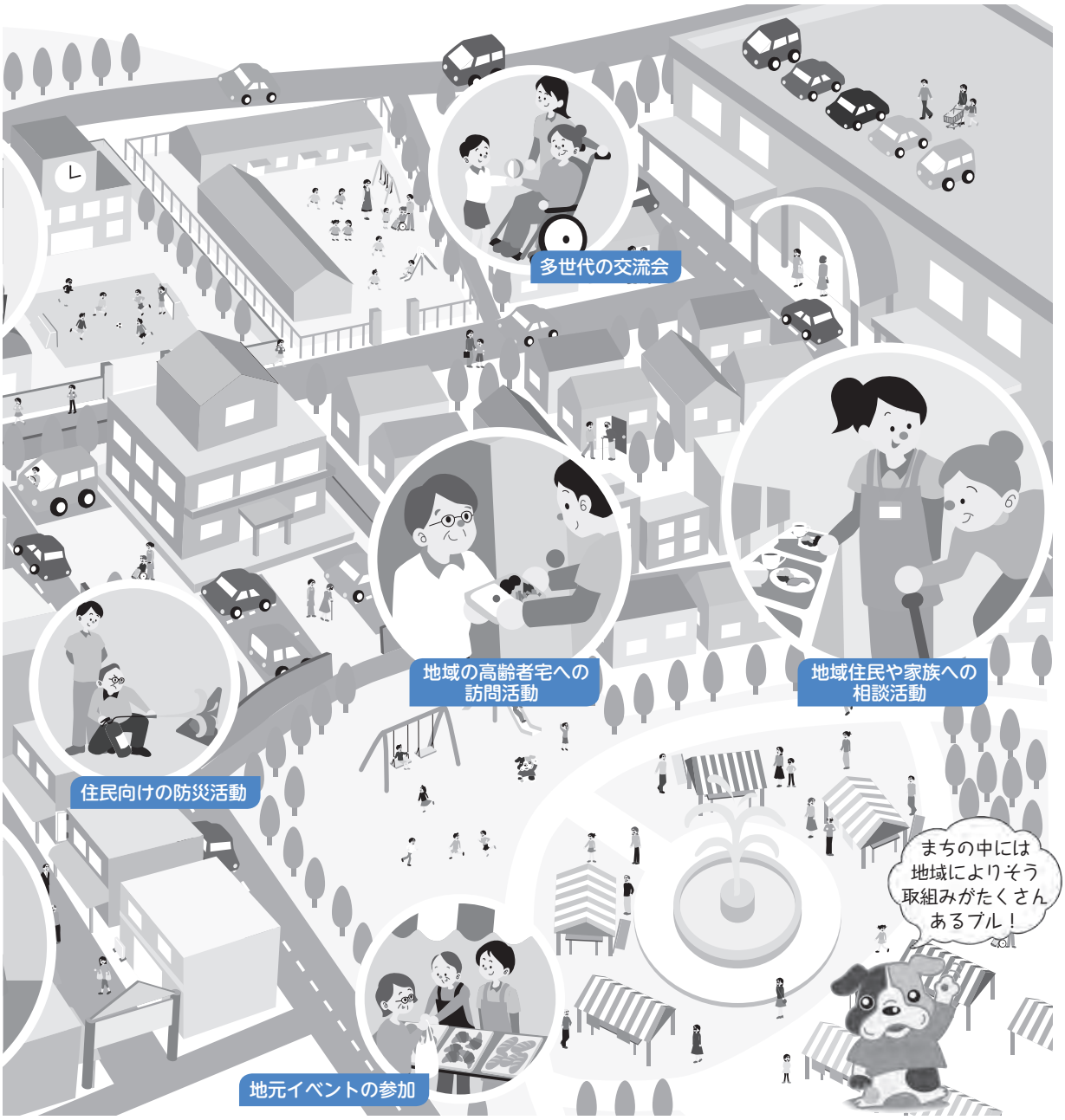
65歳以上の一人暮らし世帯について、2010年では約60万世帯であるのが、2025年には約82万世帯に増えると見込まれています。

③経済的に困窮している高齢者の増加

2010年１年間の所得（全国）について、高齢者世帯の40.5%が年収200万円以下となっています。

④多面的なかかわりの必要性

本人ならびに家族に、多様かつ複雑な課題があるため、サービスの充実だけでは対応が不十分なケースが増えています。



地域によりそうことで生まれる効果

・車の両輪のように「福祉（施設・事業所利用者へのサービスの質）」「地域（地域住民全体に向けた支援）」の２つが連動して高齢者福祉施設・事業所の支援の質が高められる。
・１施設では、地域への対応力に限界があるため、公私にわたる多様な機関との協働が欠かせない。

包括的な視点に基づく施設の福祉的な取組みサイクル

地域に向けた福祉的な実践活動の成功事例

地域へ
・地域課題に敏感になる
・地域の高齢者等への関心が高くなる

支える力が磨かれる

施設・事業所へ
対利用者への福祉サービスに日々向き合っている職員が地域の高齢者に対して支援方法を考える

職員
地域への対応力向上
職員の意識改革を促す

上記の一連のサイクルを通して、新たな暮らしの課題解決に向けた視点が形成されるとともに、施設・事業所の地域のニーズに対する支える力が磨かれ、自ずと支え手としてのあらゆる可能性を引き出します。

Ⅱ

地域のニーズにこたえるヒント

～実践報告会より～

実践事例

施設も地域の一員として「牟礼東町会太鼓祭り　太鼓巡行」（共催：牟礼東町会）

山本　悟さん
（福祉法人桜栄会 恵比寿苑）

詳細はP138

地域とつながるためにできることとは

「つながれ ひろがれ ちいきの輪」に参加する前から、地域交流について施設で何かできないか模索していました。そんな折、町内会の秋祭りで行われている引き太鼓が施設の前を巡行するのを見かけ、これを利用しないのはもったいないと、前の施設長と当時の現場責任者であった私が、町会長宅を訪ねご相談しました。

検討の結果、町内会の秋祭りの太鼓巡行の際に、休憩も兼ねて施設に立ち寄っていただけることになり、利用者と地域の方々が交流できる場を設けることができました。
平成24年から今年で６回目を数え、毎年恒例の行事となっています。

駐車場の広い敷地が交流の場に

秋祭りが近づくと町内会の方々と打ち合わせを行ったり、町会長のお宅にご挨拶に伺ったり、当日の朝には、本部となっている自治会館にお酒を奉納するなど、町会の一員としてかかわっています。

会場となる施設の駐車場には、利用者の観覧スペースや地域住民の方々が休めるパイプ椅子スペースなどを設け、その対面に大太鼓を設置して、演奏の披露や実際に太鼓をたたく体験をしてもらっています。

また、施設の駐車場はかなり広い敷地となっているため、ポールを設置したり人を配置したりしています。町内会の引き太鼓は道路も通るため、警察官や警備員の方々が付き添うこともあり、安全面は確保されています。

子どもから大人まで太鼓から生まれるつながり

年々秋祭りへの参加人数も増え、特に子どもが多くなってきていることは、地域の将来にとっても喜ばしいことです。平成24年の開催時、40個用意していたお菓子も、今年は100個以上用意するなど、施設でのお菓子配付の認知度が上がっているようです。利用者

の方々にとっても子どもと触れ合うことができるため、楽しみの１つになっています。

利用者の中には、以前に地域の太鼓の団体に所属をされていた方や、お祭りの関係者だった方もいらしており、利用者と懐かしそうに話されている様子なども見受けられます。また、この大太鼓をたたくことも楽しみにされている方もいます。利用者を楽しませてくれようとして、たたく際は大勢の地域の方々が「よいしょ」とかけ声をかけてくださいます。

また、立ち寄りの際に休憩として、トイレを利用するために初めて施設内に入られることで、「外からだとわからなかった部分が見られてよかった」という声もいただき、施設を身近に感じていただけるようになったと思います。そのため普段の日でも、ときどき地域住民と思われる方が、トイレを借りに普通に立ち寄っていただけるようになりました。

課題は、巡行の途中で立ち寄っていただいている関係上、昼食の時間に重なってしまうこと。施設長、相談員や現場の主任などが取り組みの中心となり、他の職員を多く割けないことです。施設の前にも立ち寄り箇所があるため、そこを出る際に町会長が電話を入れてくれますが、巡行の途中での立ち寄りのため、到着時間が少し前後してしまい、時間が読めずせわしなくなることもあります。今後町内会と検討していきたいと考えています。

私たち施設が地域によりそうことで、ちいきの輪をつくることが大切だと改めて感じています。これからも継続して「つながれ ひろがれ ちいきの輪」のキャンペーンに参加していきたいと思います。

ポイント

- 地域の伝統行事とコラボしたこと、町会の一員としての立ち位置で参加。
  - ⇒ 施設で行う特別なことではなく、従来行われている地域に馴染のあるお祭りに施設として協力できたことで、一体感が生まれた。また、施設から地域に歩み寄ることで、距離感が縮まった。逆に地域から施設へも話がしやすくなる関係が構築できた。

実践事例

施設のもつ強みを生かす「ももの木トレーニング」

鈴木　伸亮さん
（社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター）

詳細はP50

区の事業から施設の取組みへ

私は、生活相談員として認知症対応型のデイサービスを主に担当しています。今年の４月にこちらに異動してきたので、担当になって感じたことを率直にお話したいと思います。

「ももの木トレーニング」は、施設の機能訓練室と筋トレマシンを利用して、介護認定を受けていない地域の高齢者の介護予防と、集いの場として外出やコミュニティづくりを目指した取組みです。

始めたきっかけは、平成18年度より杉並区から介護予防の受託事業として実施していた、筋力アップトレーニング教室です。

教室を開いていくうちに応募者が増え、次第に抽選にもれてしまう方もいらっしゃいました。１度もれると、３か月ぐらい間が空いてしまうため、仲良くなった方と継続して運動ができたらという声があがる中、施設を活用できないかという話がありました。そこで特養の方がリハビリで使っている部屋を週１回開放して、自由に使っていただく活動を始めました。

利用料は１回100円で、マシンの年１回のメンテナンス費用に充当しています。午後１時半から４時半までの間、好きなときに来て、好きなときに帰っても構わない、自由なスタイルで活用していただいています。

最初の利用の際に、同意書にサインをいただいています。あくまでもご自身の活動なので、万が一けが等があってもこちらでの責任は負いかねます、という内容のものです。その後はいつでも利用が可能です。このトレーニングには機能訓練指導員や相談員は常についていません。自主トレーニングになるのですが、私たちが気づいたときに、マシンの動かし方や負荷のかけ方といった簡単な説明などを行います。また常連の方を中心にベテランの方とのコミュニティができあがっており、「新しい方来たわよ」と職員に声をかけてくださったり、マシンの使いを新しい方に教えてくださったりと、さまざまな形で輪が広がっています。

活動を続けていくための新たなきっかけ

今までは利用される皆さんの口コミとともに活動も広がっていたのですが、以前よりも参加される方が徐々に減ってきています。そのため、今後どう宣伝をしていくか、ということが課題となっています。そうした中、今年の秋頃から、障害者雇用支援事業団の就労支援の一環として、水曜日の午後、特養のロビーで無料コーヒーの提供が始まりました。トレーニングを終えた方がコーヒーを飲みながら、一緒に来た方と話をされるという機会が生まれつつあります。

この事業を継続していく上で、地域の皆さんの力によるところが大きいので、トレーニング以外の付加価値、例えばコミュニケーションの場をつくることを通じて、今後も皆さんのコミュニティとなれるよう、願っています。

ポイント

- 施設設備の有効活用の一端として地域の方に開放
  - ⇒ トレーニング機器の購入等に費用が掛からないため、コストを気にせず行うことができた。
- 事前に了承を得た上での自己責任での利用
  - ⇒ 職員の負担が軽くなることで長く続けることができる。また、事前に自己責任と言うことを明確にしているため、自主性を高めることができた。また、過剰に職員が介入しないことにより、参加者同士の助け合いが生まれる、経験者が初心者に教えるなど、参加者のモチベーションの向上に良い影響を与えている。
- 参加要件がない
  - ⇒ 要介護認定者であってもなくても、参加することが可能なため、知人同士で誘いあうことができる。

実践事例

新しい取組み　はじめてみました 「日野市認知症月間『だれでも交流広場』内 『お食事お困りごと解決コーナー』」(開催:日野市内特養)

正木　直子さん
（社会福祉法人マザアス マザアス日野）

詳細はP42

取組みをはじめたきっかけ

日野市では、毎年９月に「認知症月間」という市民に広く認知症について知っていただく企画を行っています。おととし、その取組みに参加した際、とても賑わっていて、日野市民の意識の高さを感じました。そこから、自分にも何かできないかという考えで始めたのが、今回の取組みのきっかけです。

日野市は、交通の便の良さや自校式の学校給食があり、地価が立川市や国立市に比べて安いことから、日野市で育ってそのまま子育ても日野市でという方が非常に多い印象があります。ファミリー世帯が多いですが、高齢者が少ないわけではありません。要介護高齢者は年々増えており、特別養護老人ホームは現在市内に６施設あります。人口18万人に対して６施設の入所定員数は567名です。

大切にした３つのこと

今回の取組みを始めるにあたり、私自身が大事にしたいことが３つありました。一つ目は楽しいこと、二つ目は６人の栄養士でやれること、三つ目は継続できることです。

当日は「お食事お困りごと解決コーナー」というブースを設け、非常に盛り上がりました。実際にはここにたどり着くまではいくつかの壁がありました。一つ目の壁は日野市でした。取組みを始めるとき、一番に市の担当者に相談したところ、非常に喜ばれ、「せっかく専門職が６人集まるのだから、摂食嚥下について勉強会をやってほしい」と言われました。日野市はその分野でも非常に力を入れていましたが、その反面、そこに市民のニーズが本当にあるのかなと思いました。毎年続けられるのか、自分たちのやりたいことを考慮した結果、お断りしました。その分、自分たちのコーナーの責任がより重くなりました。

２つ目の壁は、市内の施設でした。他の施設に協力をお願いするために電話で栄養士さんに連絡をとったところ、すぐにはつながらず、施設長あてに依頼の文書を作成することになりました。近隣の施設と連携するにあたり、こうしたことも時には必要だと勉強になりました。

３つ目の壁は、自分自身でした。昨年10月、最初の会議が無事に終わったあと、自身の身内に不幸がありました。こういう経験をした方はわかると思いますが、私自身非常につらく、この企画を今年はやめようと思いました。しばらくして、この企画の締切の５月末に、もう一度考え直し、私がここで頑張ると喜んでくれる人がいるということに気がつきました。そこでもう一度仲間の栄養士に相談して、やってみたい思いを伝えたところ、皆喜んでくれて、その後の動きは非常に早かったです。

チームワークの秘訣は１人１人を考えることから

発想したことに対して具体的に、この人はきっとこれが得意だな、この人はパソコンが得意だな、この人は若い栄養士さんでまだ経験が浅いので、受付をやってもらったら良いかなと考え、やってほしいことをどんどんお願いすると、皆動いてくれました。

業者も手伝ってくれることになり、認知症カフェの中でいちばん華やかで明るいブースをつくることができました。何より参加した市民の方から、「特別養護老人ホームの食事ってこんな食事を出しているの」「バランスのとれた食事ってこういうことなの」「とろみってこういうものなのね。早速買っていって入院している父に使ってもらおう」という声があがり、３時間のブースは、充実した時間となりました。終わった後に、６人の栄養士が皆「とてもよかった」「またやろう」という話に自然になったこともあり、私自身は一歩踏み出せたと感じました。

栄養士が施設で接している高齢者は市民の一部でしかなく、地域の自宅で暮らしている方がほとんどです。そうした実態をもっと栄養士にも伝えて、狭いところから広いところ、市民の中に出て行こうよと発信していきたいと思っています。

そして今後も仲間とともに一歩ずつ実績を積み上げていきたいです。

ポイント

- チーム内でのモチベーションの保ち方
  ⇒ 楽しみながら取組めることは苦にならなく、継続した取組みにつながる。
- チームが一丸となれる環境づくり
  ⇒ 頑張ると喜んでくれる人がいることで、チームのメンバーや職場の上司と同じ目的を共有することができた。

実践事例

施設内に理解を深める ～高齢者施設がつくる親子の輪～ 「こどもランチ in ひのでホーム」

関澤　孝文さん
（社会福祉法人芳洋会　ひのでホーム）

詳細はP76

特養を子どもたちが集まるところに

日の出町は、人口が１万７千人ぐらい。子育て支援に力を入れており、子育て世代が少しずつ増えています。また、ショッピングセンターができたり、近隣に公立の病院があったり、住みやすい町となっています。

その中で、ひのでホームは、「こどもランチ」という取り組みをしています。半年に１回程度、地域の親子が集まり、施設の調理師が作った食事を食べながら交流する場です。今年で３回目を迎えます。

きっかけは、施設長が出席した民生委員との集まりで、こども食堂の話題があがったことです。いきなり個人宅を開放して行うのはハードルが高く、日の出町では、まだ実施できていない状況でした。ただ、「子どもが気兼ねなく集まれる場所があるといいね」と話していく中で、「施設のホールが土日は空いていますよ」との施設長の提案から、イベントが動き出しました。特別養護老人ホームといった施設は用事がなければ行かないイメージがありますが、そこを脱却したいという思いをずっとあたためてきたことも背景にあります。

スタッフの持ち味を活かす

すすめるにあたってまず、施設内の協力者を募るために若くてフットワークの軽い職員に声を掛けました。ひのでホームでは、平成14年から毎年新卒を採用しており、介護職員は20代が中心です。柔軟な考え方や自由な雰囲気を持つ方が多く、協力を促しやすい状況でした。また食事については、外部委託ではなく、厨房で調理員が担当しているため、相談しやすく、自慢の料理を地域の人にふるまう機会ができるということで、モチベーションがあがりました。２人の担当のうち、１人はお菓子づくりが得意だったのでそれを活かしたものにしました。

外部との調整や広報においてはケアマネジャーが担当し、町や社協、学校などの公益団体、そのほか地域に向けてイベントの開催を告知しました。

そうしたスタッフそれぞれの知識、経験を活かしたいという思いをくみとりながら、自己表現の場として、一役買ってもらえるように機会をつくることを意識しました。

町や社協のような公益的な団体の協力が得られていると、安心して、子どもやお母さん

たちが集まってきます。「つながれ ひろがれ ちいきの輪」のキャンペーンに参加し、冠をつけたのもそうしたことが理由の１つです。費用については、食事代として100円を参加者からいただき、日ごろおつきあいしている食品業者に協賛してもらうことでまかなっています。

それから、子どもが楽しめるプログラムをみんなで考えました。子どもやお母さんたちに大変人気があり、保育園・幼稚園の先生たちも歌って踊れるグループ「マウンテンズ」に催し物をしてお願いしました。そのほかカラオケや、以前流行った妖怪ウォッチのダンス・AKB48の恋するフォーチュンクッキーをダンスをプログラムに入れたところ、皆知っていることもあり、簡単に踊っていました。

１回では終わらせない、次につなぐしかけづくり

当日は、子どもたちがとても楽しんでいて、お母さんたちも食事がおいしいと言ってくださり、その後、リピーターになってくれることもありました。ボランティアで来てくれた民生委員の方からは「地域での暮らしに心配していた家族が来て、和やかに過ごしていたので安心しました」という声もありました。

こうしたイベントが１つのきっかけとなり、特養という施設が何気ないことでも相談ができて、力になってくれることを、参加してくれた方たちが感じてもらえれば何よりだと考えています。

また、今後別のイベントへの参加に向けた仕掛けづくりも行いました。11月に町で産業まつりがあるため、こどもランチの参加者に無料券を配布したところ、産業まつりに20組ほど来てくれました。

大切にしたのは、それぞれの強みを活かすというところを意識し、細かく動いて理解を深めてもらいながら、協力を求めること。それから、イベントをつくるというのは、人手や労力が必要なため、すでにある取組みから視点を変えてイベントにするということ。取組みの中で、つながりを少しずつ広げていくうちに、「施設の中だけで、介護だけをすればいい」という時代ではなくなってきているように感じています。これからも柔軟な考えのもとで横のつながりを大切にしながら、手を伸ばして、仲間とともにすすめていきたいと思います。

ポイント

- 特養がまずできること考えて実践
  ⇒ 子ども食堂を自分たちだけでやるのは、ハードルが高いという地域の人の声に対して、できることを提案した。
- 社会福祉協議会、地域で活動しているグループと一緒に実施
  ⇒ 元からある、または今回の企画をするなかで出会った組織や人と、一緒に企画を練り、実施することで、つながりとひろがりが生まれている。
- できることをやり、そうでない部分は、他におまかせ
  ⇒ 法人の特色である、スタッフのフットワークの軽さと調理を自前で行っている点や得意なことを活かした。

実践事例

同じまちの事業所が連携「もう一つの敬老会」

（開催：瑞穂町通所介護事業所連絡会）

的場　一信さん
（社会福祉法人常盤会 高齢者在宅サービスセンターみずほ）

詳細はP153

地域のみんなで一緒に敬老会を

瑞穂町は西多摩郡にあり、横田基地が隣接した小さな町です。人口は３万3,306名、65歳以上の高齢者が9,127名、高齢化率は27.2％の地域です。

この町には、デイサービスの事業をやっている施設が全部で８施設あり、瑞穂町の高齢課を一緒に巻き込むような形で、５年前に通所介護事業所連絡会を立ち上げました。ここで「もう一つの敬老会」を主催しています。

日ごろ、連絡会ではデイサービスで抱えている問題の共有や、情報交換を行っていますが、３年前に敬老会に関する話題があがりました。町で行われている敬老会にデイサービスの利用者や、要介護状態の方が出席したくてもなかなかできないというものでした。そこで、皆と一緒に考えたところ、連絡会で同じ規模のものをつくろうと、地域住民と一体となった敬老のお祝いをすることになりました。

早速、デイサービスの職員による実行委員会を立ち上げました。最初に会場として1,010名収容できるスカイホールを押さえました。何度も足を運び、お借りすることができました。

会場使用料以外の会場の備品や楽屋用お茶菓子などの費用は、連絡会で事業所の規模に応じて費用を折半して集めました。残ったお金は社協に寄付しています。第１回は認知度がなく、340名程度の来場者で、第２回、第３回と同じような内容のものを行いましたが、デイサービスの利用者ばかりで、地域住民を巻きこんだようにはとても思えない状況でした。

チャンスは１枚のファックスから

そうした中、今年の企画についての話し合いが始まろうとしたころ、１枚のファクスが送られてきました。それはテレビ朝日福祉文化事業団のプロの歌手による高齢者施設訪問事業の案内でした。だめもとで応募したところ見事当選し、プロの歌手２名の方を無料で手配していただくことになりました。今回は、地域住民と一体となった敬老のお祝いをすることが目標だったので、来場者を増やすために寿クラブ連合会という老人会の会長さん

に、実行委員会に入っていただきました。

協力体制については、連合会から、当日の受付係を２名、JA西多摩瑞穂支店と瑞穂町社会福祉協議会、町の特養から９名を駐車場の誘導係、会場近くの保育園の園長には防火扉の担当をしていただきました。町の高齢課に町長の祝辞の依頼、町議会議員の出席の調整もお願いしました。

また、地域包括支援センターには当日の受付と、チラシ・ポスター配りもお願いしました。高齢者が集まりそうなところ、病院、薬局、コミュニティセンター、野菜の直売所、農協、銀行、スーパー、ディスカウントストア、最寄りの駅などにポスターを貼りました。

それから町役場にはホールのステージの上につり下げる看板の製作を、福祉用具を取り扱う会社の社長には総合司会をお願いする、といったようにいろいろな方を、大勢巻き込んだ形でお願いいたしました。

取組みにおける本当の成功とは

あいにく、当日は雨でしたが、開演２時間ぐらい前にはすでに20名ぐらいの一般の方が並び始め、デイサービスの利用者が到着するころには、ロビーは数百名の方で混み合っていたという状況でした。

開演中はプロの歌手のトークがおもしろく、爆笑の連続で、見に来てくださった方に喜んでいただきました。来場者数は550名を超え、数からみても、第４回のもう一つの敬老会は成功だったのですが、敬老のお祝いとして、心から大いに笑って喜んでいただいたことが本当の大成功だったと思っています。

思い返すと、連絡会が主催となってできたことが大きかったと感じています。小さな町ですので施設間のつながりが強く、日頃から常に皆の顔がみえて、事業所の施設長、町の高齢課の係長などと、気さくに相談しあえる関係があったためです。皆さんに同じ目標をもって実行委員会に入ってもらい、それぞれが役割をしっかり果たしたことが成功につながったと思っています。

ポイント

- 日頃から顔の見える関係
  - ⇒ 小さな町という環境もあるが、日頃から各団体が顔の見える関係にあり、気軽に相談できる状況にあるため、実際に行動に移すのが早い。また、お互いのことを知っているため、多くの団体を巻き込み、それぞれの得意なことの割り振りができていた。
- 目標の共有
  - ⇒ 各団体が同じ目標を持つことで各団体がやるべきことが明確になった。

実践事例

地域の声によりそう「杜松地域密着型多機能ホーム『のんきの日』スペシャルデー」

津田　敬子さん
（社会福祉法人若竹大寿会 品川区立杜松ホーム）

詳細はP39

小学校が高齢者施設に生まれ変わった

杜松ホームは、廃校の小学校をリノベーションした高齢者施設です。同じ建物の中に、他法人の在宅介護支援センターとホームヘルプの事業所が入っており、１つの建物の中に３法人が地域を支援しています。

この小学校は、133年の歴史があり、地域の方にとって、自分たちの大切な小学校がなくなり、とてもさみしいという思いがありました。

その中で受け入れていただくために設計の段階から考えたことは、会議室を貸出し、地域の方々が大好きなカラオケができる防音壁のある部屋をつくり、使っていただくことでした。今では貸出しの部屋をはじめ、体育館、グラウンドは、ほぼ毎日誰かが利用されているという状況です。

１人への支援からみんなの活動に

その中で「のんきの日」は、地域の方々とともにすすめていく取組みとして始めました。かつて近所にあったのんき通り商店街より、親しみを込める意味で名前を貸していただいて、「のんきの日」と名づけて講座を開設しました。

１年目は、地域で末期がんの方を講師に招いた趣味の講座から始めました。講師の方自身が余命を宣告され、外に出づらくなってしまった中で、残り少ない時間で生きがいをもてる機会として、空きスペースで手芸の講座をやっていただくというものでした。

２年目にその方がお亡くなりになりましたが、近所の方から続けてほしいという声があり、講座とお茶を飲んで帰る「のんきの日ゼミ＆カフェ」として、月１回実施するようになりました。

次第に１回あたり30名以上、近所の方が参加されるようになり、講座を次々と実施するようになりました。はじめは、警察に依頼して、詐欺の被害に遭わない講座、夏休みは、学校の部活動として防災に関わっている地域の高校生に協力してもらい、AEDの実習など、講師料のかからないもの中心に、定着させていきました。

ちょうどそのころ、民生委員が自主的に参加者の出席状況を確認してくれたり、カフェのお茶を運んで振る舞ってくださったりという動きがみられるようになりました。

施設の長年の想いを地域に届ける

３年目を迎え、認知症カフェをやりたいという長年の思いから、施設入居が必要な認知症の方々、周辺症状が重い方々に対するケアを地域の方に知っていただくような講座を取り入れました。具体的には、管理栄養士が、高齢者になっても元気な食生活を送るためのヒントを得られる講座を行うなど、施設の強みを活かした講座を実施しました。

そして、大きなイベントとして、地域の介護保険の事業所が集まり、体育館を使って今回の「のんきの日」スペシャルデーの開催に至りました。

介護保険事業所が一同に集まって、テーブル１個と模造紙１枚を使い、事業所の紹介、健康チェック、成年後見の相談など地域の支援として、こうした事業所があることをPRしました。それだけでは集客はできないので、野菜の即売会、消費者センターの粗品配布、障害をもつ方々がつくったお菓子の販売コーナーも取入れ、品川区から認知症対策のゆるキャラに来てもらったりと、にぎやかな会になりました。

歩き回ることで知った地域のいま

参加者に事業所のことを知ってもらうためにブースを設けたのですが、地域の方も高齢者が多いこともあり、体育館の中央にある休憩スペースに、１回座るともう動けなくなってしまわれました。本来であればブースで地域の様子をうかがうアンケートをとる予定でしたが、在宅介護支援センターのスタッフが急遽、ホワイトボードを転がしながら皆さんの中に入っていって地域の強みや弱みを聞いて回りました。

その中で、「大きなスーパーが閉店したので不便になった」「ポストが少ない」「歩道が狭い」というような声がたくさんある一方、「町会が大変よくやってくれるのでとても住みやすい」という生の声が出ました。

民生委員さんたちとの話し合いの中で、なかなか地域の中に出て来られない方にアプローチをしていかないといけないということが課題としてあがりました。

今後は、イベントを通じて集まった地域の声や情報を、地図に落とし込む作業に入っていく予定です。介護保険の事業所だけではなく、出前をしてくれるお店、電球を取りかえてくれる電気屋さんなど、地域の方々がよく知っている情報も集めて地域の情報マップとしてつくりあげていければと思っています。

介護保険の事業所として、お互い交流も図れるようになりましたので、専門職としてこれからどんなことを行っていくか、話し合いながらすすめていければと思っています。

ポイント

- 一人の方のニーズを大切に

  ⇒ がん末期の方の要望をしっかりと受け止めるような個人を大切にする思いは他の地域の方にも伝わる。また、終末期の支援は職員の成長・達成感につながる。

Ⅲ

キャンペーン実施に至るまで

～2017年度のふりかえり～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO とは？

東京の高齢者福祉施設がお互いに協力しながら、地域によりそうためのイベントや交流会を各地で一斉におこなうキャンペーンです。

地域包括ケアを推進し、だれもが安心して暮らせるまちづくりのために、地域で暮らす方々がつながり、その輪がひろがることをめざしています。

豊かな暮らしを支えるしくみが整えられていく中で、高齢化の進行、社会的な孤立の問題、生活への困窮などが課題となっています。

そこで、「地域の中で、制度の狭間でこぼれ落ちる人がいないよう、一人ひとりによりそうこと」「一人ひとりの生活を、点（サービス）のみではなく、面（ネットワーキング）で支えるための『ちいきの輪』をつくること」を展開するための１つとして地域の多様な人びとをつなぐ取組みを行っており、今回で２年目を迎えます。

2017年度　キャンペーン実績
実施期間　2017年９月１日～11月30日
実施数　都内44区市町村で131事業・835団体
参加数　のべ39,711名

※詳細はP174

「Ⅳきっとみつかる！あなたのまちの『ちいきの輪』（P35）」では、今年度のキャンペーンにおける各施設・事業所の取組みについて下記のテーマ別で掲載しております。

キャンペーン取組みレポート　テーマ一覧

	テーマ	内容例
Ⅰ 高齢者を支える	1　認知症	・認知症カフェなど認知症高齢者やその家族を対象とした事業
	2　介護予防・高齢者支援	・介護予防教室など高齢者を対象とし、閉じこもり防止や交流を目的とした事業
	3　アウトリーチ	・高齢者や地域住民を対象とした訪問・見守り・配食活動
Ⅱ 多世代交流を支える	4　相談・家族支援	・福祉や介護に関する相談の場の提供 ・介護をする家族を対象とした講座
	5　カフェ・居場所	・多世代を対象としたカフェなど、地域住民の誰もが交流や食事ができる場所の提供
	6　学びの機会	・地域住民に対する学びの場の提供
Ⅲ 地域を支える	7　地域団体との協働	・１施設だけでなく自治会や学校等、地域団体やその他の団体と複数で協働して行っている事業
	8　地域交流	・地域住民を招き、交流する事業
	9　防災	・防災訓練や福祉避難所など、地域の防災に関する事業

高齢者福祉施設・事業所での取組み例

日野市認知症月間「お食事お困りごと解決コーナー」

ショッピングセンターでの認知症普及啓発イベントでの施設の食事展示と栄養士による相談コーナー。
日々の食事が認知症予防につながることに気づくきっかけをつくっています。
（日野市内特別養護老人ホーム（６施設）の栄養士／日野市）

詳細はP42

町会合同炊出し訓練

施設と町会との応援協定による、大規模災害発生を想定した炊出し訓練。
毎年続けることで相互の協力関係を深め、まちを守るために一緒にできることを考えています。
（特別養護老人ホーム　みどりの苑／板橋区）

詳細はP93

小松の杜の介護体験塾

小学校の総合学習の一環として学校の授業計画にも盛り込む形で毎年実施しています。
子どもたちが介護や福祉に触れ、地域で暮らす高齢者について学ぶことで、将来の地域担い手を育てています。
（特別養護老人ホーム　小松原園／八王子市）

詳細はP163

着実な根づきを見据えた新たな試み

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 実行委員長
今　裕司
社会福祉法人 秋川あすなろ会
あすなろみんなの家 施設長

■２年目を振り返って

昨年度、“高齢者福祉・介護に関わる社会福祉法人・施設・事業所として、地域の方々に向けた活動を展開し、その実績を広く知っていただく取組みが必要では？”といった思いからスタートした「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の、２年目の活動が終了しました。

2016年度の活動を踏まえ、今年度は、より多くの施設・事業所の参加と都内全ての自治体での実施、複数施設･事業所での協働や住民組織等他機関との連携による活動の推進、といった目標を設定し、ワーキングチーム内で検討を重ねました。

その結果、①敬老行事等が多く行われているであろう９月をキャンペーン期間に組み入れ９月～11月の３か月間とする、②３つ以上の法人・事業所が共同で取り組む活動について活動費の補助を行う仕組みを作る、といった工夫を加えました。

また、他施設の取り組みを知って頂く機会づくりとしての「見学会」の企画や、キャンペーンのPRをするための「キックオフイベント」といった取組みも行いました。

2017年度の実績は、取り組みの行われた自治体数が44（前年度比＋５）、131事業（前年度比＋10）、参加団体数が835（前年度比－144）、延べ参加者数39,711名（前年度比＋20,532）となりました。（詳細は資料編を参照ください）

目標としていた全自治体での実施がかなわなかったこと、実施自治体数・事業数ともに微増にとどまったことは残念でしたが、延べ参加者数が大幅に増加した事など成果も挙げられました。

複数施設・事業所による大規模なイベント開催や、週単位・月単位で定期的に開催している取り組みでのエントリーが見られたことや、高齢協の「アクティブ福祉in東京」との連動企画（研究大会への招待）、イベント会社との連動企画（イベントへの招待）といった新たな取り組みも行われました。

歩みはゆっくりかもしれませんが、確実にすそ野が広がり、活動のバリエーション・質ともに充実してきていると感じています。

一方で、まだまだ克服すべき課題も残っています。一番の課題は、およそ1,200を数え

る高齢協の会員施設・事業所数に比して参加施設・事業所がまだまだ少ないこと、いまだ取組みの行われていない自治体が存在していることです。

昨年度の報告書でも触れましたが、キャンペーンの目的や意義等の理解がいまだ十分に行き届いていないことと、施設･事業所の運営環境の厳しさが大きな理由と考えられます。担当者の苦労として「他の職員の協力を得るのに苦労した・時間がかかった」という声が多くあがっていることも昨年度と同様の課題です。

その他、「昨年度と同じ活動では参加できないのでは」「昨年キャンペーンに参加したから今年は申し込まなかった（継続していると思っていた）」といった声をお聞きすることもあり、私たちの説明不足や工夫の必要性を感じる部分もありました。これらについては、次年度以降に工夫が必要だと考えています。

■キャンペーンのこれから

ワーキングチームでは、平成30年度のキャンペーン実施に向け、すでに準備が始まっています。

３年目は、何事でも一つの区切り・勝負の時期と言えます。2018年度こそ、参加のない自治体が無くなり、より多くの施設・事業所の参加を得て活動が展開されることを目標としています。

また、複数施設等での協働をより推進するとともに、例えば養護老人ホーム・デイサービスセンターといった高齢協の分科会・分会、地域ブロックなどでの共通の取り組みを行うといった工夫を加えていきたいと考えています。

さらには、児童・障がいといった高齢協会員以外の福祉施設等との協働・営利企業やNPOなどとの協働も進めていきたいと考えています。

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」キャンペーンが高齢協の取り組みとして定着・進化し、「多様なつながりをもって大きくひろがる」ことで、「地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまち」づくりと、社会福祉法人や高齢者福祉施設・事業所に対する「信頼と評価」という成果が得られることを願っています。

実施担当者向け説明会

日　　時　2017年6月14日　13：00～17：00
会　　場　研究社英語センター地下２階大会議室
参加人数　60名

内　　容
〔あいさつ〕
今　裕司さん（東京都高齢者福祉施設協議会 副会長・センター分科会長）
〔実施担当者向け事業説明〕
〔基調講演〕「高齢者の暮らしを支える地域の中での施設の役割とは!?」
奈良　高志さん（社会福祉法人芙蓉会 総合福祉ホーム 本部事務局 課長、
社会福祉法人洛和福祉会 東京事業所 顧問）
〔事例報告〕「地域住民とのネットワークづくりのコツ」
事例１「地域のお祭りへの関わり、認知症カフェの立ち上げ」
坂井　祐さん（博水の郷 地域公益活動室 室長）
事例２「楽夢食（らくむしょく）、げんき食」
佐藤　悦子さん、川戸　由美 さん（栄養ケアステーション愛全園　管理栄養士）
〔情報交換会〕

キャンペーン開催前に、実施担当者向け説明会を開催しました。各地域の施設・事業所の実施担当者が集まり、顔を合わせて、それぞれの取組みを共有しながら、課題や解決のための方法をともに話し合いました。

基調講演では、奈良高志さんをお招きし、高齢者福祉施設が地域によりそっていく動きがすすめられている背景を、社会や制度の流れからひも解いていき、そのためにできることについてお話しいただきました。

事例として２つの施設より、地域とつながり、多様な暮らしのニーズに向かっていく取組みについて地域の人たちとどうやって関係性を築いてきたか、施設としてどう受け止めて、行動に起こしてきたかを具体的な実践よりお話しいただきました。

情報交換会では、施設として地域によりそった取組みをどう新しく展開するか、今までの地域とのつながりを広げるためにどう一歩を踏み出せばよいのか、という部分にポイントをおいて、悩みや解決のヒントを共有する機会となりました。

参加した施設・事業所担当者の声

・地域との交流について、具体的にイメージがわきました。
・自分の施設以外の取組みをたくさん知ることができました。
・情報交換会を通じて、一法人で考えず、地域で考えつつ、事業所間での共通ニーズの共有と、それぞれの目的をもち参加することが、新しいと感じました。

奈良さんの基調講演の様子。

情報交換会の様子。事例報告された方もグループに加わり、にぎやかに話し合っていました。

見学会

開催内容（全３回）

第１回　ふれあい食事サービス
　日　　時　2017年９月１日　10：00～11：00
　会　　場　特別養護老人ホーム愛全園
　参加人数　６名
　　※キックオフ記者会見としてメディアを対象に開催

第２回　町会合同炊出し訓練
　日　　時　2017年10月５日　10：30～12：30
　会　　場　特別養護老人ホームみどりの苑
　参加人数　16名

第３回　エドガワスマイルコミュニティまつり
　日　　時　2017年11月25日　10：30～12：30
　会　　場　社会福祉法人江東園法人本部、江戸川コミュニティ会館
　参加人数　６名

キャンペーン開催期間中に、初めての試みとして見学会を開催しました。高齢者施設や事業所で地域によりそう活動を展開している方が、実際に目で見て地域のアウトリーチの実践を学べる場をつくることを目的としています。今回は、３か所の見学会を実施し、実施事業の見学や取組みにかかわっている方からの活動から感じた地域の姿、活動で大切にしていることなどをお話しいただきました。

参加者の中には、施設・事業所の担当のみならず、メディア関係の方もおり、地域によりそう活動を、各地の高齢者福祉施設で思いをあたためながら取組んでいることを広く伝えていく機会にもなりました。

見学会の中で見えてきた地域住民や取組みの実情は、つなひろワーキングチームで検討を重ね、次回以降のキャンペーンの実施に活かしていきたいと思います。

見学会当日の様子

ふれあい食事サービス

ボランティアの方に、バランスの良い食生活を送ってもらいたいという思いから始まった、施設の強みである栄養管理に着目した配食サービス。
地域の担い手となる方の暮らしを支えることで、施設の取組みに広がりを持たせることができることを学びました。
（特別養護老人ホーム愛全園／昭島市）
詳細はP60

町会合同炊出し訓練

前野町町会と20年以上続いている取組み。薪で火をおこし、おにぎりと豚汁を作り、懇談会が行われました。年間延べ5500人の方が施設ボランティアとして活躍していることもあり、日頃から地域住民との交流を大切にしています。日頃からの関係作りがとても重要だと感じました。
（特別養護老人ホームみどりの苑／板橋区）
詳細はP93

エドガワスマイルコミュニティまつり

数年前に中止された地域のお祭りを復活させようと、江東園と地域の団体が協力してイベントを開催。模擬店や地域活動に関する講演会など様々な企画が行われた。
地域とともにある施設のあり方について考える１日となりました。
（社会福祉法人 江東園／江戸川区）
詳細はP120

実践報告会

だれもが安心して暮らせるために
高齢者福祉施設ができること
～つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYOの取組みから～

※実践報告詳細はP６

日　　時　2017年12月22日　13：30～16：30
会　　場　研究社英語センター地下２階大会議室
参加人数　55名

内　　容

〔あいさつ〕
清野　哲男さん（つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム）

〔実践報告〕
事例１　施設も地域の一員として
「牟礼東町会秋祭り　太鼓巡行」（共催：牟礼東町会）
山本　悟さん（恵比寿苑）

事例２　施設のもつ強みを生かす
「ももの木トレーニング」
鈴木　伸亮さん（南陽園在宅サービスセンター）
「特養へ行こう！（交流会）」

事例３　新しい取組み はじめてみました
「日野市認知症月間『だれでも交流広場』内『お食事お困りごと解決コーナー』」
（開催：日野市内特養）
正木　直子さん（マザアス日野）施設のもつ強みを生かす

事例４　施設内に理解を深める～高齢者施設がつくる親子の輪～
「こどもランチ in ひのでホーム」
関澤　孝文さん（ひのでホーム）「ももの木トレーニング」

事例５　同じまちの事業所が連携
「もう一つの敬老会」（開催：瑞穂町通所介護事業所連絡会）
的場　一信さん（高齢者在宅サービスセンターみずほ）

事例６　地域の声によりそう
「杜松地域密着型多機能ホーム『のんきの日』スペシャルデー」
津田　敬子さん（品川区立杜松地域密着型多機能ホーム）

〔情報交換会〕「誰もが安心して暮らせるために高齢者福祉施設ができること」

〔まとめ〕
鈴木　博之さん（東京都高齢者福祉施設協議会 センター分科会副分科会長）

キャンペーン終了後に実践報告会を開催しました。実践報告では、今年度キャンペーンに参加した６つの取組みについて、多くの施設が悩みとしてあげていることを６つのテーマとし、それぞれの施設や地域の強みを生かしながら、地域の方と手を結ぶための苦労や工夫などをお話しいただきました。

今回は、誰でも参加できるよう報告会の参加対象を広げた結果、キャンペーンに参加できなかった施設、都内の区市町村社会福祉協議会のスタッフの参加もありました。また、昨年度よりも実践に沿った多くの報告があったこともあり、参加者は、地域の多様な団体との連携の可能性を見据えながら、来年度以降の取組みのアイディアが得られた様子でした。配布した事業レポートからは、地域の実情や課題、今後の活動の方向性についてそれぞれの視点から書かれており、キャンペーンのもつ意義を改めて確認する機会になりました。

参加した施設・事業所担当者の声

- 報告を聞いた上で、情報交換できたのが良かった。色々と悩んでいることはどの施設も同じことだと気づくことができた。
- 新しい事に取組む際の、施設職員の巻き込み方や、地域の方へのアプローチの仕方が分かって参考になりました。
- 地域貢献活動は施設側が一方的に提供するものにならないように、地域の方へのメリットや活動のテーマ設定が大事であると感じました。

津田　敬子さん（品川区立杜松地域密着型多機能ホーム）の実践報告の様子。

情報交換会の様子。実践報告の感想を共有し、今後に向けた活動について話し合いました。

高齢協全体での取組み

第12回高齢者福祉実践・研究大会「アクティブ福祉in東京'17」の都民向け無料招待

日　　時　2017年9月27日　9：20～17：00
会　　場　京王プラザホテル
招待人数　34名
参加人数　1,426名

「アクティブ福祉in東京」とは、東京都内の高齢者福祉施設･介護保険事業所等の職員が、日頃の介護現場での取組みや実践、施設全体での研究や個人・グループによる研究など、施設でのさまざまな取組みを学会形式で発表する大会です。79題の発表（口演およびポスター）に加えて、福祉関連企業による展示ブースやセミナーを開催しました。

今回は、東京都高齢者福祉施設協議会より、「つながれ　ひろがれ　ちいきの輪」キャンペーンの一環として、都内に在住在勤されている方を無料で招待しました。多数の応募がある中、当日は34名の方を招待し、一般都民の方が高齢者福祉の取組みに対する理解を深める機会となりました。

アクティブ福祉in東京'17発表の様子。

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム

開催内容（全４回）

第１回　2017年4月19日
　募集要項検討、実施担当者向け説明会企画検討
第２回　2017年7月19日
　応募状況確認、広報方法検討（パンフレット・キャンペーングッズ作成等）、見学会企画検討
第３回　2017年10月25日
　実施状況確認、実践報告会企画検討
第４回　2018年1月25日
　実施報告書企画検討、次年度実施計画について

キャンペーンの企画･実施にあたり、施設・事業所の施設種別を越えたワーキングチームを構成しました。それぞれ地域によりそう取組みの経験や身近な地域の状況を伝え合いながら、検討を重ね、実施担当者向け説明会や見学会、実践報告会の運営も行いました。今年度は新たに３名の方が加わり、初めての試みとして見学会を開催しました。ワーキングチームでは、毎回、参加する地域住民の方の暮らしがより豊かに、そして実施する施設・事業所にとって地域に求められる存在となるよう、「都内の高齢者福祉施設などが福祉や介護サービスが必要な高齢者だけではなく、だれもが安心して暮らせるまちづくりのためにできることとは何か」を日頃から考え、キャンペーンの意味を確認しながらすすめていきました。

ワーキングチーム活動の様子。

実施担当者向け説明会では、グループワークに入って一緒に考えることも。

ワーキングチームからの声～キャンペーンをふりかえって～

※所属は2018年3月時点

大脇秀一
とらいふ武蔵野

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」のワーキングチームの活動に参加して、施設や事業所から「この活動が本当に地域貢献になっているのか、疑問に感じながらやっている」という声が多く聞かれました。施設や事業所は、試行錯誤・暗中模索の日々で、地域活動に対する職員間の温度差が大きいことが共通した課題だと痛感しました。今後、いかに現場の職員がこうした活動に参加できる環境をつくっていくか大切になってくると思います。

小山正子
品川区中延在宅サービスセンター・
中延在宅介護支援センター

「福祉施設は特別な場所」多くの人が感じていたことだと思います。イベントを開催し地域の方たちと交流を図ることから始め、今では「身近な相談処」と認識されるようになりました。今度は、「来て」もらうことから、「出て行く」ことが必要になっていると感じています。どれだけ地域の力を引き出せるか、１人の力は少しでも、たくさんの力が集まれば強大な物になります。社会福祉法人の職員として、専門性と熱い心を持って地域と共に歩みたいですね。

外山恭子
桜堤ケアハウスデイ
サービスセンター

ワーキングチームでは、各地域の取組みの実際を知ることができました。長年実施している取組みにおいては、今あるかかわりから新しい接点をつくることでもっと広がったかかわりになる可能性を秘めています。例えば、デイサービスセンターに近隣保育園の園児が遊びにくる活動では、デイサービスセンターの利用者が保育園に遊びに行くような相互交流の機会をつくったり、共同作業で行える活動を実施し、イベントで発表したり、と工夫ひとつで活動に深みを持たせ、日々変化する地域のニーズに多様な形で応えていけるチャンスを生み出すことになると思います。

相澤和彦
高齢者在宅サービス
センター山吹の里

１年間ワーキングチームとしてキャンペーンの企画に参加し、それぞれの取組みが施設から地域への一方的な貢献活動ではなく、地域に施設が支えられることにもつながることを実感しました。キャンペーン時期以外でも日頃から地域住民と良好な関係を作り、お互いが気軽に協力し合える地域づくりを目指していきたいと思いました。

清野哲男
府中市地域包括
支援センターあさひ苑

昨年に引き続きワーキングチームとして「つなひろ」に参加させていただきました。キャンペーンがスタートした2016年度の初めは「嫌々」「渋々」での関わりでしたが、自分の法人内での地域への取組みを「ちいきの輪」という意味合いで改めて位置づけることができたこと、そして都内にある数多くの法人の様々な活動を知る機会をもらい、「好き」に気持ちが大きく変わりました。本当にみんなすごい素敵なことしてるんじゃないですか！

樋熊さとみ
偕生園

今年度は、施設見学会の実施や、振り返りの実践報告会では、各実践が非常にダイナミックなものが多く、キャンペーンの幅の広がりや充実ぶりを感じることができました。当法人においても、昨年エントリーした事業が新聞に掲載されたり、キャンペーン初日のキックオフ記者会見が当法人で開催されたりと、「つながれひろがれ」をきっかけに、法人事業を内外に大きくアピールすることができました。次年度もさらにつながってひろがっていけるよう期待しています。

野崎勝也
東京ボランティア・
市民活動センター

以前行われていた地域のお祭りを施設が中心となり開催していた取組みがありました。そこには地域に住む老若男女、外国にルーツのある方などが集い、新しい交流の場が生まれていました。「つなひろ」では、地域のボランティアグループや商店会、企業、自治会、民生委員、社会福祉協議会など、さまざまな組織や人が参画していける可能性を感じました。今、福祉施設は、もっと近寄りやすい場になっています。興味のある方や学生の皆さんなどに、ぜひ足を運んでいただきたいと思います。

今裕司
あすなろみんなの家

2017年度も多くの方々のご協力・ご参加をいただいて「つなひろ」が進められたことを、とても感謝しています。
ワーキングチームとしての会議や説明会等の準備などは大変な部分もありましたが、キックオフイベントや見学会などを通して他施設の取組みなどを知り、自分の視野も広がり自施設での取組みの参考になるなど「学び」も多く、楽しくやりがいを感じながら活動することができました。

Ⅳ

きっとみつかる！
あなたのまちの「ちいきの輪」
～キャンペーン取組みレポート～

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017 実施施設・事業所一覧

テーマ	No.	区市町村	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
認知症	1	品川区	複数	社会福祉法人若竹大寿会 品川区立杜松ホーム	杜松地域密着型多機能ホーム「のんきの日」スペシャルデー	39
	2	豊島区	特養	社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 菊かおる園	認知症カフェそよかぜカフェかもん（赤羽フォークソング倶楽部によるミニライブと茶話会）	40
	3	豊島区	特養	社会福祉法人七日会 千川の杜	らくゆうサロン千川の杜	41
	4	日野市	その他	日野市内特別養護老人ホーム（６施設）の栄養士	日野市認知症月間「だれでも交流広場」内「お食事お困りごと解決コーナー」	42
	5	東村山市	特養	社会福祉法人はるび	認知症カフェ＆施設見学会	43
	6	あきる野市	特養	社会福祉法人福信会 麦久保園	介護の日勉強会「もし、大切な人が認知症になった時、あなたならどうしますか？～認知症の理解と気づき～」	44
	7	福生市	特養	社会福祉法人福陽会 第２サンシャインビラ	認知症オレンジカフェ	45
介護予防・高齢者支援	8	豊島区	特養	社会福祉法人フロンティア 特別養護老人ホーム養浩荘	顔みて食べよう会	46
	9	豊島区	特養	社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム アトリエ村	アトリエ村としまる体操会	47
	10	台東区	デイ	社会福祉法人台東区社会福祉事業団 みのわ高齢者在宅サービスセンター	来食サービス	48
	11	中野区	特養	社会福祉法人中野区福祉サービス事業団 しらさぎホーム	いきいき しらさぎフェスタ 2017	49
	12	杉並区	デイ	社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター	ももの木トレーニング	50
	13	目黒区	特養	ボランティアグループ（協力：社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム東山）	交流サロンひがしやま	51
	14	八王子市	特養	社会福祉法人一誠会　社会福祉法人多摩養育園 社会福祉法人清心福祉会	八王子介護フェア	52
	15	日野市	デイ	社会福祉法人寿優和会 浅川苑サービスセンター	夕食お届けサービス試食会	53
	16	府中市	特養	社会福祉法人多摩同胞会	緑苑・安心シニア塾（専門講座）	54
	17	国分寺市	特養	社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホームミンナ	ぷらっとなみき	55
	18	昭島市	その他	げんき食実行委員会（協力：社会福祉法人同胞互助会）	「げんき食」健康フェスティバル2017	56
	19	武蔵村山市	特養	社会福祉法人村山福祉会 特別養護老人ホーム伊奈平苑	地域の高齢者を招いての食事会とミニコンサート	57
	20	武蔵野市	軽費	社会福祉法人武蔵野 武蔵野市桜堤ケアハウス	介護と福祉の地域広場	58
アウトリーチ（訪問活動）	21	日野市	デイ	社会福祉法人マザアス 高齢者在宅サービスセンターマザアス多摩川苑	マザアス多摩川苑　配食サービス	59
	22	昭島市	その他	社会福祉法人同胞互助会	ふれあい食事サービス	60
	23	日の出町	特養	社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜	配食サンキュー弁当	61
相談・家族支援	24	目黒区	特養	社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム東が丘	３つの高齢者施設見学会	62
カフェ・居場所	25	新宿区	特養	社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 特別養護老人ホーム 原町ホーム	Café Memory原町	63
	26	豊島区	デイ	社会福祉法人フロンティア 高齢者在宅サービスセンター山吹の里	仄仄（ほのぼの）カフェ	64
	27	豊島区	デイ	社会福祉法人フロンティア ディサービス長崎いずみの郷	いずみサロン	65
	28	豊島区	特養	社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム風かおる里	「押花で作ってみよう‼」	66
	29	板橋区	包括	社会福祉法人 小茂根の郷	毎週木曜日はシルバーデーinカフェ桜	67
	30	練馬区	特養	社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム	虹のカフェ大泉～子どもからお年寄りまで、楽しく心地よい居場所～	68
	31	目黒区	その他	なのはな結の会（協力：社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒）	ふれあいの居場所	69
	32	日野市	包括	社会福祉法人マザアス 日野市地域包括支援センター多摩川苑	たまカフェ	70
	33	日野市	その他	社会福祉法人マザアス マザアス日野	認知症コミュニティ「あったカフェ」二周年記念イベント	71
	34	日野市	包括	社会福祉法人寿優和会 日野市地域包括支援センターあさかわ	おしゃべりカフェ	72
	35	調布市	デイ	公益財団法人調布ゆうあい福祉公社 調布市国領高齢者在宅サービスセンター	「だれでもカフェこくりょう」「だれでもカフェぷちぽあん」	73
	36	調布市	包括	社会福祉法人常盤会 地域包括支援センター ときわぎ国領	「ときわぎCafé Green」「そめちこもれびカフェ」	74
	37	武蔵村山市	特養	社会福祉法人恭篤会 むさし村山苑	かたりば食堂	75
	38	日の出町	特養	社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム	子どもランチ in ひのでホーム	76
	39	福生市	特養	社会福祉法人もくせい会 ヨコタホーム	シルバー喫茶　たんぽぽ	77
学びの機会	40	板橋区	特養	社会福祉法人みその福祉会 ケアタウン成増	地域で学べる介護講座	78
	41	荒川区	デイ	社会福祉法人東京都福祉事業協会 荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター	介護者教室	79

テーマ	No.	区市町村	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
学びの機会	42	杉並区	特養	社会福祉法人真松之会 特別養護老人ホーム和田堀ホーム	試食会・施設見学会～わくわく特養体験～	80
	43	練馬区	特養	社会福祉法人キングス・ガーデン東京 練馬キングス・ガーデン	サポートネットワーク第３回シンポジウム	81
	44	大田区	養護	社会福祉法人東京蒼生会大森老人ホーム 大森老人ホーム	高齢者体験	82
	45	世田谷区	特養	社会福祉法人敬心福祉会 特別養護老人ホーム千歳敬心苑	特養へ行こう！	83
	46	三鷹市	デイ	三鷹市高齢者センターけやき苑　三鷹市西部地域包括支援センター	第17回　けやき苑地域サービスデー	84
	47	府中市	複数	社会福祉法人多摩同胞会 子ども家庭支援センターしらとり	しらとり学習サポートサロン　SKY	85
	48	昭島市	その他	社会福祉法人同胞互助会	楽夢食（らくむ）	86
	49	東大和市	複数	社会福祉法人多摩大和園	地域講演会「地域共生について考える～誰もがいつまでも安心して暮らせる街を目指して～」	87
	50	東村山市	その他	社会福祉法人東村山市社会福祉協議会 東村山市内社会福祉法人連絡会	東村山市内社会福祉法人連絡会　紹介パネル展	88
	51	青梅市	特養	社会福祉法人吹上苑 やすらぎの家	「学習障害のある中学生の学級会活動」「やすらぎの家」	89
地域団体との協働	52	文京区	複数	アクティブ介護29実行委員会	アクティブ介護29～文京みんなのつどい～	90
	53	豊島区	特養	社会福祉法人フロンティア 特別養護老人ホーム養浩荘	氷川神社祭礼	91
	54	豊島区	デイ	社会福祉法人フロンティア 養浩荘高齢者在宅サービスセンターいよけんの郷	いけよんプロジェクト	92
	55	板橋区	特養	社会福祉法人至誠学舎東京 特別養護老人ホームみどりの苑	町会合同炊出し訓練	93
	56	江戸川区	特養	社会福祉法人光照園 江戸川光照苑	江戸川光照苑マルシェ	94
	57	多摩市	その他	KAOFES実行委員会（協力：社会福祉法人大和会特別養護老人ホーム愛生苑）	KAOFES	95
	58	昭島市	複数	社会福祉法人同胞互助会　社会福祉法人ゆいのもり	すずらん喫茶 手作りパン販売	96
	59	武蔵野市	特養	関前なのはなサロン（協力：社会福祉法人プラットホーム 武蔵野館）	なのはなサロン	97
	60	武蔵野市	その他	吉祥寺南町コミュニティセンター（協力：社会福祉法人武蔵野 ゆとりえデイサービスセンター）	親子広場	98
	61	武蔵野市	複数	サンヴァリエ桜堤自治会（後方支援：社会福祉法人 武蔵野 武蔵野市桜堤ケアハウス）	よりあい食堂かよう	99
	62	東久留米市	施設連絡会	東久留米市内介護サービス事業者協議会	「介護の日」フェア2017～考えてみよう家族の介護、考えてみよう親の介護～	100
地域交流	63	品川区	複数	社会福祉法人品川総合福祉センター 品川区立中延複合施設	中延複合施設　くつろぎ祭り	101
	64	品川区	特養	社会福祉法人品川総合福祉センター	しなふく紅葉まつり	102
	65	渋谷区	特養	社会福祉法人パール	パールよろず博	103
	66	渋谷区	特養	社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団 渋谷区あやめの苑・代々木	地域フェス・あやめ～ここからみんなで～	104
	67	北区	デイ	社会福祉法人光照園 王子光照苑	王子光照苑祭2017	105
	68	豊島区	複数	社会福祉法人フロンティア いけよんの郷地域包括支援センター	アートカフェ	106
	69	豊島区	特養	社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホームゆたか苑	地域交流バザール	107
	70	豊島区	特養	社会福祉法人七日会 特別養護老人ホーム千川の杜	「せんかわ」ふるさとひろば	108
	71	台東区	包括	社会福祉法人台東区社会福祉事業団 あさくさ地域包括支援センター	街づくり懇談会	109
	72	台東区	特養	社会福祉法人聖風会 台東区立特別養護老人ホーム台東	「ふれ愛♥台東まつり」	110
	73	足立区	特養	社会福祉法人白寿会 特別養護老人ホーム プレミア扇	プレミア扇 地域交流会 2017	111
	74	足立区	特養	社会福祉法人聖風会 ゆうあいの郷六月	六月祭	112
	75	足立区	特養	花畑あすか苑 あすふぇす実行委員会	あすかフェスティバル～わっしょい！花畑あすか苑～	113
	76	葛飾区	特養	社会福祉法人敬仁会	社会福祉法人敬仁会　ふれあいはあとまつり　In Tokyo	114
	77	葛飾区	特養	社会福祉法人三幸福祉会 癒しの里青戸	かんたん手芸教室＆いやしカフェ	115
	78	墨田区	特養	社会福祉法人賛育会 墨田区はなみずきホーム	はなみずきホームオープンハウス	116
	79	墨田区	その他	社会福祉法人賛育会 墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム	たちばな祭	117
	80	墨田区	複数	社会福祉法人賛育会 東特別養護老人ホーム京清風園	さんいくフェスタ	118
	81	江戸川区	特養	社会福祉法人江戸川豊生会 みどりの郷福楽園	第９回　みどりの郷まつり	119
	82	江戸川区	その他	社会福祉法人江東園（ESC委員会）	エドガワスマイルコミュニティまつり2017	120

テーマ	No.	区市町村	施設種別	主催団体名	事業・イベント名	掲載ページ
地域交流	83	江東区	特養	社会福祉法人あそか会 特別養護老人ホーム　あそか園	第６回　あそか園地域交流まつり	121
	84	練馬区	特養	社会福祉法人東京福祉会 練馬高松園	まつぼっくりサロン	122
	85	練馬区	特養	社会福祉法人泉陽会 特別養護老人ホーム 光陽苑	陽だまり喫茶	123
	86	練馬区	特養	社会福祉法人育秀会 第３育秀苑	百日草（ジニア）コンサート	124
	87	練馬区	特養	社会福祉法人泉陽会 第二光陽苑	第二光陽苑 秋祭り	125
	88	練馬区	その他	社会福祉法人芳洋会 特別養護老人ホームサンライズ大泉	大泉西小学校　応援団まつり	126
	89	目黒区	特養	社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒	在宅高齢者閉じこもり防止事業（地域交流サロン）	127
	90	世田谷区	その他	多摩川癒しの会　社会福祉法人大三島育徳会	秋の芋煮会	128
	91	世田谷区	その他	社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム砧ホーム	ふれあい祭り	129
	92	世田谷区	特養	社会福祉法人大三島育徳会	だんだんまつり	130
	93	世田谷区	特養	社会福祉法人老後を幸せにする会 等々力共愛ホームズ	衣類販売会と地域のひろばカフェ（等々力きままカフェ）	131
	94	八王子市	養護	社会福祉法人多摩養育園 養護老人ホーム楢の里	秋の演奏会	132
	95	八王子市	特養	社会福祉法人清明会 清明園・浅川ホーム	長寿を祝う会	133
	96	八王子市	その他	社会福祉法人アゼリヤ会	アゼリヤ会地域交流（大根堀り）	134
	97	日野市	特養	社会福祉法人寿優和会 特別養護老人ホーム浅川苑	あさかわ祭り（地域交流）	135
	98	町田市	特養	社会福祉法人友愛十字会 友愛荘	ゆうあい広場～秋の味覚を楽しもう～	136
	99	稲城市	軽費	社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉	地域交流イベント 「第２回　歌の祭典＆芋煮会」	137
	100	三鷹市	特養	牟礼東町会（協力：社会福祉法人桜栄会 恵比寿苑）	牟礼東町会秋祭り　太鼓巡行	138
	101	三鷹市	その他	社会福祉法人東京弘済園	東京弘済園まつり～地域の力・施設の力～	139
	102	府中市	特養	社会福祉法人安立園 安立園特別養護老人ホーム	盆おどり	140
	103	国立市	特養	社会福祉法人弥生会 くにたち苑	くにたち苑バザー・デイ作品展示会	141
	104	立川市	特養	社会福祉法人恵比寿会	第５回フェローホームズ秋祭り	142
	105	昭島市	養護	社会福祉法人同胞互助会 養護老人ホーム 偕生園	納涼祭	143
	106	昭島市	特養	社会福祉法人同胞互助会 特別養護老人ホーム愛全園	「文化祭」「愛全フォーラム」	144
	107	昭島市	複数	恩賜財団東京都同胞援護会 フジホーム	同一法人作業所パン販売	145
	108	昭島市	複数	恩賜財団東京都同胞援護会 昭和郷	昭和郷フェスティバル	146
	109	東大和市	その他	社会福祉法人多摩大和園	文化祭＆芋煮会「感謝～今伝えたいことば～」	147
	110	小平市	その他	社会福祉法人黎明会 救護施設黎明寮	秋まつり	148
	111	東村山市	複数	社会福祉法人白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム	第５回　八国山フリーマーケット	149
	112	東久留米市	特養	社会福祉法人 三育ライフ	シャローム祭	150
	113	東久留米市	特養	社会福祉法人マザアス 高齢者総合福祉施設マザアス東久留米	とも・いき マザアスバザー	151
	114	清瀬市	養護	社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム	ふれあいバザー	152
	115	瑞穂町	デイ	瑞穂町通所介護事業所連絡会	もう一つの敬老会	153
	116	瑞穂町	デイ	社会福祉法人常盤会 高齢者在宅サービスセンターみずほ	くりの里サロン	154
	117	あきる野市	デイ	社会福祉法人秋川あすなろ会 あすなろみんなの家	ふれあいお茶飲み会	155
	118	日の出町	複数	社会福祉法人道心会 藤香苑　社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム　社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜	産業まつり de つながれひろがれ日の出町の輪	156
防災	119	北区	特養	社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑	田端新町二丁目自治会・新町光陽苑災害時相互応援協定に伴う訓練	157
	120	青梅市	特養	特別養護老人ホームやすらぎの家　吹上自治会	地域災害協定の見直し	158
	121	あきる野市	特養	社会福祉法人さくらぎ会 こもれびの郷	地域防災協定に基づいた防災訓練	159
その他	122	豊島区	その他	社会福祉法人フロンティア	夢を応援「茜パン」	160
	123	板橋区	その他	株式会社タムラプランニング＆オペレーティング	高齢者の「生きる」を考える	161
	124	目黒区	特養	目黒区（協力：社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒）	在宅高齢者閉じこもり防止事業（会食サービス事業）	162
	125	八王子市	複数	社会福祉法人親和福祉会 特別養護老人ホーム 小松原園	「小松の杜の介護体験塾」～八王子市立陶鎔小学校４年生～	163
	126	八王子市	複数	社会福祉法人親和福祉会 特別養護老人ホーム 小松原園	医療相談員さんとの情報交換会	164
	127	東村山市	複数	東村山市高齢者福祉施設連絡会	お年寄りの手作り作品展	165
	128	東村山市	その他	社会福祉法人東村山市社会福祉協議会 東村山市内社会福祉法人連絡会	施設・事業所の市民オープン見学会	166
	129	東村山市	その他	社会福祉法人東村山市社会福祉協議会 東村山市内社会福祉法人連絡会	市民に向けたイベントの開催	167
	130	日の出町	特養	社会福祉法人福陽会 第３サンシャインビラ	施設の食事を知ろう	168

品川区　複数施設共催

社会福祉法人若竹大寿会 品川区立杜松ホーム

杜松地域密着型多機能ホーム「のんきの日」スペシャルデー

■開催日程　11/15　13：30～15：30

■参加団体　支え愛・ほっとステーション、品川区消費者センター、らいさぽブックカフェ、ベネッセ配食弁当、ニコニコキッチン、トマト薬局、ゆたか診療所、訪問入浴品川、仁済訪問看護、仁済居宅、ソラストふたば、地域内認知症カフェ、品川区認知症対策係、ヘルパーステーション杜松、杜松在宅介護支援センター、杜松ホーム

■参加人数　115名

実施の目的

荏原第五地域における介護保険を中心とする事業所が一同に集まり、「できる限り住み慣れた我が家で暮らす」ために活用できる地域資源を参加者の方々に具体的に周知する。また今回の参加事業所から地域の資源マップの作成をスタートする。

当日の様子

地域内の事業所がブースを設け、各事業の紹介や健康チェック、成年後見の相談に応じるなど、各々の専門性を発揮する会となった。区認知症対策係のゆるキャラ「くるみちゃん」の登場や野菜・お菓子の販売会もあり、大勢の来場者で賑わった。在宅介護支援センターのメンバーがホワイトボードを転がして会場を廻り、地域の「強み」と「弱み」をインタビューする場面もあり、地域住民が住み慣れた地域をどんなふうにとらえているのかがわかる貴重な時間となった。事業所間の交流も進み、「次回はこういうふうにやりたいね」という言葉も聞かれた。

地域の課題

今回の活動で、地域として公衆トイレや郵便ポスト、歩道が少ないといった公共物への課題が挙げられた一方で、町会の活動が盛んで近隣の繋がりが保たれている地域ということが明らかになった。高齢化が進む地域の中で自助・互助では支えられなくなった時に、共助・公助へスムーズに移行できるように、地域住民の自立支援や介護予防等の活動はもちろん、事業者同士も交流を持って地域支援に協力できるように活動を進めていきたいと思う。次回は今回参加できなかった事業所にも協力いただき、定例行事にできればと考えている。

豊島区　特養

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団 菊かおる園

認知症カフェそよかぜカフェかもん
（赤羽フォークソング倶楽部によるミニライブと茶話会）

■開催日程　9/30
■参加団体　特養菊かおる園、グループホーム小菊の家、ケアハウス菊かおる園、民生委員、社協CSW、高齢者総合相談センター
■参加人数　48名

実施の目的

認知症高齢者やその家族の交流の場を提供するとともに介護負担の軽減を図る。また、地域の方々に認知症の理解を深めてもらう機会を作り、地域で見守る環境作りを目指す。

当日の様子

ボランティアグループ「赤羽フォークソング倶楽部」の演奏による季節にちなんだ歌を参加者みなさんで歌って楽しんだ。一緒に歌うだけではなく、輪唱を行ったりクイズを出したりして変化を付けて音楽を楽しみ、その後茶話会を行った。お好みの飲み物（コーヒーや紅茶）と茶菓を提供し、職員も中に入り、フォークソングのことや身近なニュース、10月28日・29日に実施される新庄まつりのお知らせなどの話題で、テーブルごとに自由な時間を持った。

地域の課題

同じ敷地にあるケアハウスとグループホームからの参加者が多いが、本来の認知症カフェの役割りとして、地域の方の参加を増やしていきたい。毎回参加してくれる人がいるので、そこから広がっていくよう声掛けしていきたい。

認知症カフェとしての相談窓口の活動を深めていきたい。

豊島区　特養

社会福祉法人七日会 千川の杜

らくゆうサロン千川の杜

■開催日程　毎月第２火・第４土　10：00～12：00
■参加団体　らくゆうサロン（サロンのために地域の方と共に発足したボランティアグループ）
■参加人数　193名

実施の目的

高齢者や介護者が外出する機会、交流の場、そして地域を考える場として、ひとり暮らしの方など地域で支えるきっかけをつくる。

当日の様子

毎月、第２火曜日は、お茶会（お話し交流）をメインとし、最後に体操と歌。第４土曜日は、お茶会後、地域の演芸ボランティアをお呼びし、観覧や公演を行っている。

10月は、大正大学の学生やドッグセラピー、ハンドマッサージなど多様なボランティアの協力のもと、楽しい時をみんなで過ごした。

11月の立教大学の学生によるベリーダンスでは、掛け声を教えてもらい、振り付けを真似しながら、思い思いのタイミングで掛け声が飛び交う中、興奮冷めやらぬまま元気のおみやげをもらい終演した。

地域の課題

高齢者世帯が多く、引きこもりの高齢者も多い。対照的に元気で活発なお年寄りも多く、小さなボランティアグループもたくさんある。うまくかみ合えば、とてもすばらしい地域になるので、豊島区民社協と共に活動等支援していく。

日野市　その他

日野市内特別養護老人ホーム（６施設）の栄養士

日野市認知症月間「だれでも交流広場」内「お食事お困りごと解決コーナー」

■開催日程　9/27　13：30～16：00

■参加団体　日野市内特別養護老人ホーム６施設（マザアス日野、豊かな里、浅川苑、あすなろ、シンフォニア、ラペ日野）、市内包括支援センター、小規模多機能施設、グループホーム、若年性認知症の家族会、日野社会福祉協議会、ひの社会教育センター

■参加人数　150名

実施の目的

①認知症予防に欠かせない「食事と栄養」の分野で、日々業務に励む特養の栄養士だからこそ提供できる情報を市民に提供。困った時に相談できる場があることをお知らせする。

②特養栄養士が地域に出ることによって、より広い視野を持って業務に当たることのできる力量をつける。

当日の様子

特養で提供している実際のお食事を展示した。非常にインパクトがあり、たくさんの方が見に来てくださった。「おいしそうね」「品数が多いわね」「秋らしいメニューで参考になる」と会話が弾んだ。業者にも協力いただき、とろみの上手な使い方や介護食の試食もありホール内でも一番にぎやかなコーナーとなった。「食事がとれなくて困っている」「食事の準備や片づけが大変」と相談も寄せられ、配食の利用や既製品の取り入れ方などアドバイスした。

地域の課題

今回初めて市内６つの特養の栄養士が集まった。一年前から地道に話し合いを重ね、良い展示が出来た。まずは継続することを目標に、さらに他の団体と情報交換や交流ができればよいと考えている。

東村山市　特養

社会福祉法人はるび

認知症カフェ＆施設見学会

■開催日程　毎月第３月　※９月は台風の影響で第４月に延期
※施設見学会は11/20のみ

■参加団体　特別養護老人ホーム はるびの郷、
高齢者在宅サービスセンター はるびの郷

■参加人数　97名

実施の目的

・誰もが安心して暮らせる街づくりの一環として
・社会福祉法人や施設のPRとして
・認知症高齢者や、MCI高齢者の居場所づくりとして
・介護されている家族の情報交換や息抜きの場所として

当日の様子

・定例で開催している認知症カフェだったため参加者は多かったが、つなひろ経由での参加者はいなかった。
・家族介護者教室の『ビギナー講座』がカフェ内で行われたことにより、施設見学会が開催される意味合いがとても大きかった。
・施設の道路に面した壁に、大きなポスターを掲示し参加を呼びかけたが、あまり効果はなかったようだった。
・施設見学会に参加された方は、初めて施設を見学する方が数名おり、とても勉強になったとのことであった。

地域の課題

・つなひろの広報力の弱さを改善したい。
・参加者数からもわかるように、認知症カフェのニーズは高いため、認知症カフェの開催回数を増やしていけば良いと思われる。
・地域住民が主体の見守り団体との認知症カフェであるため、地域のニーズも把握しやすく、カフェに参加された方へのサロン活動の案内などもスムーズに情報提供ができているため、いかにこの形を継続させていけるかが重要であると考えている。

あきる野市　特養

社会福祉法人福信会 麦久保園

介護の日勉強会「もし、大切な人が認知症になった時、あなたならどうしますか？～認知症の理解と気づき～」

■開催日程　11/11　18：00～20：30
■参加団体　秋川病院
■参加人数　35名

実施の目的

地域住民の方を対象に、「普段気になるけど何をどのように問い合わせたらよいか分からない」と思うことをテーマとし、今の暮らし、今後の不安に役立つ情報として講演会企画した。懇親会も兼ねているので、参加者間や職員との交流も目的の１つとしている。

当日の様子

今回は講師として精神科医の協力をいただき、地域の方々に代表的な認知症の理解（アルツハイマー、脳血管、レビー）や症状、早く気づくポイントや気づいた時の相談先、認知症の人との関わり方等、事例やユーモアを交えながら和やかな雰囲気で話され、参加者も熱心に耳を傾けていた。

また、参加者からも「本当に分かりやすく、日頃気になっていたことが聞けた」「私たちも近い将来我がこととして関わってくるテーマだったので、スッと頭に入ってきた」「先生の優しい話し方がとても良かった」「自治会のサロンでも話の内容を伝えてみたい」など感想があった。

地域の課題

課題は、住民の高齢化が進み老老世帯、独居も増えてきていること。また、生活動線としても商店やバス停、駅、病院まで少し距離があり、坂道が多い環境にもあるため、認知症や身体に不自由が生じた場合は、孤立、孤独が生じる可能性は高い。移動手段に関するニーズはあるが、まずは地域を拠点とした活動に参画する機会を増やし、地域の方々と顔の見える距離感で、課題と施設が協力できる取組みの可能性を共有し、一歩ずつ、つながりを築く取組みとしての実践を積み重ねていくことが必要と考えている。（今年度は、自治会館を拠点とした集いの場も企画、実践した。）

福生市　特養

社会福祉法人福陽会 第２サンシャインビラ
認知症オレンジカフェ

■開催日程　10/15　11：00～12：00
■参加団体　第２サンシャインビラ、福生市地域包括支援センター
■参加人数　14名

実施の目的

認知症介護をしている家族の方々が、日頃の悩みを語り合い交流を深めることや、仲間作りができる機会とすること。また、専門職による情報提供。

当日の様子

昨年同様、施設行事の文化祭にて開催。昨年参加された方が数名来てくださり、お互いが前回の認知症カフェをきっかけに「知り合いになれて良かった」との言葉が聞かれていた。

また、今回は認知症サポーター２名のお手伝いがあり、それぞれ役割を持っていただいた。

認知症の利用者と施設内展示の見学に回りながら、コミュニケーションを図っていただくことで利用者からも大変喜ばれ、楽しく参加する姿が見られた。

地域の課題

地域包括支援センターの職員が参加され、認知症カフェのような交流の機会が必要であること、地域で開催されているオレンジカフェや家族介護者教室の情報提供があった。まだまだ参加者は少ないが、交流の場が増えること自体が、１人で頑張らず、時には多くの仲間や専門職に関わってもらうきっかけとなるため、今後も気軽に参加できる場所やイベントは必要であると感じた。

豊島区　特養

社会福祉法人フロンティア 特別養護老人ホーム養浩荘
顔みて食べよう会

■開催日程　毎月第３金
■参加団体　ボランティア、特別養護老人ホーム養浩荘
■参加人数　120名

実施の目的

高齢者の閉じこもり予防、栄養改善、社会的交流を目的として「集う場」の創設を目的とする。

当日の様子

毎回10～15名の地域にお住いの高齢者が集い食事会を行っている。参加者からも「顔を見合わせて、お話ししながら食事をするのを楽しみに参加している」と好評である。参加者には、管理栄養士の作成したメニューを渡して、自宅での料理の参考にしてもらっている。会話が苦手な方には、ボランティアや施設スタッフから話しかけて会話に花が咲くように心がけている。閉じこもり予防のため食事会の日程を忘れてしまう方には、当日に電話連絡を改めて行うなどの対応をしている。

地域の課題

高齢になると、外出の頻度が少なくなり、また食事を毎日１人で食べる方も多い。地域交流の希薄化も進んでおり、孤立化を予防する取組みや仕組み作りが必要である。

参加者が定着している一方で休みがちになっている方もいることから、不参加になっている理由を調査して、会のあり方を見直していくことも必要である。特に男性参加者が減っていることから、男性が参加しやすいような開催方法（男性限定の回を設けるなど）を検討していきたい。

また、徒歩での来所が困難な方にはバスでの送迎も検討している。

豊島区　特養

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団
特別養護老人ホーム アトリエ村

アトリエ村としまる体操会

■開催日程　毎週火　10：30～11：30
■参加人数　298名

実施の目的

豊島区が高齢者の筋力アップのために開発した運動プログラム“としまる体操”を実施することで、地域高齢者の介護予防に貢献し、地域高齢者の仲間意識を広げる。

当日の様子

松・竹・梅の３部構成になっている体操プログラムの音楽に合わせ、参加者全員でカウントをとりながら楽しく行う。運動サポーターの補助はあるが、参加者全員が主役であり、各々の体調や筋力に無理のない程度で運動をし、徐々に筋力をつけていくことがコンセプトとなっている。

体操プログラムは40～45分程度で終了となるため、その後の時間は、歌を歌ったり、手遊びなどをする。そのような時間を持つことも介護予防であり、全員がリラックスしたなかで笑顔が生まれ、自然に仲間意識も強まっていっている。

地域の課題

キャンペーン期間終了後も、通年の介護予防事業として継続実施の予定ではあるが、参加人数が更に増えた場合は、第２グループ立ち上げの必要性も考えられる。

また、地域高齢者の介護予防としての他のプログラムを今後の検討課題とし、更なる地域貢献に繋げていきたい。

台東区　デイサービス

社会福祉法人台東区社会福祉事業団
みのわ高齢者在宅サービスセンター
来食サービス

■開催日程　平日　12：00～14：00
■参加人数　793名

実施の目的

台東区内在住・在勤の60歳以上の方を対象に、管理栄養士が監修したバランスの取れた食事を召し上がっていただく。来食サービスを通じて、社会参加や健康維持につながる機会としている。

当日の様子

毎回来所される方、ひとり暮らしの方、ご夫婦で利用の方など様々な方が来所され、食事を楽しまれたり、交流の場になっている。

地域の課題

来所される方々から地域の実態やニーズなどの情報収集を行いたい。

中野区　特養

社会福祉法人中野区福祉サービス事業団 しらさぎホーム
いきいき しらさぎフェスタ 2017

■開催日程　11/11　12：00～15：30
■参加団体　（株）スリーデイ（福祉用具販売店）、（株）クリニコ（森永乳業グループ）、（株）明治ナイスデイ（明治グループ）
■参加人数　20名

実施の目的

「介護の仕事って？」「介護サービスって？」多くの人に知っていただくため、施設見学やデイサービスでの活動体験、福祉用具などの展示を企画、地域関係者との交流を図る。

当日の様子

施設説明見学会においては、施設概要などの説明の他、施設で提供している食事を試食しながら各専門職との情報交換を行う機会とした。参加された方からは、「施設でどのようなサービスが受けられるのかが良く分かった」などの感想を聞くことができた。また、介護相談窓口や福祉用具販売・栄養補助食品試供品の展示などを通じて、直面する介護についての不安や悩みを直に聞くことができ、地域との繋がりの重要性を改めて実感することができた。

地域の課題

来訪された地域の方からは、「近隣にある社会福祉施設ではあるものの、どのような施設環境で、どのような利用者が生活し、仕事をしているスタッフがどのような方かを知らなかったため、関わりの持てる良い機会となった」とのご意見をいただけた。今後も、在宅生活支援の拠点として地域の方々と交流し、地域の一員として積極的に関わりを持ち、関係機関と連携のもと、情報共有できる機会を作り、地域貢献に取組んでいきたい。

杉並区　デイサービス

社会福祉法人浴風会 南陽園在宅サービスセンター
ももの木トレーニング

■開催日程　毎週水・月２回土　13：30～16：30
■参加人数　380名

実施の目的

施設の機能訓練室及び筋トレマシンを利用した地域在宅高齢者の転倒予防・介護予防と、集いの場提供による外出やコミュニティ形成の促進。

当日の様子

当施設の機能訓練室を解放し、理学療法士、生活相談員が話を伺いながら、５台のマシンを使って自由にトレーニングができる自主グループを開催している。多い日には30名程度来園され、それぞれご自身のペースでトレーニングを楽しまれている。また、終了後には施設のロビーでお茶を飲みながら雑談をされたり、他の活動などの情報交換、近況報告などをなさっており、集いの場としても活用されている。

地域の課題

当施設の周囲のみならず、杉並区や世田谷区などの近隣には独居高齢者が多く生活されている。運動を好む方・苦手な方、外出が多い方・少ない方と様々であり、ご近所であっても当法人の活動をご存じない方や、ご存じであっても運動と聞くと抵抗がある、続ける自信が無いというお話を聞く。筋力強化や転倒予防の場としてだけでなく、気軽に遊びに行く、友達とお話をしに行く、そのついでに運動もできるなど、高齢者が家に籠らず、まずは外出することによる楽しみを見出していただける雰囲気作りを目指している。

トレーニングとしてだけではなく、利用者の外出の機会や、社交の場となることを願っている。また最近は口コミによるお友達同士の参加が増えており、外出や運動、おしゃべりを楽しめる集いの場としての役割を担うことで、地域高齢者の引きこもり予防の促進につなげていきたいと考えている。

目黒区　特養

ボランティアグループ（協力：社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム東山）
交流サロンひがしやま

■開催日程　10/6　14：00～15：30
■参加団体　ボランティアグループ（協力：目黒区立特別養護老人ホーム東山）、北部包括支援センター、めぐろボランティア・区民活動センター
■参加人数　14名

実施の目的

近隣に住み１人では外出の機会が少ない高齢者やひがしやまホームを利用している方を対象に、身体を動かしたりおしゃべりしたり相談できる場となるような活動を行っている。

当日の様子

・ひとり親世帯のクリスマスパーティー用のプレゼントとハート形のケースを参加者用に作成したが、時間がかかり飽きてしまったり、途中でボランティアに作成してもらうことがあった。
・デイサービスからの参加者には作成が難しく、途中で退席する方もいた。
・参加者から「作業に夢中になると無口になるわね」という声も聞かれた。
・ハンドトリートメントは地域の方と特養の方が参加された。

地域の課題

開始当初は地域の方が20人程度の参加があったが、今年度に入り10人程度となっている。民生委員の方が個別に訪問し、誘っているようだが、継続の利用が難しい方もいるようである。

継続している参加者は、趣向を凝らした内容に満足されているようで、毎回楽しみにしている。

また、特養利用者やデイサービス利用者の定期的な参加もあり、地域の方との交流の場にもなっている。

活動内容は、ボランティアグループが毎回趣向を凝らして考えており、参加者が飽きない工夫をされている。

参加者が困っている時に、気軽に相談できる場となったり、近所の方と一緒に来ていただけるようになると、さらに活動が広がると考えている。

八王子市　特養

社会福祉法人一誠会
社会福祉法人多摩養育園　社会福祉法人清心福祉会
八王子介護フェア

■開催日程　10/21　10：00～15：00
■参加団体
主催：社会福祉法人一誠会、社会福祉法人多摩養育園、社会福祉法人清心福祉会
共催：滝山会（八王子市高齢者あんしん相談センター左入、特定医療法人社団愛有会三愛病院、医療法人財団敬寿会相武病院、医療法人社団東京愛成会高月病院、社会福祉法人八王子心成会登芙喜心成苑）、社会福祉法人清心福祉会ファミリーイン堀之内
後援：八王子市、八王子市学園都市文化ふれあい財団、東京都社会福祉協議会東京都高齢者福祉施設協議会、八王子ブロック施設長会、東京都消費生活総合センター
協力機関：社会福祉法人明徳会藤寿苑、東京純心女子中学高等学校、株式会社アイテックプロ、株式会社ケイアイ、酒井薬品株式会社八王子営業所、西都ヤクルト販売株式会社、パラマウントベッド株式会社、工房井上、八王子センター元気、ザ・レインボーズ、NPO法人はちきたSC
■参加人数　254名

実施の目的

介護の日にちなんで地域の方々に介護を身近に感じていくことを目的として開催した。

当日の様子

＜開会式＞　多摩虹の会（祝い太鼓）
記念講演　「認知症と間違えやすい心の病気」東京都医学総合研究所主席研究員　宮下光弘氏
模擬店、介護体験コーナー、作品展示コーナー、交通安全セミナー、おなか元気教室、立川がじら氏による出前寄席、ラン伴八王子、介護職員のPRのためのパネルディスカッション、東京ケアリーダーズ、アローレ八王子、ザ・レインボーズのパフォーマンス　藤代舞さん・ミニコンサート
＜閉会式＞　東京純心学園吹奏楽部による演奏

当日は終日雨天で、来場者減となる可能性があったが、前年よりもプログラム数が増え、充実した内容になったこともあり、来場者数、ボランティア数も増加となった。地域の方に介護のことを楽しく知ってもらうことをコンセプトに、介護職員のPRをするパネルディスカッションや東京ケアリーダーズのパフォーマンスをはじめ、東京都医学総合研究所の宮下光弘先生による講演など充実した内容であった。また、近隣の事業所や医療機関などと連携し開催できたことは進展した点であった。

地域の課題

介護に関する関心や不安などを、地域の参加者との会話から聞き取ることができた。介護保険の制度や特養、デイサービス、グループホームなどの施設の利用について、今後必要となってきていることは感じているが、現状で介護に関わることがないと具体的にイメージがわかず、活用方法がわからないのが実情のようであった。身内で介護が必要となったときに、困らないように地域のなかにある社会福祉法人をはじめとした福祉施設の活用が、予防から要介護状態と幅広く理解につながっていけるように、PRしていく必要があると感じた。

介護フェアの開催により、社会福祉法人の取組みを知っていただき、今後の介護を支えるのは、社会福祉法人であろうということを地域の方々へ伝える機会となった。

今後も、より多くの方へ取組みを認知していただくためにも、継続した開催が必要である。

日野市　デイサービス

社会福祉法人寿優和会 浅川苑サービスセンター
夕食お届けサービス試食会

■開催日程　11/26　12：00～13：30
■参加団体　特別養護老人ホーム浅川苑、浅川苑サービスセンター
■参加人数　13名

実施の目的

地域のみなさんへ夕食配食サービス事業の周知。

当日の様子

・配食サービスをやっているのは知っていたが、食べる機会があるのはうれしい、必要になったら是非頼みたいとの声があった。
・特にエリアは限定していなかったので、配達地区以外から来てくれた方も多くいた。
・事業の説明や栄養について栄養士から話をしたが、関心を持ってくれる方も多くいた。
・試食会に参加したいが当日会場に足が悪くて行けない、との問い合わせがあり、配達して対応。
・試食後にはアンケートの実施。

地域の課題

現在、配食サービスエリアが限定されていてエリア外からの問い合わせも多いので、今後の課題として検討していきたい。

府中市　特養

社会福祉法人多摩同胞会

緑苑・安心シニア塾（専門講座）

■開催日程　9/14、9/28、10/12、10/26、11/9、11/23　10：30～12：00
交流会：12：30～14：00
■参加団体　社会福祉法人多摩同胞会
■参加人数　206名

実施の目的

地域の方々に安心して豊かなシニアライフを過ごしていただくため、身近なテーマについて一緒に考えていただく。

当日の様子

５月から７月にかけ、６回のコースで基礎講座を行い、専門講座として９月14日（木）：調剤薬局との上手な付き合い方、９月28日（木）：シニア世代の歯の健康・体の健康、10月12日（木）:そっと困ってる排泄、10月26日（木）:在宅医療･地域での連携、11月９日（木）：シニア世代の多様な住まい、11月23日（木）：シニア世代に特にかかるお金の話をテーマに講座を行い、各回30名程度（内男性10名程度）の参加があった。終了後には、交流会として当日の講座内容についての意見交換や、これからの活動をどうしていきたいかなどの話ができる場を設定し、さらに交流を深めていただいている。

地域の課題

60歳代・70歳代の男性参加者を中心に、「地域の中で何かやりたい、でもどこでどうつながったらいいのか、わからない。」との声が多数上がってきている。交流会などでの意見交換、継続して講座を進めていく中でシニア塾の活動を軸に、事務局・サポーターとして協力を申し出て下さる方々の輪が徐々に広がってきており、緑苑西館地域交流スペースを会場に情報交換・交流の場として活用する案も出始めている。受け身で「話を聞きに行く場」だけでなく「自分たちで組み立て、学びあう場」へと育ってきていることを感じている。

国分寺市　特養

社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホームミンナ
ぷらっとなみき

■開催日程　9/16　14：00～15：30（毎月第３土）
■参加団体　国分寺地域包括支援センターなみき
■参加人数　40名

実施の目的

近隣住民に向けた福祉・医療などの情報提供や住民同士の情報交換のできる憩いの場となること。また、介護予防体操を実施することにより高齢者の健康増進をはかる。

当日の様子

本事業は、毎月第３土曜日に実施している。

本年９月の開催時には、桜美林大学公衆衛生学部の教授を招いて高齢期における身体機能の変化や転倒のリスク・予防方法等について講演していただいた。参加者数は約40名。

皆さん、自分自身に関わる内容でもあったため大変熱心に聴いており、質疑応答も活発に行われた。

講演後は、毎回恒例の介護予防体操を、市民介護予防運動指導員の指導のもと、参加者全員で行った。

地域の課題

現在は近隣に住む概ね60歳以上の方を対象としているが、介護・医療などの情報提供や認知症に関する正しい理解などを地域に浸透させるためにも、若い世代に向けてもこうした場を提供し、世代を越えてお互いに支え合える地域づくりを進めたい。

また、施設と地域包括支援センターが共同で主催する本事業において、いずれは地域住民が主体となってさまざまな企画が立案・実施されれば良いと考えている。

昭島市　その他

げんき食実行委員会（協力：社会福祉法人同胞互助会）
「げんき食」健康フェスティバル2017

■開催日程　10/7　11：00～15：00
■参加団体　上友クラブ会、つつじヶ丘円舞の会、昭島南京玉すだれの会、健康体操はつらつクラブ、導引養生功、地域管理栄養士ボランティアグループ、昭島病院訪問看護、西部地域包括支援センター、昭島げんき食実行委員会、社会福祉法人同胞互助会
■参加人数　80名

実施の目的

地域の方と一緒に実行委員会を作り、楽しく勉強会を開催する。今年のテーマは、「元気で生き生き過ごすために知っておきたいこと」。

当日の様子

オープニングは地域の老人クラブのコーラス、舞踊で始まり、続く南京玉すだれ、健康体操は、80歳台のメンバーの演技に拍手喝采で盛り上がった。昼食は管理栄養士のボランティアグループによる栄養満点の元気食を試食し、午後からは、６つのグループに分かれ、いま困っていること、聞きたいことなど出しあって、医師、歯科衛生士、管理栄養士などの専門職からのアドバイスをいただいた。「よく食べ、よくしゃべり、よく笑うこと」が健康の秘訣であると、皆が納得し合った１日となった。

地域の課題

今年９回目となる「元気食」。２年前に市の助成金がストップし、継続が危ぶまれたが、社会福祉法人同胞互助会理事長を中心に、メンバーの強い思いにより継続している。昭島市市長も参加され、こうした催しが継続されることで「健康寿命」の啓蒙に繋がっていくことを望んでいるとお話しされた。

武蔵村山市　特養

社会福祉法人村山福祉会 特別養護老人ホーム伊奈平苑

地域の高齢者を招いての食事会とミニコンサート

■開催日程　10/28
■参加団体　三ツ藤むつみ会（老人クラブ）、その他近隣住民
■参加人数　52名

実施の目的

施設近隣にお住まいの高齢者を招待した食事会やコンサートを通じて、地域のニーズや課題を知る。

当日の様子

食事会の後、施設見学会を実施した。

コンサートでは、地域の高齢者と特養利用者も参加されたため、会場の雰囲気はたいへん盛り上がった。コンサートはヴォーカル、ヴァイオリン、ピアノのアンサンブルユニットのプロの音楽家を招いて、高齢者の馴染みのある懐メロなども含めた曲編成をしていただいた。

地域の方々と特養高齢者が一緒に歌を口ずさむ場面も多くあり、地域の方と特養利用者ともたいへん好評な内容であった。

地域の課題

併設の地域包括支援センターとも協働して、地域でひとり暮らしや日中独居の高齢者の方々に、施設で実施する食事会やイベントなどに参加していただけるようにしたい。

武蔵野市　軽費

社会福祉法人武蔵野 武蔵野市桜堤ケアハウス

介護と福祉の地域広場

■開催日程　11/5
■参加団体　(財) 信陽舎、桜野地域社会福祉協議会、(株) パナソニックエイジーフリー
■参加人数　200名

実施の目的

・地域住民の視点に立った介護と福祉に関する情報などを提供する。
・地域で暮らす高齢者とその家族などが交流する機会とする。

当日の様子

・秋晴れのいい天気であったが、昨年より参加者がとても少なかった。例年11月３日に開催していたが、都合により日程を変更したことも影響した様子であった。
・参加者からは「大道芸にびっくりした」「初めての音楽療法で楽しくお腹から声を出すことができた」などの感想も聞かれた。また、お赤飯の入った手作り弁当は、食べやすいと販売開始前から長蛇の列ができていた。
・職員だけでなく、学生寮の学生や桜野地域社会福祉協議会の方々も販売に携わってくださり、買い物を通じて交流も楽しんでいただけた。
・(財) 信陽舎は長野県出身の学生寮ということもあり、長野県のリンゴ販売は毎年好評であった。
・脳トレや福祉用具の展示・販売、福祉講座もあり、高齢者の方々には興味深い内容でもあった。

地域の課題

当施設の隣接地域は戸建て住宅が多く、近隣地域には約1000世帯のUR団地（高齢化率が市内で一番高い）や、約900世帯の新興マンション群があり、丁目ごとに地域課題と高齢者などに関するニーズに違いがある。それぞれの地域特性を認識して、集合住宅系のコミュニティづくり、戸建て住宅系のコミュニティづくりを、手法を変えながら、住民とともに地域づくり、新しい支えあい作りに取組んでいる。

日野市　デイサービス

社会福祉法人マザアス
高齢者在宅サービスセンターマザアス多摩川苑

マザアス多摩川苑　配食サービス

■開催日程　年中無休（1/1のみ休み）
■参加団体　日野市社会福祉協議会
■参加人数　5151名

実施の目的

安否確認が必要で食事作りにお困りの高齢者に、栄養バランスの整ったお弁当（昼食）を届ける。

当日の様子

厨房で作った保温容器に入ったお弁当を、配食ボランティア（有償）の方が日野市一円に配達をする。安否確認もあわせてする。安否確認ができない利用者に関しては、再度連絡を入れたり、再度訪問をしたりする。センター長が家族や担当ケアマネージャーに連絡することもある。配食コーディネーター（有償ボランティア）は配達員の連絡を受けて、指示をする。それでも解決できない場合はセンター長に申し送る。

地域の課題

独居高齢者や高齢者世帯では自らが買い物に行けなかったり、調理ができなくなったりして、食事を取るのが困難になってきている。安否確認も大切な課題である。今後も継続して365日（1/1を除く）配食サービスを通じて地域に貢献していく。

昭島市　その他

社会福祉法人同胞互助会
ふれあい食事サービス

■開催日程　社協からの委託　月～金の昼食
　　一般　月～土、祝の昼食、夕食
■参加団体　ふれあい食事サービス
■参加人数　9360名

実施の目的

施設の食事サービスのノウハウを活かした地域の方へのお弁当の配食サービス。
高齢者及び高齢者世帯に対しての安否確認。

当日の様子

平成13年より昭島市社会福祉協議会からの委託事業として始まったお弁当の配食サービスは、委託事業以外の一般の方の依頼も増え続け、うれしい悲鳴を上げている状態である。

これまで、医師と栄養士が連携しながら「食」の重要性を説いてきた法人ならではの、個々の利用者の身体状況、摂食・嚥下状態に合わせたお弁当を提供している。

また、９月１日には、今年度の「つながれ　ひろがれ　ちいきの輪inTOKYO」のキックオフ記者会見として、この「ふれあい食事サービス」が、新聞３社の取材を受けた。

配食サービスの同行取材時、取材をお願いしていた利用者の体調が悪く、急きょケアマネに連絡を入れ、訪問看護へつなげるという場面に遭遇し、記者の方々から、「こういう日々の取組み、積み重ねが、地域の方々の安心に繋がっているんですね」との感想をいただき、改めて、本事業を継続することの大切さをかみしめている。

地域の課題

社会福祉法人による「配食サービス」は、採算などの理由で残念ながら減少傾向となっている。しかしながら、「きめの細かい食事提供」「多様な専門職、事業所との連携による利用者の支援」は、社会福祉法人だからこそできる重要な地域貢献の一つと考えている。

日の出町　特養

社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜
配食サンキュー弁当

■開催日程　月～土の昼食時間
■参加団体　特別養護老人ホーム栄光の杜
■参加人数　300名

実施の目的

地域にお住いの高齢者に、美味しく、バランスの良い食事をお届けし、健康の基礎作りをお手伝いすることを目的とする。

当日の様子

温かいお弁当を楽しみに玄関で待ってくださっていることもある。一言二言だが、体調面や日頃のご様子を確認するなど、顔と顔を合わせた関係が築けていると感じる。

お弁当も、「おいしかったよ」との評価を多数いただけている。

地域の課題

高齢化率が高い地域だけに配食ニーズは高いと考えている。現在は当法人の居宅介護支援事業所が担当している利用者に限定したサービス提供になっているが、地域包括や他事業所との連携で、困っている方々への助けになれるよう、範囲の拡大が求められてくるかもしれない。

日曜日も配食サービスができる体制構築を課題としている。

目黒区　特養

社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 特別養護老人ホーム東が丘
３つの高齢者施設見学会

■開催日程　11/10
■参加団体　目黒区社会福祉事業団の特養３施設（東が丘、東山、中目黒）
■参加人数　16名

実施の目的

毎年11月11日の介護の日に同法人３施設の見学会を実施し（今年は都合により11月10日実施）、地域の方に広く「特養とはどういうところなのか」を知っていただき、理解を深めていただくとともに、特養の利用申込みを考えている方にとっては、その一助になればと毎年開催している。

当日の様子

昨年度より法人３施設を１日で全て見学していただこうと３台の送迎車（デイ車両など）を用意し、東山ホームを出発点に、東が丘ホーム、中目黒ホームへと移動しながらそれぞれの施設の特徴を知っていただいた。送迎車を用意することで、募集定員を上回る16名の方が参加してくださった。

集合施設となった東山ホームでは、「特養とは」という基本的な説明を時間をかけて行い、皆さんからの多岐にわたる質問にも、一つひとつお答えした。移動した施設でも多くの質問が飛び交い、予定時間をかなりオーバーするという、うれしい誤算もあったが、皆さんには満足していただき、私たちにとっても充実した１日となった。

地域の課題

毎回思うのが、「特養」という言葉や内容は漠然と分かっているつもりでも、実際に見学してみるとイメージしていた「特養」と違っているらしく、「こんなに明るくて広いんですね」「利用者の皆さんお元気そうですね」という驚きを込めた感想が多く聞かれる。

「近くにありながらどういう所か知らない」と思わせるのは私たち施設の責任でもあると痛感している。今後は更に地域の中に根づいた活動を進めていきたいと考えている。

新宿区　特養

社会福祉法人恩賜財団 東京都同胞援護会 特別養護老人ホーム 原町ホーム
Café Memory原町

■開催日程　毎週木　14：00～15：00
■参加団体　新宿区、新宿区社会福祉協議会、榎町高齢者総合相談センター、原町小規模多機能居宅介護センター、原町グループホーム、原町ホーム
■参加人数　220名

実施の目的

都市型の新しい活動を通じて地域と繋がり、高齢の方や介護者の方が気軽に交流できる場を提供する。

当日の様子

近隣にお住いの高齢者の方、原町ホーム・原町高齢者複合施設をご利用の高齢者の方々が集まり、週毎の様々な活動に参加し、交流を深めた。普段、言葉数の少ない方や傾眠されていることが多い方が、活動中は自らほかの参加者に話しかける様子が見られ、集中して取り組むことができていた。地域参加者からも「普段話す機会が少ないから、ここに参加できて嬉しい」、「外出するきっかけになった」などの話が聞かれた。また、スタッフが専門職で構成されていることから、介護保険や施設についての質問も聞かれている。

地域の課題

認知症カフェが地域包括ケアの柱の一つとなっており、地域福祉がその重要な役割を担っている。原町ホームは、今後も認知症の本人や家族が、安心して生活・活動・相談できる場として、地域にお住いの方々の認知症への理解を深め、早期からの相談につなげる場として、継続性を持って活動をしていく。原町ホームで行っている認知症カフェを一つのモデルとして、今後この活動が広がっていくことを期待している。

豊島区　デイサービス

社会福祉法人フロンティア
高齢者在宅サービスセンター山吹の里
仄仄（ほのぼの）カフェ

■開催日程　毎月第３月　13：30～15：00
■参加団体　社会福祉法人フロンティア、高齢者在宅サービスセンター山吹の里
■参加人数　40名

実施の目的

認知症カフェを通じて、誰もが安心して参加できる居場所をつくる。地域のつながりをつくる。

当日の様子

世代交流（共同作品作り、運動会）、体操、工作などのイベントを行い、イベント後に飲み物やお菓子などを楽しみながら、交流を行った。

高齢者だけでなく、地域の子ども（未就学児）連れ世代、小学生、障がい者施設の利用者・職員など、様々な人が集まり、交流を行うことができた。

地域の課題

昨年度に引き続き、男性が参加できるイベントが少ないことが課題の一つである。

また、要介護申請はしていないが、何かしらの支援が必要な方が安心して行ける場と情報が少ない。区内認知症カフェ間の横のつながりを強化して、紹介しあえる関係を作っていきたい。

豊島区　デイサービス

社会福祉法人フロンティア ディサービス長崎いずみの郷
いずみサロン

■開催日程　毎月第３日　14：00～16：00
■参加団体　デイサービス長崎いずみの郷、西部包括支援センター、アトリエ村包括支援センター、本多歯科、スノードロップ
■参加人数　158名

実施の目的

認知症の方やその家族・地域の皆さんが自由に集まり、お茶を飲みながら楽しく交流できる場として実施。

当日の様子

毎回、２部構成にしており、１部は毎回ゲストを呼んでのイベントを行っている。２部では、要サロンのボランティアの方による「としまる体操」を参加者みんなで行い、身体を動かして元気になって帰っていただいている。今までの１部イベントは、６月「スノードロップ（吹奏楽団）」、７月「高齢者総合相談センターってどんなとこ？」、８月「お口の健康が長生きの秘訣（本多歯科）」、９月「みんなで歌おう（演奏ボランティア）」、10月「感染症について（アトリエ包括）」がそれぞれご協力くださり、チラシをみて参加してくださった方には、とても好評だった。また、参加された方同士で話が盛り上がったり、としまる体操で元気になった気がすると言って帰る方も多い。

地域の課題

地域の方への周知がなかなかできておらず、月によっては参加人数が少ない。

参加者の中には、問題をかかえて相談がしたいという方はいまのところいないが、公共機関が休みの日曜に開催をしているので、「ちょっと気になる」と思われる方に気軽に立ち寄って相談していただける場にしたい。

豊島区　特養

社会福祉法人豊島区社会福祉事業団
特別養護老人ホーム風かおる里
「押花で作ってみよう‼」

■開催日程　10/23　12：30～14：30
■参加団体　みみずくサロン、喫茶そよかぜ
■参加人数　17名

実施の目的

夏の花々を講師のボランティアの先生とともに好きな写真に飾りつけ、来年度のカレンダーを作成する。

当日の様子

民生委員主催のみみずくサロンに参加の皆様と、地域にお住まいの認知症の家族、施設の利用者との交流を含め、和気あいあいとお互いの作品をほめ合い、楽しまれていた。講師の先生もご高齢だが、「私もこれが生きがいで楽しんでいるのでありがとう」と言われ、笑顔で皆さんお帰りになった。

地域の課題

施設周辺は閑静な住宅街であり、人が集まりにくい。町会、民生委員、区民ひろばなどに声かけするも、今回の参加者からも「掲示板はあまり見ない。やはり口コミで来るわ」「ここにサロンがあることを知らなかった」との話もあり、昼食の提供、専門職からの提案、運動などを行いながら、今後も気軽に立ち寄っていただけるよう、宣伝方法を工夫しながら活動を続けていきたい。

板橋区　地域包括支援センター

社会福祉法人 小茂根の郷

毎週木曜日はシルバーデーinカフェ桜

■開催日程　10月毎週木　11：30～14：00
■参加人数　170名

実施の目的

当法人の地域公益活動の１つとして行われているもので、地域の方の引きこもり予防と栄養改善を目的としている。

当日の様子

キャンペーンは、10月の毎週木曜日に行った。同事業は、今年の１月から開始して、１日あたり約30名のシルバー会員（70歳以上の地域の方）にご利用いただいている。ご近所やサークル仲間で誘い合って、通常700円（飲み物付き）のランチを300円で提供している。

期間中、会員には事務局から送られたファイルに特製のエコバッグを添えて配布した。

会席はグループごとにセットされていて、各自お好みのメニューを注文し、会話を楽しまれていた。皆さん草食系かと思ったら意外と肉食系の方が多いのには、驚かされた。

地域の課題

私たちの地域は環七通りと川越街道に挟まれ、その中央部を石神井川が流れている。したがって、幹線道路周辺と河川部周辺とでは相当の高低差があり、坂上にあるカフェを利用する高齢者には負担が伴う。利用したいが送迎付きであれば、との要望もあり、試験的に送迎を実施しているが、利用者数にバラつきがあったり、グループ間の利用時間の調整など当日にならないと判らないことがあり、カフェ側と送迎側との綿密な連携がとても重要である。このシルバーデーを実施するようになってから、利用者全体も600人/月～1000人/月と増加していて、同事業による相乗効果は予想以上である。これからのカフェ桜も、利用者ニーズに即したメニューの創意工夫など、ますます精進しなければならない。

練馬区　特養

社会福祉法人練馬区社会福祉事業団 大泉特別養護老人ホーム
虹のカフェ大泉
～子どもからお年寄りまで、楽しく心地よい居場所～

■開催日程　毎週水　14：00～16：00
■参加団体　虹のカフェ大泉（ボランティア団体）
■参加人数　502名

実施の目的

子どもから高齢者まで多世代が交流し、情報交換や認知症予防、物作りなど地域の交流場として、気軽に立ち寄っていただき、地域の連携を図る。

当日の様子

乳幼児、幼児、小学生から高齢者まで、幅広い年齢層の方が来ている。高齢者は、子どもの顔やしぐさを見て笑顔で接している。子どもは、高齢者や大人と一緒にバルーンアートやカルタ取りなど一緒に楽しんでおり、和気あいあいとしている。時には、ピアノコンサートや紙芝居など、イベントも行っている。

ボランティアには、看護師や助産婦、学校の先生、介護支援専門員もいるので、ママさんたちの相談にも熱心に対応している。

地域の課題

誰もが心地よい居場所になり、悩み相談や来所者同士の交流が盛んになるよう、考えていく。また、ミニ講座を通して、社会資源や知識の理解につながるようなイベントを考えていく必要がある。

目黒区　その他

なのはな結の会（協力：社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒）
ふれあいの居場所

■開催日程　毎月第２金（８月のみ第３金）　14：00～15：30
■参加団体　なのはな結の会
■参加人数　160名

実施の目的

地域の独居、高齢者世帯を中心に「決まった日時にそこへ行けば誰かがいる場所」を提供する。

特養ホームの利用者が地域の方と交流を持つ機会とする。

当日の様子

・参加者は、地域の住民、特養ホーム入所者、町内会の方、民生委員、地域包括支援センター職員、ボランティア。
・地域住民の方の中には、月１回「ふれあいの居場所」に来ることが楽しみだと話され、日課となっている方もいる。
・好きな物を飲んで、好きなお菓子を食べながら、銘々におしゃべりして過ごしている。
・特養ホーム入所者や地域住民の方は、囲碁・将棋のボランティアと一緒に囲碁を楽しんだ。
・地域住民やボランティアが講師役で参加者に折り紙を教えたり、頭の体操をしたり、思い思いに過ごされた。

地域の課題

・「ふれあいの居場所」には、独居の高齢者やご夫婦の高齢者が楽しみに参加されているが、閉じこもって地域との交流が少ない高齢者はまだいると考えられる。このような場に参加するきっかけ作りや、参加することが日課となるには、地域包括支援センター職員や民生委員、町会の方々による声かけや、誘い合って一緒に来るなどの働きかけが必要と考える。
・地域のネットワークを活かして、必要としている高齢者に継続してきてもらえるようなプログラムの検討や、近隣住民への広報を行っていく。

日野市　地域包括支援センター

社会福祉法人マザアス 日野市地域包括支援センター多摩川苑
たまカフェ

■開催日程　11/23　14：00～16：00
■参加団体　愛の家グループホーム日野万願寺、日野青い鳥福祉会、マザアス日野、日野市立第４小学校PTA、スターバックスコーヒージャパン株式会社日野万願寺店
■参加人数　50名

実施の目的

多世代、多機関で交流を図り、つながりにより地域の輪を作ることで、支え合い誰もが住みやすい街づくりを目指す。

当日の様子

小学生から80代まで幅広い年代の方、高齢者、子ども、障がい者関連の多様な機関の方など約50名の方々が参加し、美味しいコーヒーを飲みながら日頃の地域での活動の話を伺ったり、交流を図りつながることができた。また、認知症サポーター養成講座受講後の活動の場として、日頃の犬の散歩の時に地域の見守りをしていただく「わんわん見守り隊」結成式を行った。参加者からは、「楽しかった」「また参加したい」「参加して新たなつながりができた」という声が聞かれた。

地域の課題

高齢化率が低く、若年層が多い地域であるため、高齢者や認知症についての理解が乏しい。また、自治会加入率も低いため、今後も垣根を越えたつながりの機会を作っていきたい。

日野市　その他

社会福祉法人マザアス マザアス日野

認知症コミュニティ「あったカフェ」二周年記念イベント

■開催日程　9/20　10：00～16：00
■参加人数　82名

実施の目的

認知症になっても安心して暮らせる地域づくり

当日の様子

平成27年９月30日から「あったカフェ」をオープンして２年になる。毎週水曜日の10時から16時の間、入館料は100円でコーヒーと健康茶のお代わりは自由。認知症当事者や家族、地域の方、専門職など誰でも自由に利用できるカフェとして地域の皆様に愛されてきた。その「あったカフェ」の「二周年・オープン100回目記念」として、入館料無料で広報したところ、当日は82名のお客様に来ていただき、美味しいコーヒーを飲みながらの楽しい一時を過ごしていただいた。初めてのお客様も16名おり、一時は、案内のできる席がないほど混み合った。しかし、お客様どうし声を掛け合って、ひとつのテーブルに５、６名でイスを囲むなど、温かい雰囲気だった。美味しいコーヒーとスタッフのおもてなしが好評で、地域の皆様の居場所として人と人をつなぐ、地域の輪が広がっていくことを実感した。

地域の課題

今は元気に暮らしていても、年をとったというだけで将来が不安になる。「あったカフェ」は、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりを目指して週１回（水曜日）営業してきた。このような地域の皆様が交流できる場所が、歩いて通えるくらい身近な場所にほしいという声をたくさん聞く。

２年間「あったカフェ」を続けて、自分の地域にもほしいという声をたくさん聞いた。地域包括支援センター単位で「カフェ」が開設できるように、自治体や地域に働きかけたい。

日野市　地域包括支援センター

社会福祉法人寿優和会 日野市地域包括支援センターあさかわ
おしゃべりカフェ

■開催日程　9/16
■参加人数　18名

実施の目的

認知症の当事者や家族、地域の方、専門職などゆったりと過ごせる場所の提供。また、認知症のことを知りたいと思われている地域の方々の情報交換の場所、「認知症になっても安心して暮らせる地域づくり」を目的に設置。

当日の様子

・高齢者の他にも、地域住民のお料理研究家の方の話、占いの話、パズルを作成している人の話などさまざまな情報交換や話で楽しんでいた。
・認知症の当事者と友人が一緒におしゃべりカフェに参加し、ご本人から「みんなに感謝しています」などの話が聞かれた。
・ボランティアでスムージーやコーヒーを入れてくれる方がいて、スムージーの味や作り方のことで会話が盛り上がっていた。

地域の課題

・丘陵地帯に居住している高齢者が多いため、自力で外出が困難になるケースが多い。できるだけ、近隣に居場所作りが必要だと考える。
・口腔ケアの重要性を伝えるため、歯科衛生士などの講師を招きセミナー開催をしていきたい。また、その他の有用な情報を発信していきたい。
・対象が高齢者だけでなく、若い世代、子どもにも広げられるよう、地域住民、自治会などと連携をしていきたい。

調布市　デイサービス

公益財団法人調布ゆうあい福祉公社
調布市国領高齢者在宅サービスセンター
「だれでもカフェこくりょう」
「だれでもカフェぷちぽあん」

■開催日程　だれでもカフェこくりょう：9/24、10/22、11/26　12：00～15：00
　　だれでもカフェぷちぽあん：9/17　12：00～15：00
■参加人数　98名

実施の目的

　だれでもカフェこくりょうは、認知症の方、家族、専門職、だれもが参加・交流できるカフェ。また、認知症や介護について「相談したい」「話したい」「聞いてほしい」という思いの方も参加していただくカフェ。毎月１回、定期的に行っている。
　だれでもカフェぷちぽあんは、上記と同様の目的で、不定期で行っている。

当日の様子

　だれでもカフェこくりょうは、今年度より毎月開催したため、定着し繰り返し参加される方が増えた。認知症の当事者や家族の居場所であることと同時に、地域の方やボランティア、専門職がつながる貴重な場となった。現在介護している方が介護経験のある方と会話し、情報交換をした場に、地域包括支援センターの専門職もいたことから、担当包括職員と顔の見える関係を作ることができたケースがあった。
　だれでもカフェぷちぽあんは、おとぎ話の浦島太郎についての不思議な点について紙芝居を通し、お茶を飲みながら語らい合う場を設けた。初めて参加された方が増え、カフェや施設の存在をPRすることができた。

地域の課題

課題：若年性認知症の方やその家族にも多数参加していただき、憩える環境を整備すること。参加者の年代が高齢者が多いことから、多世代に参加していただくための企画、工夫が必要。
今後：12月にハンドベルを企画し、職員とボランティアのスタッフ側が行う演奏に、カフェ参加者にも参加していただくことを企画している。今後も、参加者のやってみたいという意見を聞き取り、参加者が望む企画を実施していきたい。

調布市　地域包括支援センター

社会福祉法人常盤会 地域包括支援センター ときわぎ国領
「ときわぎCafé Green」「そめちこもれびカフェ」

■開催日程　ときわぎCafé Green：10/27　13：30～15：30
　　そめちこもれびカフェ：11/20　13：30～15：30
■参加団体　社会福祉法人 調布市社会福祉協議会
■参加人数　26名

実施の目的

地域の高齢者が、お茶を飲みながら気軽に話ができ、介護の情報共有を行える場所をつくる。また、地域包括支援センターの周知と理解を促し、住民の「困ったら包括へ」という意識を高め、問題の早期発見や適切なサービス利用へ結び付けることを目的とする。

当日の様子

コーヒー・紅茶・小菓子を提供し、参加費は無料。参加者は近隣の高齢者が主で、8割が70歳代の方であった。ときわぎCaféGreenでは、包括職員が介護保険の申請方法やサービスについて、そめちこもれびカフェでは、高齢者虐待防止と住まいの選び方について話題提供を行った。参加者の簡単な自己紹介を行い、介護に対してのそれぞれの悩みや不安を話したり、包括職員が質疑に答えたり、活発な雰囲気であった。また、家族が入院中で介護認定を受けたばかりの方もおり、退院後のサービスについて包括に相談していきたい、といった実際に支援に繋がるケースもあった。

地域の課題

参加者側から「参加者が少ないのでもっと広めたい」「開催場所が遠いので、気軽に参加できるよう自治会の集会室を回って開催してほしい」「様々な地域の方と話せるので、今回の場所で引き続き開催してほしい」「虐待などマイナスな話ではなく、介護予防などプラスの話をしてほしい」など様々な意見があった。来年度も、引き続き開催予定であり、開催場所や内容、集客方法について改めて検討し、地域の中でこのカフェが新たな交流の拠点となるよう努めていきたい。また、本事業を契機に地域住民の現状やニーズをより掘り下げ分析し、社会福祉協議会と連携し新しい社会資源をつくるなど、具体的に介入し地域課題を少しでも解決していきたい。

武蔵村山市　特養

社会福祉法人恭篤会 むさし村山苑
かたりば食堂

■開催日程　毎月第３金　12：00～13：00
■参加団体　武蔵村山市南部地域包括支援センター
■参加人数　103名

実施の目的

地域の皆さんとともに食卓を取り囲むことで、楽しいひと時を味わってもらうため。

当日の様子

南部地域包括支援センター主催の「お互いさまサロン」終了後の開催となっている。

初めて開催する際は、参加者がどのくらい集まってくれるのか不安があったが、初回ということもあってか、沢山の方々に参加いただいた。「これはおいしい」「固い」など色々な意見をいただきながらの開催となった。また、地産地消の取組みとして、市内で生産された食材を取り入れるようにしている。11月の開催時には、近隣の障がい者施設の方々も来苑され、賑やかに食事をした。

地域の課題

今後も社会貢献事業の一環として、月１回定期的に開催していきたいと考えている。

今後、ますます参加者が増え、賑わいながら楽しんでいただけるようにしていきたい。今後は、近隣の子ども連れのお母さん方にも参加してもらえるような場になっていけば、世代間での交流も図ることができるので、よいのではないだろうか。

日の出町　特養

社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム
子どもランチ in ひのでホーム

■開催日程　10/22　11：00～14：30
■参加団体　日の出町社会福祉協議会、日の出町ボランティアセンター、民生委員、マウンテンズ（子どもやお母さんたちに大人気の保育園・幼稚園の先生たちの歌って踊れるローカルグループ）
■参加人数　88名

実施の目的

おいしいランチやレクリエーションを通じて、子育て世代・幼児・児童同士で楽しく交流しよう！

当日の様子

今回で３回目を迎えた子どもランチ。台風が接近しており天候が悪かったが、キャンセルはほぼなく、多くの方に参加していただけた。ビュッフェ方式でのランチの後に、マウンテンズのライブや、子どもたちのカラオケ大会を行い、大いに盛り上がった。イベント後のアンケートにも「ランチがとてもおいしかった」「イベントもあってとても楽しかった」などの声があった。

あわせて、日の出町ボランティアセンター主催のボランティア講座も行われ、イベントの準備を見学したり一緒に手伝いに入ったりして、勉強する機会も設けることができた。

地域の課題

11月４日（土）・５日（日）の日の出町産業まつり「食deつながれひろがれちいきの輪」につながるように、子どもたちにパン１個プレゼント券をつけた。

結果、産業まつりにプレゼント券を持った子どもやお母さんが20組ほど来てくれた。

福生市　特養

社会福祉法人もくせい会 ヨコタホーム
シルバー喫茶　たんぽぽ

■開催日程　毎週土　14：00～15：00
■参加人数　0名

実施の目的

毎週土曜日、カラオケ、売店等を行っている時間帯にお茶を飲みながらの介護相談会、健康相談会などを行い、地域の高齢者や子どもたちが集まれる場所、空間を提供する。

当日の様子

残念ながら、参加者なし。

地域の課題

宣伝活動等が不足しているため、今後は町内会と情報を共有し活発的な活動を行っていく。

板橋区　特養

社会福祉法人みその福祉会 ケアタウン成増

地域で学べる介護講座

■開催日程　9/11
■参加団体　社会福祉法人みその福祉会、株式会社トーカイ
■参加人数　15名

実施の目的

近隣にお住まいの皆様を対象に、在宅介護で役立つテーマを取り上げて福祉の専門家による分かりやすく、介護について学べる機会を提供する。

当日の様子

今年度年４回開催予定うち、２回目の講座にあたる今回は、福祉用具業者の方にご協力をいただき、「触って学ぶ介護講座（車椅子編）」を開催した。電動アシスト車椅子や、スクーター型の電動四輪車などの使用目的や操作方法について説明の後、屋外に出て実際に車いすの操作や試乗を体験していただいた。ご自宅で介護をしている参加者の方から、「これまでは車椅子で公園に行った帰りの坂道に苦労していたが、アシスト車いすは何もしていないのと同じくらい軽くてびっくりした」との声や、「30年くらい前と比べて車いすの技術革新に目を見張る」と驚きの声も聞かれた。

地域の課題

現在は、ランチサロンや認知症カフェに参加されている方の参加が多い状況にあるが、より広く近隣にお住まいの方に参加していただけるよう周知方法を工夫していきたい。

介護講座は昨年度より始めた取組みだが、今後も定期的（年４回程度）に地域の皆様とともに介護を学ぶ機会をつくりたいと考えている。

荒川区　デイサービス

社会福祉法人東京都福祉事業協会
荒川区立東日暮里在宅高齢者通所サービスセンター
介護者教室

■開催日程　4/21　14：00～15：00
5/25、6/24、7/15、8/24、9/28、11/16　13：30～14：30
10/20　12：00～13：00
■参加人数　49名

実施の目的

地域の住民やデイサービス利用者の家族に対する福祉・介護の情報発信の場として位置づけている。

当日の様子

毎月開催しているが、聞くだけでなく、実際に体験する内容も盛り込んでいる。また、参加者は、皆さん介護に関わる身近なテーマに、熱心に学習していた。
既に実施したテーマ：４月「通所介護家族懇談会（書道見学）」、５月「食中毒予防の話」、６月「着脱介助の基本」、７月「転倒予防体操」、８月「フットケア」、９月「認知症サポーター養成講座」、10月「栄養改善講習会（昼食試食会）」、11月「感染予防のポイント」

地域の課題

・認知症の要介護者の増加
・今後の活動として、12/14（木）「薬の話」、１/25（木）「睡眠について」、２/22（木）「排泄介助」、３/15（木）「口腔ケア」を予定している。

杉並区　特養

社会福祉法人真松之会 特別養護老人ホーム和田堀ホーム

試食会・施設見学会～わくわく特養体験～

■開催日程　11/24　12：00～14：00
■参加団体　社和田堀ホーム指定居宅介護支援事業所、デイサービスセンター和田堀ホーム、特別養護老人ホーム和田堀ホーム、短期入所生活介護
■参加人数　19名

実施の目的

知っているようでよく知らない特別養護老人ホーム。どんな方がどんな生活を送っているのか。嚥下が悪くなっても形を変えて食べられるということを体験してもらう。

当日の様子

一般の方、事業所の方の２グループに分けて行った。機械浴に興味深々、食事形態が変わっても味がしっかりついているとの驚きの声があがった。当日参加の方もいらして、大盛況となった。

地域の課題

わたしたちが、日々疑問を持ちながら在宅介護をしていることが多いことがわかった。機械浴や食事の形態など知識では知っていても、実際に体験してみなければわからないことがある。

この施設見学会以外に、①地域の盆踊りに相談ブースの設置、②今年度から杉並区の小学校での認知症サポーター講座のスタッフとして参加、の２つの取組みに参加した。盆踊りの相談ブースでは、天候が悪かったせいか２日間で２組の相談であった。

排泄介助など日常生活で必要な介護・介助と、施設見学を組み合わせて、地域の方々に特養の生活を知ってもらい、地域に根付いた施設づくりを続ける。また、在宅介護に役立つ技術・情報を提供する。

練馬区　特養

社会福祉法人キングス・ガーデン東京 練馬キングス・ガーデン
サポートネットワーク第３回シンポジウム

■開催日程　10/7　13：00～16：30
■参加団体　練馬キングス・ガーデン、東中野キングス・ガーデン、練馬の丘キングス・ガーデン
■参加人数　124名

実施の目的

少子超高齢社会が進む中、地域のネットワークづくりを推進するサポートネットワークプロジェクトの一環としてシンポジウムを開催しており、３年目を迎える。今回は「わが町で共につながる」－何故つながろうとするのか－をテーマとし開催。

当日の様子

多くの地域の方々よりご協力を賜り、練馬区立区民産業プラザココネリホールを会場に開催された。当日は晴天に恵まれ、用意した座席が満席となる120名を越える多くの地域の方々の来場があった。支え合って共に生きる地域を目指し、当法人がすすめる「サポートネットワーク」プロジェクトによるシンポジウムは、今回で第３回目。プログラムは、地域とのつながりに使命を持ち活動をしている３名による実践発表、講師を交えての座談会、講演会と続いた。それぞれ異なる立場からの貴重な提言などの発信があり、有意義なひとときとなった。

地域の課題

地域共生のネットワークづくりのため、今後も続けて活動をしていきたい。

大田区　養護

社会福祉法人東京蒼生会大森老人ホーム 大森老人ホーム
高齢者体験

■開催日程　不定期
■参加団体　大森老人ホーム
■参加人数　50名

実施の目的

近隣小学校・中学校にて高齢者体験を行い、施設を知ってもらいながら、地域の高齢化社会について、理解してもらう。

当日の様子

当日は、高齢化社会について、日本と外国を比べ説明をした。高齢者体験では、白内障ゴーグル、手袋をつけお金を取り出す、新聞を読むなどの体験を行った。車いすの操作の基本を学んでいただいた。

小学生からは「高齢者の方がレジでお金を払うのに時間がかかってしまう大変さがわかった」「地域で困っている人がいたら、声をかけて助けてあげたい」「車いすは、ゆっくり押し、声をかけないと怖いことが分かった。家族が乗るときにも気をつけたい」などの感想があった。

地域の課題

これからも、近隣の児童館・小中高等学校などとの交流の機会を大切にしていきたい。
また、地域包括支援センターとも一緒に取組んでいくことを考えている。

世田谷区　特養

社会福祉法人敬心福祉会 特別養護老人ホーム千歳敬心苑
特養へ行こう！

■開催日程　11/5　14：00～17：00
■参加人数　7名

実施の目的

閉鎖的なイメージを持たれがちの特養のイメージアップ。特養のイメージや認知症介護のイメージを変える。

当日の様子

現在実務者研修受講中で、これから介護業界で働きたい7名の方から参加申込みがあった。特養の見学をしていただき、その後、世田谷区民会館で開催されていた「せたがや介護の日」に参加。当施設の職員達による「演劇集団・ちとせ座」の公演を見ていただいた。参加者からは「楽しかった」「特養、認知症のイメージが変わった」という意見をいただいた。

地域の課題

参加者は実務者研修受講中で、他の特養での実習も経験していた。当施設を見ていただいた後、「同じ特養でも施設によって全然違う」という意見が大半だった。当施設はこの一年、地域の方々に注目していただく機会が増えている。見られる意識を持つことで、魅せる介護が可能になると感じた。介護サービスの質を高めるためにも、自施設だけでなく、近隣の施設と合同で地域向けイベントなど開催できればと考えている。

三鷹市　デイサービス

三鷹市高齢者センターけやき苑
三鷹市西部地域包括支援センター
第17回 けやき苑地域サービスデー

■開催日程　10/8　10：00～14：30
■参加団体　アクティビティセンターはばたけ、工房時、巣立ち工房、介護者ひろばけやき苑、ケアサポートけやき、パンプキンの会、はちのこいこっと、にじの会ワークショップハーモニー、地域ケアネットワークにしみたか、三鷹市社会福祉協議会、みたかボランティアセンター
■参加人数　306名

実施の目的

①「老い・認知症・障がい・健康」に関する理解を地域に広め、共に支えあうことを考えるきっかけにする。
②地域住民に向けて健康への意識を高め、健康維持への意欲を促すことで、介護予防や認知症予防への取組みのきっかけとする。
③地域店舗や近隣施設による模擬店への出店をしてもらうことで、地域交流の活性化を図る。
④景品づくりや苑内装飾・作品展示など、通所利用者が主体的に取り組むことで地域サービスデーをともに作り上げる。
⑤広報活動を通じて、地域への啓発活動を行ない、社会資源の情報発信･交流の機会とする。

当日の様子

今年度は「私たちの老い支度～自分のため・家族のため～」をテーマに、「介護予防・認知症・老い支度」に関する企画を行なった。パワーポイントや展示による情報提供、日頃から取り組める体操や職員による寸劇、老い支度のイメージや声をまとめた手作り冊子などを紹介している。来場者からは「興味深く聞くことができた」「分かりやすい内容だった」「老い支度を考えるきっかけになった」「家族と話すきっかけができた」などの感想が寄せられた。また、健康チェックや体力測定にも多くの人が集まり、自分の体力年齢や健康予防への関心の高さがうかがえた。

地域の課題

地域包括支援センターにより、地域の高齢者状況などが把握されており、ひきこもり予防や介護予防を目的とした「カフェやサロン活動・体操教室・脳トレ」などの場所づくりや運営の担い手づくりに取組んでいる。参加者も増えており、今回の地域サービスデーにも誘い合って来場するなどの支援効果もみられている。また、けやき苑は地域住民に向けたランチサービス（事前予約制）を実施しているが、予約なしでも食事提供ができるように体制を準備している。

府中市　複数施設共催

社会福祉法人多摩同胞会 子ども家庭支援センターしらとり
しらとり学習サポートサロン SKY

■開催日程　毎週月　17：30～20：30
■参加人数　10名

実施の目的

府中市における中高生を対象とする気軽に立ち寄れる安心スペースとしての居場所づくりと学習支援。

当日の様子

参加学生は学校や部活動、用事を済ませ、来室。

学校の宿題をする子、受験勉強をする子などそれぞれのペースで取組み、わからない箇所をスタッフと一緒に考え、サポートしてもらいながら進める。

また、参加学生同士やスタッフと学校の友人、学校での出来事、家族の話などをしながら和やかな雰囲気で過ごしている。

地域の課題

近隣在住の中学生やサポートを必要とする高校生への支援。

地域児童の健全育成の推進。

昭島市　その他

社会福祉法人同胞互助会
楽夢食（らくむ）

■開催日程　11/18　13：00～15：30
■参加団体　社会福祉法人同胞互助会、栄養ケアステーション愛全園、管理栄養士ボランティア会
■参加人数　70名

実施の目的

地域住民の健康維持を支援していくことを目的に、医療、栄養、介護の専門職が連携して行う学習会である。ワンポイント健康講座、グループ料理実習を年３回行う。

当日の様子

これまで法人が、地域の中で取組んできた楽夢食をもっと広く知ってもらおうと、今年は法人の文化祭の中で開催した。

楽夢食のテーマは「オーラルフレイルの予防」。まずは、漢方医である蓮村幸兌法人理事長の「お口から始まる健康維持」の講義から始めた。「口腔機能の衰えが食事の偏りに繋がり、身体の衰えと繋がっていく」「食事を美味しく食べられる、おしゃべりな方は問題ないですよ」と、ユーモアを交えてお話ししていただいた。

続いて、管理栄養士から「噛む料理ってどんな料理？」として、様々な食材を用いた調理実演があり、それらの一口試食を皆で行った。一口と言っても、次から次へと様々なメニューが運ばれてきて、デザートまであり、すっかり満腹になってしまった。

今回は、文化祭とコラボしたため、普段とは違うメンバーもたくさん参加してくださり、皆で、ワイワイガヤガヤと楽しく過ごすことができた。

地域の課題

今まで地域で定着している事業も、今回のように少し目先を変えることで、新しいメンバーや新たな地域のニーズの発掘に繋がっていくと実感した。

東大和市　複数施設共催

社会福祉法人多摩大和園
地域講演会「地域共生について考える
～誰もがいつまでも安心して暮らせる街を目指して～」

■開催日程　6/18　13：50～16：00
■参加団体　主催：社会福祉法人多摩大和園
　　後援：東大和市、東大和市社会福祉協議会
■参加人数　400名

実施の目的

少子高齢社会を迎え、また、震災等による甚大な被害の発生により、地域力の向上が叫ばれる時代。子どもも、おとなも、高齢者も、障がいのある人も、誰もが住み慣れた地域で、いつまでも安心して暮らせる街づくりが重要となる今。先駆的取組み23年にわたる実績を持つ「デイサービス　このゆびとーまれ」の創始者・惣万佳代子さんをお迎えし、「富山型デイサービス」をひとつの題材として、東大和市における地域共生について考える。また、基調講演、実践事例紹介を踏まえ、パネルディスカッションにより意見を交わすことを目的として開催。

当日の様子

地域交流及び地域貢献の一環として、当法人主催による地域講演会を企画し、東大和市ならびに東大和市社会福祉協議会の後援を受け、開催した。チラシを作成し、介護事業者などの関係各所にお知らせするとともに、新聞折り込みにも入れ込み、市民の皆様にも広報した結果、約400名の方が足を運んでくださった。題材として、子どもも高齢者も障がい者もひとつ屋根の下で活動する「富山型デイサービス」を取り上げ、富山県で実際に富山型デイサービスを運営する２名の講師を招いた。冒頭、市長の挨拶によって幕を開け、惣万佳代子氏による基調講演、仙田智治氏による実践事例の紹介により、地域共生に関する具体的な話を聞いた。その後、２名の講師と当市の福祉部長、子育て支援部長に登壇いただき、当法人の代表職員１名が加わり、パネルディスカッションを行い、当市の現状と課題を踏まえ、当市における地域共生について意見を交わした。

当日のアンケートにおいても、講師に対する称賛の声や講演会の継続的な開催を希望する声が多く、地域共生の重要性を認識してくださったことを伺えるご意見が多数寄せられた。また、当法人の職員全体研修としても活用し、多くの職員が学びを得た。

地域の課題

今後も継続的に地域講演会を開催し、少子高齢化を踏まえた課題として、地域包括ケアの推進や地域共生について、地域の皆様と共に積極的に考え、具現化していきたい。

開催にあたっては、PR方法を見直し、開催情報などについて、より丁寧に情報発信できるよう、計画的に取組みたい。

東村山市　その他

社会福祉法人東村山市社会福祉協議会
東村山市内社会福祉法人連絡会
東村山市内社会福祉法人連絡会 紹介パネル展

■開催日程　10/24～10/27　9：00～16：00
■参加団体　村山苑、白十字会、東京都社会福祉事業団、いずみ、恩賜財団東京都同胞援護会、土の根会、三篠会、七日会、東村山市社会福祉協議会、敬愛会、東京コロニー、大典福祉会、そらの会、東京蒼生会、梨世会、ユーカリ福祉会、はるび、慈光会、東村山けやき会、山鳩会、緑風会、天童会、林檎の木、小さい共同体
■参加人数　234名

実施の目的

東村山市内の社会福祉法人および社会福祉法人連絡会のPR。

当日の様子

市役所に用事のある方が、来庁ついでに足を止めて下さる例が多かった。

高齢の方から何件か介護関係の質問や相談を受けた。中でも「どこに相談すれば良いのか」「近所にこの（パネル展に出展している）法人があるが、直接相談に行っても良いのか」等の内容が多かった。

また、パネルに興味を持たれた後に法人紹介冊子を持ち帰る方も多かった。

地域の課題

介護関係の相談が複数あり、「どこに話して良いのか」「こんなことを相談して良いのか分からないので、パネル展を機に聞いてみた」という方が多かった。介護や老後の生活に関して気がかりなことはあるが、相談先や相談方法が分からない人、施設に直接電話をしたり訪ねたりすることに抵抗がある人が少なからずいると感じた。

こうした人は、介護関係の情報を得る手段が無い、もしくは相談先は分かっているが敷居が高いと感じているようなので、今回のようなアウトリーチ的に相談に乗れる場が大切だと感じた。

また、パネルはどれもとても見やすく作られており、各法人に対する市民の意識や認識はある程度高めるきっかけとしては成功だったが、「社会福祉法人連絡会」自体のPRがうまくできたかどうかが課題だと感じている。

青梅市　特養

社会福祉法人吹上苑 やすらぎの家

「学習障害のある中学生の学級会活動」「やすらぎの家」

■開催日程　毎月第１、第３木　16：00～17：00
■参加団体　青梅市立吹上中学校ときわ学級
■参加人数　12名

実施の目的

学習障がいのある中学生の学級会活動は学校内で行われていたため、１年生から３年生の学習レベルの差もかなりあり、学級会活動もマンネリ化し生徒たちの個性、能力が発揮できる機会が少なくなっていた。そこで、施設で利用者との活動プログラムを加えることにより、社会との接点や社会の中で役に立てるという意欲にもつながる活動を行うことを目的とする。

当日の様子

施設の中で利用者と共に手芸や工芸品、絵、行事の飾り、看板製作など利用者とともに作成した。

10月28日より11月５日まで文化祭を行い、共同で作成した作品展示会を行った。

12月23日のクリスマス会に向け、ツリーや施設内飾りも作成を続けており、学習障がいのある生徒は登校拒否になりやすいが、本年度は登校拒否なく活動ができている。

地域の課題

地域での学習障がいのある子どもたちのレベルは差があり、広域の地域で１つの学校、１学級で受け入れているが、説明してすぐ活動できる生徒から何度も説明して時間が必要な生徒までいる。そのため、活動内容に幅を持たせなければならない。本年度は登校拒否の生徒はいないが、複数の生徒が登校拒否となることもあり、活動の継続性に問題となることがある。

文京区　複数施設共催

アクティブ介護29実行委員会

アクティブ介護29～文京みんなのつどい～

■開催日程　11/21　10：00～16：00

■参加団体　文京区社会福祉協議会、文京くすのきの郷、文京白山の郷、文京千駄木の郷、ゆしまの郷、洛和ヴィラ文京春日、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京くすのき高齢者在宅サービスセンター、文京向丘高齢者在宅サービスセンター、文京白山高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター、文京本郷高齢者在宅サービスセンター文京千駄木高齢者在宅サービスセンター、ケアワーク弥生、ユアハウス弥生、リハビリ道場、老松ケアサービス、トチギ介護サービス、小石川医師会居宅介護支援事業所、ローズケア、太平ヘルスケ、アドワンスサポートコスモス、小石川みやびの郷、アリア文京大塚、ミニケアホームきみさんち、パナソニックエイジフリー介護チェーン城北、社の癒しハウス・文京関口

■参加人数　1000名

実施の目的

区民および次世代の介護を担うものに対して、以下の取組みを通して、介護のイメージ向上を図る。また、たとえ高齢で要介護状態、認知症であっても安心して生活できる地域社会に寄与することを目的とする。

当日の様子

１階２会場は午前10時から、地下２階は昼12時より開始。それぞれの会場には専門学生から高齢者まで幅広い世代の方の来場があり、混み合うレベルではなかったものの、来場者が途切れることはなかった。当日朝の段階では、会場庁舎内の来庁者自体が少なく、当イベントへの来場者数も伸びないことが心配されたが、開始時間以降は徐々に増え、イベントのためにわざわざ来庁いただいたという印象の方も多かった。

地域の課題

イベントを始めた平成21年は若い世代向けの目的が強かったが、国で一億総活躍社会を目指している今では、介護業界でアクティブシニアの活動の場をつくっていくことが重要になるとされる。新たに50歳代、60歳代向けのブースや活躍の場面のPRといったプログラムを検討したい。

豊島区　特養

社会福祉法人フロンティア 特別養護老人ホーム養浩荘
氷川神社祭礼

■開催日程　9/16
■参加人数　300名

実施の目的

地域住民と一緒に神輿を担ぎ、また30年来の休憩所を提供することで地域に寄り添う施設とし、伝統行事に参加する。

当日の様子

８：30頃より、職員が振舞うおでん、おにぎり、漬物、果物の料理を始める。出来上がりは、17：00になる。

17：30頃、施設職員10数名が祭り装束に身を固め、お神酒をいただいてから、町会のお神酒所に出発。

18：00頃、お神輿が施設に到着し、利用者の前で行きつ戻りつして楽しませて貰っている。お礼に利用者からは、おひねりを子ども、大人別に手渡しをして喜んでいただいている。その後、用意した料理を担ぎ手・地域の方々が召し上がり、最後に一本締めをしてお見送りしている。

施設側は振舞いの準備を行うとともに、夜の神輿到着を心待ちにしているこの地域出身の利用者が多いため、各フロアにアナウンスして祭りの雰囲気を盛り上げている。

地域の課題

平成31年度に、当施設は移転し跡地の活用は２年後の予定である。長年にわたる休憩所の役割を通して築き上げた町会との信頼関係、当施設での振舞いを心待ちにしていただいてる地域の方々との関係性を維持し続けるため、移転後の跡地活用建設工事の間、および今後も、同様に継続していくためにはどうすれば良いかが課題である。

豊島区　デイサービス

社会福祉法人フロンティア
養浩荘高齢者在宅サービスセンターいよけんの郷
いけよんプロジェクト

■開催日程　３ヶ月に１回
■参加団体　豊島区医師会、歯科医師会、薬剤師会所属機関、介護事業所、豊島区民社会福祉協議会、豊島区在宅医療相談窓口、豊島区議、NPO団体、民間企業など
■参加人数　40名

実施の目的

医療、介護職の連携を深め、医療介護の啓発と普及向上を図るとともに、地域の誰もが自分らしい暮らしを続けられるように、つながり・支え合いのしくみ作りに取組んでいる。

当日の様子

平成29年６月に設立総会をおこない、正式に団体設立した。２カ月に１度のコアメンバーによるミーティングで年間予定や各行事などの打合せをしている。主な行事としては、地域のまつりにブースを出展し、医療・介護相談や在宅医療に関するアンケートの実施、多職種参加による勉強会（口腔ケアや医療介護連携システムについてなど）を行っている。

地域の課題

地域包括ケアシステム構築のため、多職種連携のしくみを作っていくとともに、地域住民とのネットワーク形成、つながり・支え合いのしくみ作りが必要である。

板橋区　特養

社会福祉法人至誠学舎東京 特別養護老人ホーム みどりの苑
町会合同炊出し訓練

■開催日程　10/5　10：30～12：30
■参加団体　ケアタウン成増、板橋区前野地域包括支援センター、台東区特別養護老人ホーム台東、特別養護老人ホーム菊かおる園、特別養護老人ホーム養浩荘、特別養護老人ホーム文京くすのきの郷、神明園、高齢者在宅サービスセンター山吹の里、偕生園、東京都社会福祉協議会、福祉新聞、みどりの苑防災推進委員、前野町５丁目町会員、志村消防署、志村警察署
■参加人数　50名

実施の目的

大規模災害発生を想定し、施設と地域で合同炊出し訓練を行い、相互の災害支援活動の関係を深めるほか、連携を図るための情報交換を目的とする。

当日の様子

恒例となっていることもあり、町会員の方々は手際よく薪を準備し、釜に火を入れる作業も手慣れていた。炊出しの豚汁ができるまで、志村消防署と志村警察署の署員から防災への注意喚起と災害共助の話があった。

夜間を想定し、炊き出したご飯は真っ暗にした部屋で投光器の明かりだけを頼りにおにぎりをにぎるなど不自由な環境をあえて作り、その中で配膳作業を行った。できあがった豚汁とおにぎりを試食した後、施設と町会との懇談会を開催し、情報交換を行った。

地域の課題

みどりの苑がある前野町は、坂が多い地域で、土砂災害警戒区域に指定されているほか、町内には土砂災害危険個所もあることから、水害・土砂災害も地域の課題となっている。また、町会内会員は高齢化がすすみ、若い人の手が不足していることも心配されているため、火災や風水害などの有事に対し、施設と町会との協力体制は互いに欠かせないものになっている。

地域住民と施設職員の防災意識を高め、互いの協力関係を密にし、合同での訓練活動を継続していく。

江戸川区　特養

社会福祉法人光照園 江戸川光照苑
江戸川光照苑マルシェ

■開催日程　9/8、10/13、11/10　11：00～13：00
　　11/19　10：30～14：00
■参加団体　江戸川光照苑、隠れ家、江戸川区立障害者就労支援センター、東京光の村授産学園、元明館
■参加人数　150名

実施の目的

地域の障がい者団体が行っている販売に対し、施設の場所を提供し、江戸川光照苑を取り巻く地域の方々に安価で販売することにより、各団体の存在を認知していただくとともに、施設を利用する高齢者との関わりを重視し、情報を発信できるようにしていくこと。

当日の様子

毎月第２木曜日に高齢者在宅サービスセンターの玄関前を解放し、各団体に提供し、江戸川区産の季節の新鮮野菜や、季節のお花、江戸川区産シイタケ、きくらげや、授産施設が製造・販売しているパン・バケット・サブレ・クッキーなどを販売した。また地域の商店より焼き鳥やおにぎりなども販売した。（９月、10月、11月）

また、毎年恒例の「江戸川光照苑祭」にも出店してもらい、地域の皆様や施設利用者、職員が利用した。

「江戸川光照苑祭」には70名を超える方々が来苑され、玄関前に設置されたマルシェを利用される方が多く、賑わいを見せていた。就労センターや授産施設の人と地域の方々の交流の場にもなった。

地域の課題

昨年20周年を迎えた当苑ではあるが、もっと地域に根差す福祉拠点としての役割を発信すること。また昨年度から開始した「江戸川光照苑マルシェ」の存在も発信し、集客力を高めるとともに、マルシェの他にももっとそれぞれに有意義な活動、地域にとっても有益となる活動を考えていきたい。

多摩市　その他

KAOFES実行委員会
（協力：社会福祉法人大和会 特別養護老人ホーム愛生苑）
KAOFES

■開催日程　9/10予定

実施の目的

地域イベントの積極的な参加を通じて、地域公益活動を実施するため。

当日の様子

雨天のため中止。

地域の課題

子どもの介護職体験のイベントを予定していた。中止で残念だったが、また来年も参加しようと思う。

昭島市　複数施設共催

社会福祉法人同胞互助会 社会福祉法人ゆいのもり
すずらん喫茶 手作りパン販売

■開催日程　毎週火　11：00～15：00
■参加団体　社会福祉法人ゆいのもり福祉協会「食工房ゆいのもり」
■参加人数　50名

実施の目的

地域の障がい者作業所「食工房ゆいのもり」の就労支援の一環として、施設の場所を提供し、天然酵母のパンとコーヒーの販売を行い、障がい者と高齢者・地域住民の交流の場として活用する。

当日の様子

毎週火曜日は「パンの日」として定着していて、施設の利用者も職員も楽しみにしている。お目当てのパンを買おうと販売前から待っている利用者もいらっしゃるほど。天然酵母のパンや、地元の食材を生かした季節限定のパンは、家族や地域の方にも好評である。

また、販売が一段落した頃、常連の利用者が集まって、コーヒーを飲みながらのおしゃべりを楽んでいる。

地域の課題

これからも、同じ地域の中にある違う種別の法人がつながることで、互いの利用者や地域の方の満足につなげていきたいと考えている。

武蔵野市　特養

関前なのはなサロン
（協力：社会福祉法人プラットホーム 武蔵野館）
なのはなサロン

■開催日程　毎週日　10：30～12：30
■参加団体　社会福祉法人武蔵野館、武蔵野市スポーツ推進委員協議会
■参加人数　241名

実施の目的

ひとり暮らしや外に出ていく機会が少ないなど、関前地域にお住まいの高齢者が生きがい活動と健康で元気に暮らすきっかけを提供し、地域の人同士のつながりを深めることを目的とした体操や運動、工作、歌、講演会、食事などを行う。

当日の様子

毎回、身体と口腔の体操を20分ほど実施した後、参加者自身が「自らの健康を考える」「地域の一員としての役割を再獲得する」を基本として参加者と協議をしたプログラムを行っている。

工作では、関前コミュニティセンターから行事・イベントの看板作成の依頼を受け、作成する役割を担い、歌では、音楽療法や小学生とのコラボレーションによる世代間交流（伝承）を行い、講演会では、地域包括支援センター職員による医療と介護の連携や、薬剤師による薬との付き合い方を学び、隔週ではあるが昼食を通して、グループでの昼食会などを実施している。

民生委員の紹介により、家族を亡くし閉じこもりがちだった方が、サロンに参加し生きがいを見つけたり、また、遠方より転居された方が、地域の方々と関わりを持つことで慣れない居住地での生活に安堵の気持ちを抱くなど、様々な効果が発揮されている。

地域の課題

近隣には新たに住宅が増え、地域との関わりがなかなか持てない方や、一人暮らしや老々世帯・病気や障がいを負ったことを機に外出の機会や人との関わりが極端に減ってしまった方などが多く混在している。

関前地域に在住の高齢者の方々が、地域とのコミュニティや住民同士の関わり合いをもう一度取り戻し、地域を担う一員として自分たちの健康増進を図ること、地域への貢献を果たすことへの機会となるよう民生委員や福祉の会、地域包括支援センターなどと協動し、今後も様々な活動を計画している。

武蔵野市　その他

吉祥寺南町コミュニティセンター（協力：社会福祉法人武蔵野 ゆとりえデイサービスセンター）
親子広場

■開催日程　11/10
■参加団体　吉祥寺南町コミュニティ協議会
■参加人数　54名

実施の目的

地域にお住まいの子育て中の親子（乳幼児の親子）に、地域の高齢者福祉施設に足を運んでいただき、デイサービス利用者（高齢者）と交流を図る。また、親御さん同士も子育て談義を通して交流を深める。

当日の様子

当日は吉祥寺南町コミュニティ協議会の親子広場担当の方が４名参加し、運営のサポートをしていただく。

子ども３名・親３名の計６名が参加し、デイサービス職員が進行役となり、歌や手遊びなどのプログラムを実施した。

乳幼児の姿を見たデイサービス利用者からは笑顔が溢れ、利用者とのふれあいを通して我が子の新たな一面を見た親が喜び、とても穏やかな雰囲気の中で時間を過ごすことができた。

親御さん同士の交流も深まった。

地域の課題

今後も、毎月第２金曜日の活動を継続していく。

現在、吉祥寺南町コミュニティセンターが改修工事を行っているため、コミュニティセンターで開催している「コミセン親子ひろば」が、第４週金曜日に「ゆとりえ」に場所を変えて、平成30年３月まで開催している。

武蔵野市　複数施設共催

サンヴァリエ桜堤自治会
（後方支援：社会福祉法人 武蔵野 武蔵野市桜堤ケアハウス）
よりあい食堂かよう

■開催日程　毎週火　11：00～14：00
■参加団体　サンヴァリエ桜堤自治会、団地住民ボランティア等、武蔵野市桜堤ケアハウス
■参加人数　390名

実施の目的

・団地で暮らす（孤食状態の）高齢者などを意識して、食を通じての住民同士の交流、顔なじみの関係づくり、暮らしや生活での困りごとへの相談対応など。
・介護予防に視点をあてた活動機会（歌活動、体操教室）の提供。

当日の様子

・昼食前の11時15分からは、第１・３週は理学療法士による「いきいき健康体操」、第２・４週は音楽療法士による「歌の会」、第５週は地域包括支援センター職員による「介護・福祉・健康講座」を実施しており、食事を利用する方の６割がこれらの活動に参加している。
・地元の民生委員や、近隣の社会資源となる関係団体の職員などの参加もある。
・武蔵野市の「いきいきサロン事業」でもあり、予約しているのに参加されない方には安否確認も行っている。
・食事をしながら顔なじみの方々と顔を合わせるので、おしゃべりも盛り上がっている。
・日々の食堂運営では、利用者及びボランティアの利用調整と会場予約、食事前の介護予防事業の講師への交通費などの支給は自治会が行い、当施設は食の提供、相談コーナーの開設、介護予防の講師との調整を担っている。

地域の課題

・団地住人向けに行った「食と生活のアンケート調査」では、３食とも、孤食状態である方が回答者の半数を超えていることが分かった。食を通じての交流や、新たな関係性の構築が必要であることを自治会役員などと当施設職員が認識して、この事業を平成26年９月にスタートさせた。
・デイサービスや地域包括支援センター、ケアハウス相談員、食事スタッフなど様々な職員が関わることで、必要なサービスに繋げることもできた。複数の方を、よりあい食堂かようをきっかけにデイサービスなどのサービス利用につなぐこともできた。
・ごみの分別や出し方、郵便物の仕分け、食事の準備など日常生活の困りごとも増えている。
・最近では認知症を患う方も多く、開催日の火曜日以外に集会室に来てしまったり、逆に曜日が分からず来ない方が増えている。認知症になっても在宅生活が続けられるよう、地域のケアマネージャーなどとも協力して支援していく。

東久留米市　施設連絡会

東久留米市内介護サービス事業者協議会
「介護の日」フェア2017
～考えてみよう家族の介護、考えてみよう親の介護～

■開催日程　11/11
■参加団体　高齢者福祉施設、高齢者保健施設、居宅介護支援事業所、通所介護、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、配食サービス、グループホーム、有料老人ホーム
共催　東久留米市福祉保健部福祉課　明治薬科大学附属薬局
■参加人数　255名

実施の目的

11月11日「いい日、いい日」の「介護の日」にちなみ、広く市民に浸透する広報活動を行う。市内介護サービス事業者協議会と市民が一体となり、介護に関わる相談等を行い、「つながれ ひろがれ ちいきの輪」の実践を可能にする。

当日の様子

当日は晴天と土曜日が重なり、家族連れ、小、中、高校生も来場。マスコットの着ぐるみ、アクティブル君が活躍し集客に一役を担ってくれた。介護ロボットスーツの展示コーナーでは介護職員がたくさん集まっていた。通所介護の福祉用具を使ったゲームコーナーではその後通所介護の利用につながる高齢者がいた。無料マッサージ体験、薬の相談、骨密度無料測定を導入したところ、多くの方が足を止めて興味を示した。駐車場では車いす試乗や足湯があり、家族連れでほっこりと足湯で温まり過ごしていた姿が見られた。終了時間を昨年より１時間延長したことで、買い物ついでの集客もよかった。子どもの頃から移動用の入浴槽に関心を持ってもらう良いイベントになった。

これからも続けてほしいというアンケートが寄せられた。

地域の課題

会場までは交通機関がイオンまでの無料バス、イオン経由の路線が運行されている利便性と、市報やイオンでの掲示物の宣伝効果もあると思われる。現在介護中の家族は家を空けることが難しく、会場に来られた方は自分たちの将来を考えている人たちが増えていると感じた。30歳代が増えてきたのも今までと違った傾向だった。市内の住民のほか、県外、都内、近郊の各市からも足を運んでくれた。介護の日のイベントに限らず協議会では、各団体が講師を呼び研修会や制度改正のための勉強会を開催して横のつながりはできていると考える。また事業者同士で呼びかけ、ちいきの輪は確実に増えつつある。

品川区　複数施設共催

社会福祉法人品川総合福祉センター 品川区立中延複合施設
中延複合施設 くつろぎ祭り

■開催日程　10/14　11：00～14：00
■参加団体　浜２シニアチア、中央区立日本橋中学校ダブルダッチ部、手話＆ステップ野の花、HIVAORA、チーム若葉・チームみなもと、中六さくら会
■参加人数　300名

実施の目的

区民の方々に施設の事業内容について理解を深めていただき、福祉啓発や、施設の利用者との交流などを目的とする。

当日の様子

区議会議長をはじめ区関係者、他法人から多数の来賓者を迎えて開会式を行った後、上記参加団体より約20分ずつ程度のアトラクションが発表された。アトラクションにはシルバー世代からの発表もあり、発表者側からも満足な様子が伝わってきた。会場の反対側では模擬店を開いてカレーライス、焼きそばなどの販売を行った。また、入所者、利用者の作品展示や在宅介護の相談窓口などを設けるなど、福祉啓発や地域住民との交流の場を提供した。最後は参加者全員で盆踊りを踊り、盛況のうちに終了した。

地域の課題

プログラムの一層の充実や幅広い広報活動を通して、地域住民や家族の方々に施設の事業内容をより深くご理解いただけるよう今後も尽力したい。また地域の高齢者にもっと参加を呼び掛けたい。

品川区　特養

社会福祉法人品川総合福祉センター
しなふく紅葉まつり

■開催日程　10/22　10：30～14：30
■参加団体　社会福祉法人福栄会、社会福祉法人げんき、関東電気保安協会、品川児童相談所、品川区職員被災地支援ボランティア「みゃっこ隊」、プルデンシャル生命、八潮一号棟自治会婦人部、大井第一民生委協議会、大井第二民生委員協議会、八潮民生委員協議会、品川区青少年地域貢献ボランティア役立ち隊
■参加人数　300名

実施の目的

作品展示を通じ、施設利用者の文化的な活動の促進。
模擬店やアトラクションを通じて地域住民との交流を図り、相互理解をより深める。

当日の様子

台風の影響でかなりのレイアウト変更があったが、大雨の中、沢山のお客様に来ていただいた。施設では、ハロウィンの飾りつけや様々な仮装をした職員やボランティアがお祭りを盛り上げた。また、コンサートに出演した保育園の園児も色々な仮装をして、手話を取り入れた歌や園歌を披露し、高齢者や障がい者、地域の皆様に感動と笑顔を振りまいていた。

地域の課題

八潮地区は、高齢化率が品川区でトップとなり、今後も増え続ける高齢化の現状にどう対応していくかが課題である。地域をつなげ横のつながりを強化していき、課題解決に取組みたい。

来年度から、法人のお祭りが年１回の開催となるが、より一層皆様に喜んでいただけるよう検討していく。

渋谷区　特養

社会福祉法人パール
パールよろず博

■開催日程　11/23
■参加団体　社会福祉法人パール、フランスベッド（株）
■参加人数　30名

実施の目的

利用者家族や地域住民、同業者の方へ向けた社会福祉法人パール及び福祉事業についてのPR。

当日の様子

当法人の利用者・家族や、介護相談をされている方、他事業所職員の皆様などに来館していただく。「施設見学ツアー」では特養・デイサービスのフロアを回り、利用者の普段の生活状況や、職員の勤務姿勢などを案内した。見学後には配食サービスの試食、ハンディキャブサービス車輌や車いす・ストレッチャーなどの体験をしていただいた。その他、デイサービス・介護予防事業参加者の創作品展示「パール美術館」や「認知症サポーター研修」「バザーブース」「レク体験コーナー」「リラクゼーション・ブース」などを開催。またフランスベッド様の協力も得て、福祉用品の展示・販売も行った。少人数づつ各コーナーを見ていただいたため、参加者一人ひとりに多くの時間を割いてふれあうことができ、質問にも丁寧にお応えすることができた。

朝からあいにくの雨天のためか、来客数は期待以上に伸びなかったことが残念。この企画を通じて、部署を超えた職員間の連携を高める効果もあった。プログラムの時間が重なり、全てのプログラムに参加できなかったとの声が聞かれたため、次回開催時の課題となった。

地域の課題

参加された方の中には、介護保険や自費サービスを含め、福祉施設でどのようなサービスが受けられるのか、十分に把握できていないという方もいらっしゃった。介護をはじめ「困った時はパールに相談！」という合言葉をこれからも地域にアピールしていかなければならないと感じた。

日頃から地域に開かれた施設を目指し、介護保険事業はもちろん、介護保険外事業でも様々なニーズにお応えできるよう、これからも地域イベントへの積極的参加・出張相談会などの開催など様々な形で継続していく。

渋谷区　特養

社会福祉法人渋谷区社会福祉事業団 渋谷区あやめの苑・代々木
地域フェス・あやめ ～ここからみんなで～

■開催日程　10/8　11：00～14：00
■参加団体　協賛企業10社、あやめの苑・代々木、あやめの苑・代々木地域包括支援センター、あやめの苑・代々木居宅介護支援事業所、ボランティア団体「あい」
■参加人数　150名

実施の目的

代々木地域に「あやめの苑・代々木」を知ってもらい、存在の意義を知ってもらう。
地域に開かれた施設として、施設の機能をアピールする。
社会福祉法人の責務としての「地域における公益的取組み」として実施。

当日の様子

11時に開会式を実施し、始めに、渋谷区オリジナル体操「若返るダイヤモンド体操」をフィットネスアドバイザーの指導で参加者（100名以上）全員で行い、その後、ケアリーダーズのダンスと活動報告をしていただき、ケアリーダーズを知っていただく良い機会に恵まれた。最後は職員によるギター演奏で、全員が歌を歌い楽しく終了した。

来苑者に各コーナーを見ていただき、また、協賛企業10社からは、協賛品の配布で苑庭は賑わいを見せ、模擬店コーナーでは、焼きそば、たこ焼き、ジュース類を販売し、地域の皆様も喜んで購入していた。

各ブースをまわるスタンプラリー形式を採り、完成すると喫茶ボランティアのコーヒーが一杯無料としたことが好評だった。

町会、シニア倶楽部などの高齢者の皆様に向けて、区ニュース、チラシ配布、町会の会議に参加して事前にお知らせしてあったことから、多くの来場者があった。

来場していただいた皆様と職員（地域包括職員含む）の交流もでき、全員が和やかな雰囲気で過ごすことができた。

地域の課題

地域の高齢者の皆様は、このような催しを把握していても、動けない、介助してくれる人がいなくて参加できない、などのお悩みをお持ちの方も多数いらっしゃると思うので、その方たちが参加できるよう配慮することと、当苑で１月から実施する「渋谷区短期リハビリトレーニング」に参加してもらい、積極的に、地域の催しにも参加できる体力の維持に貢献できたら、と考えている。

来年度は、６月に渋谷区での取組み「おとなりサンデー」に参加し、「地域フェス・あやめ～おとなりサンデー～」を行い、10月には今回大変好評だった体操、「地域フェス・あやめ～みんなで体操～」を行う予定である。

北区　デイサービス

社会福祉法人光照園 王子光照苑
王子光照苑祭2017

■開催日程　11/19　10：00～15：00
■参加団体　日清医療食品株式会社、株式会社明治、株式会社ヘルシーフード、eye ブリーヴ、ENSEMBLE TEA（吹奏楽団）、北区すこっぷ三味線交流団（宴会芸すこっぷ三味線）、株式会社ジュピターテレコム（CATV J:COM）
■参加人数　200名

実施の目的

開かれた施設として、地域住民に開放すると同時に、協力と理解を求めていく。利用者作品などの展示物の内容を充実させ、その他体験コーナーや相談コーナーを設置する。また喫茶コーナーでは雰囲気づくりに努め、来客に楽しんでいただく。

当日の様子

今回は「苑の日常生活」をテーマにして日頃の利用者の生活の様子や、アクティビティ活動などで作成した作品などを展示。喫茶コーナーでは、恒例の演芸舞台を企画。昨年までは地域出身の歌手を招いていたが、今年は普段「慰問活動」として来苑してくださる慰問ボランティアに出演をお願いした。バザーや体験コーナーも、例年のように大盛況。また、屋台コーナーでは非常時に使用する炊出し鍋を使って作ったすいとん汁、利用者が普段おやつとして召し上がっているお好み焼きや杏仁豆腐を販売。なお、今年は地元CATVの取材もあり、大変賑やかな映像が放映された。

地域の課題

王子光照苑をもっと地域にアピールできるよう、アンケート結果を真摯に受け止めて今後の活動に繋げていく。

また、地域の方がもっと積極的に参加できるように、王子光照苑祭の企画を発展させていけたらと思っている。

豊島区　複数施設共催

社会福祉法人フロンティア いけよんの郷地域包括支援センター
アートカフェ

■開催日程　毎月第２・４月
■参加団体　いけぶくろ茜の里、養浩荘高齢者在宅サービスセンターいけよんの郷、いけよんの郷高齢者総合相談センター、豊島区民社会福祉協議会(CSW)、ボランティアなど
■参加人数　200名

実施の目的

地域住民、高齢者、障害者等のあらゆる地域の方々が集まり、職員やボランティアによる歌や講話などを通してふれあいの機会を作る。また、介護などの悩み事相談ができる場をつくり地域とのつながりの土台をつくる。

当日の様子

デイサービスの利用者や地域の高齢者などが集い、ボランティアの合図により歌などを全員で歌い、茜の里の喫茶コーナーからお茶やコーヒー、軽食を注文し、アットホームな雰囲気のなかで気軽におしゃべりを楽しんだりしている。参加者からは「雰囲気がよいですね」「話しやすいです」といった感想をいただいている。

包括支援センターの職員が参加して、家族を介護している方も日頃の介護の悩みなどを話せる場として定着しつつある。

地域の課題

認知症介護に限らず、様々な問題を抱えている方も多く、生活圏域内に顔を合わせて気軽に会話や相談ができる場所が必要とされており、また支援する側のサポートも必要である。

また、コミュニティカフェとして多世代交流や老齢障害などの枠にとらわれない活動の場として、地域に根付いて運営していけるよう、体制を整備していきたい。

豊島区　特養

社会福祉法人恩賜財団東京都同胞援護会 特別養護老人ホームゆたか苑
地域交流バザール

■開催日程　10/14　10：00～15：00
■参加団体　小茂根福祉園、このはの家、魚政、フリーマーケット出店希望１組
■参加人数　150名

実施の目的

バザー及び地域住民によるフリーマーケット、模擬店を通して地域住民との交流を図る。

当日の様子

生憎の天気に見舞われたが、地域バザールを楽しみにしていただいている地域の皆様の熱気に後押しされて、心配されていた雨も小降りになり、地域商店の商品や協賛品、近隣住民・家族からの寄贈品販売、小茂根福祉園のコーヒー販売、このはの家のパン販売を通じて終日大盛況であった。地域交流バザールでの売上金は、地域公益活動として地域の皆様を対象にした体操教室などの運営活動費に充てる。

地域の課題

開設当時から継続している地域交流バザールだが、毎年来場いただいている方々の高齢化を目の当たりにすると、地域の高齢化問題が着実に進展していると感じる。そのような方々が住み慣れた街で安心して暮らせる支援や介護予防の啓発活動を、今後も継続するとともに、福祉の街づくりに努めていきたい。

豊島区　特養

社会福祉法人七日会 特別養護老人ホーム千川の杜
「せんかわ」ふるさとひろば

■開催日程　毎月最終月
■参加団体　社会福祉法人　つばさ福祉会（せんかわ　みんなの家：保育園）、千川ふるさとひろば（イベントのための地域の方と共に発足したボランティアグループ）
■参加人数　30名

実施の目的

『子育てに悩みながら１人でがんばっている母親がいる。地域には、代わりに抱っこしてくれるおじいちゃん、おばあちゃんがいるということを知ってほしい』という声から始まった活動。

赤ちゃんから高齢者まで同じ空間で同じ時を過ごす。世代間交流の場として活動している。

当日の様子

赤ちゃんの身体測定、紙芝居、小物づくり、お茶会（お話し交流）をメインの活動とし、月によっては、お抹茶、演奏会などを行っている。

10月は、６組の親子と30歳代～70歳代のボランティアの方や高齢者の方が集まり、楽しい時を過ごした。

地域の課題

家にこもっている方、各種情報が行き届かない方への支援や、日本の習慣や言葉、文字が分からない方への支援が求められる。（子どもの通っている学校からのお知らせが読めず、修学旅行に行けなかった子がいたとのこと）

当法人は、高齢者支援を得意としているため、外国人・児童福祉・子育て支援は、適正なサービス提供に不安がある。社協や各種団体などと連携し、支援していきたい。

台東区　地域包括支援センター

社会福祉法人台東区社会福祉事業団
あさくさ地域包括支援センター
街づくり懇談会

■開催日程　10/28　18：00～20：30
■参加団体　特別養護老人ホーム浅草、ケアマネジメントセンターあさくさ、あさくさ高齢者在宅サービスセンター、あさくさホームヘルプステーション、特別養護老人ホーム千束、せんぞくデイホーム
■参加人数　66名

実施の目的

住民及び関連諸機関とともに、地域の高齢者福祉を推進する、より効果的な活動を協働で行うことを目指し、地域の実情を知り、共通の課題等について意見交換や協議をするため。そして地域のネットワークづくりを図る。

当日の様子

第１部では、「浅草寺病院」医療連携室のMSWから、「なぜ、浅草寺病院に医療ソーシャルワーカーが必要か？」というテーマで、社会福祉法人としての病院誕生の長い歴史から、その病院に存在する医療ソーシャルワーカーの視点と役割、地域との連携についての報告が行われた。出席者からは、馴染みがなかったMSWという専門職の存在を知ることができた、事例の報告が分かりやすかったという声が多かった。

第２部では、一緒に唄を歌うなどなごやかな雰囲気の中、活発な意見交換や懇談が行われ、ネットワークがさらに強化されたと思われる。

地域の課題

【地域の課題】

様々な事情から、必要な医療に結びついていない高齢者がいる。

【今後の活動】

今後も10月と２月の年２回、「街づくり懇談会」の定期開催を継続し、事業目的の達成を目指していきたいと考えている。

台東区　特養

社会福祉法人聖風会 台東区立特別養護老人ホーム台東
「ふれ愛♥台東まつり」

■開催日程　11/19
■参加人数　100名

実施の目的

地域交流の一環として

当日の様子

地域の方々に施設を知ってもらうため、色々なイベントを企画した。オープニングには、太鼓の演奏や獅子舞、素人落語、大抽選会、認知症を知ってもらうための紙芝居、施設見学、野菜の詰め放題などを企画した。

また、子どもたちや特養の利用者の方々にも楽しんでもらえる様に、射的やヨーヨー釣り、バルーンアートなどを用意した。

複合施設内にあるため、事前に障害関係、子ども支援センターなどにも声掛けをし、当日多くの方々に参加いただいた。

天気も良かったので、予想以上に来所者があり、初回としては大成功だったのではないかと思う。

ショートスティやデイサービスの利用者も、家族の方々と一緒に参加していただき、とても楽しかったといった意見もいただいた。

また、町会の婦人部の方々にボランティアとしてホーム喫茶を手伝っていただいたり、地域の会社の方々に協力をしていただき、日用品等を安く提供していただいた。

地域の課題

高齢の方と家族が一緒に楽しめるイベントなどが少ないので、今回楽しみにしていたといった意見もあったが、やはり独居の方や同行してくれる人がいないので参加が難しい方もいらしたと思われる。その方々にどうやって、アプローチしていくかが問題だと思った。

町会の方々、社協、ボランティア、企業、色々な方々の協力体制の強化や、どうやって継続していくのが良いかなど、問題は山積みだが、今後も定期的に開催をしていきたい。

足立区　特養

社会福祉法人白寿会 特別養護老人ホーム プレミア扇
プレミア扇 地域交流会 2017

■開催日程　11/5　11：00～14：00
■参加団体　セブンイレブン本木西町店
■参加人数　587名

実施の目的

同じ地域に住む住民や高齢者・子どもたちとのつながりや交流を構築するとともに、施設と地域の輪を広げることを目的としている。

当日の様子

やきそば・焼き鳥といった複数の模擬店、野菜の詰め合わせといったプレミア扇恒例のイベントを始めとし、大好評の「プレミアムバザー」は開催時間15分前から長蛇の列ができた。天候にも恵まれ昨年の２倍、約600名の地域の方々が来場された。今年度から新たな取組みとして、近隣のコンビニエンスストアの出店、和太鼓や歌謡曲ステージといったイベントを開催し、多くの方々の笑顔が見られた一日だった。

地域の課題

アンケートを集計した結果、「毎年楽しみです。皆さんと出会えるから。」「今年は色々イベントがあって楽しかったです。」といった内容を確認できた。その一方で地域の方々のニーズを再度見直せた一日でもあった。今年度の反省を生かし、地域のニーズを見極めたうえで来年度へ繋げたい。

足立区　特養

社会福祉法人聖風会 ゆうあいの郷六月
六月祭

■開催日程　10/15　9：45～15：00
■参加団体　竹の塚歌劇団、ゆうあいの郷六月（六月祭実行委員会、職員）、六月中学校（吹奏楽部）、中島根小学校（コーラス部）、ピーアーク、喜田屋
■参加人数　200名

実施の目的

各種イベントコーナーを設け、地域の方々に参加してもらい地域交流の場として開催する。

当日の様子

施設食堂をメイン会場として、各種イベントを実施し、多くの方に見ていただいた。また、ピロティ（施設中庭）を会場として、模擬店（焼き鳥、菓子販売、カレーライス、お好み焼き他）、デイサービスでは子どもを対象に紙粘土工作、健康チェック（骨密度測定）などを行い、好評であった。終了後、施設周辺清掃を実施した。

足立区　特養

花畑あすか苑 あすふぇす実行委員会

あすかフェスティバル
～わっしょい！花畑あすか苑～

■開催日程　11/4、11/5
■参加団体　共催：花畑地域学習センター、花畑住区センター、桜花亭
■参加人数　300名

実施の目的

施設の向かいにある、地域学習センターおよび住区センターで、長年にわたり開催しているお祭り日に、当事業所も同時開催することで、お互いに協力し、地域全体が一体感を持って開催することにより、地域住民や入居者、家族に楽しんでいただく。また、平成28年８月１日にオープンした特養花畑あすか苑を地域にPRしていく。

当日の様子

22年続いている地域のお祭りに、共催として参加したことで、十分なお知らせをしていなくても多くの地域の方が参加され、施設のPRができた。あすカフェでの飲み物やソフトクリームなどの提供、足湯、動物とのふれあいコーナー、介護劇や見学会のプログラムには、年齢関係なく参加されていた。

地域の課題

花畑あすか苑内のあすカフェを、地域の方、入居者、家族の交流の場として開放する。

地域の機関と共催のお祭りは毎年恒例にしていきたい。

同じ日に同じ場所で一緒に開催することで、関係機関の協同による地域貢献につないでいきたい。

地域の情勢を把握し、地域に貢献するための事業展開も検討していく。

葛飾区　特養

社会福祉法人敬仁会

社会福祉法人敬仁会　ふれあいはあとまつり In Tokyo

■開催日程　10/14
■参加団体　中青戸町会、奥戸福祉館、嬉泉会（特定非営利活動法人）ぴいこ音楽際、龍正会、日本障がい者ダンス推進会
■参加人数　300名

実施の目的

地域への貢献活動として実施。「地域」に支えられて事業継続させていただいていることに感謝し、地域住民によりそい、地域とのつながりをより一層大切にしたい。

当日の様子

前日まで季節外れの秋雨前線の影響で雨天が続いていたが、当日は小雨となり、予定通りに開催。メインステージでは和太鼓演奏や音楽演奏、障がい者ダンスで盛り上がり、屋外では近隣の中青戸町会の協力による焼きそばや、フランクフルト、また区内の障がい者施設により、パンや肉まんが販売され賑わった。

キッズコーナでは、ぶんぶんごまやプラバン作り、ふわふわドームもあり、子どもたちの笑顔があふれていた。

町会の方々には初めての試みだったので、不安がありながらも、準備の段階から当日の運営まで多大なるご協力をいただいた。

雨天で残念ではあったが、地域住民と交流を図ることができ、有意義な交流イベントとなった。

地域の課題

地域の中では単身世帯も増えており、地域の中で支え合う体制が必要である。

今後も町会との連携を密にし、地域と一体となり地域に根ざした施設として、ボランティア活動など地域の人的資源を受け入れながら、地域に貢献できる施設を目指したいと考えている。

葛飾区　特養

社会福祉法人三幸福祉会 癒しの里青戸
かんたん手芸教室＆いやしカフェ

■開催日程　11/8　10：00～15：00（２回制）
■参加団体　おかし提供：自主生産品販売所「ぷらすちょいす」
■参加人数　20名

実施の目的

特別養護老人ホームが地域に開かれた施設であること、いつでも相談できる場所であることを地域住民に理解していただけるよう、親しみの感じられるイベント内容により、介護の関係者だけでなくまずは地域住民に足を運んでいただくことを目的とした。

当日の様子

牛乳パックに布を貼ったり、小枝にミニ人形を貼るだけの簡単な小物作りを行った。講師は施設に入所をしていた方の家族（パッチワーク講師）に依頼した。参加されたのは、施設で開催している「介護予防教室」に通う方々をはじめ、民生委員から紹介のあったひとり暮らしの方、在宅で介護をしている家族など。補助のためにボランティアを１人配置した。午前と午後の２回開催。作品完成後は、お菓子と職員によるラテアートのコーヒー、ピアノ演奏でのおもてなしタイムを設けた。参加者や職員が談笑して交流ができるひとときとなった。

地域の課題

「とても楽しかった」「親しみやすい雰囲気だった」「また来てみたい」とイベントの内容にご満足をいただけた。午前午後ともに定員を10名にしたことで個々に丁寧に対応できたことが満足感につながったと感じる。独居や在宅介護している方からは「地域の方と顔見知りになれたことが嬉しい」との感想も聞かれた。今後も、地域住民向けの小さなイベントを定期開催していくことで、施設の存在をアピールするとともに、住民同士が繋がる場としての役割を果たしていきたい。新規の参加者をどのように増やしていくかが課題であり、そのためにはイベント告知の方法の工夫が特に必要だと思う。

墨田区　特養

社会福祉法人賛育会 墨田区はなみずきホーム

はなみずきホームオープンハウス

■開催日程　10/15　10：00～14：00
■参加人数　200名

実施の目的

施設活動についての理解促進。

当日の様子

・終日雨の悪天候でしたが近隣住民、子どもたちが参加した。
法人100周年の記念パネル展示･紙芝居、地域の名産品の模擬店、ベイブレード大会、大道芸や近隣神社の宮司さんのオペラ披露などで楽しんでいただいた。
・毎年実施しているが、今年度も多世代交流を意図した子ども向けの活動を企画し、事前に広報していたため、親子連れの来園が多かった。

地域の課題

・単身高齢者、高齢世帯が地域で孤立しやすい状況。墨田区が「みまもり相談室」を設置し民生委員等と連携し、みまもり活動を行っている。地域の課題として共有化が進んでいる。
・高齢者の居場所づくりの必要性を共有し、推進している。
・子ども支援と高齢者支援の連携も進んでいる。
・多世代の交流、拠点づくりを複数団体の協働でさらに進めていくことを検討している。

墨田区　その他

社会福祉法人賛育会
墨田区特別養護老人ホームたちばなホーム
たちばな祭

■開催日程　11/5　10：00～13：00予定

実施の目的

年１回開催のオープンハウスとして、利用者はじめ地域の方の作品展や模擬店、ダンスショーなどを開催。

当日の様子

諸般の事情により開催を中止。

地域の課題

墨田区　複数施設共催

社会福祉法人賛育会 東特別養護老人ホーム京清風園
さんいくフェスタ

■開催日程　10/1　11：00～14：30
■参加団体　立志舎、グッドフェローズ、スーパーいずみ、立花南町会婦人部、子供部
■参加人数　500名

実施の目的

地域の方々へ向け、法人が高齢者事業・保育事業と社会のニーズに応え活動してきたことを知ってもらうと共に、地域交流の場として楽しめるイベントとすることを目的とした。

当日の様子

当日は天候にも恵まれ、大勢の地域の皆様が足を運んで下さった。地元町会の方々が中心になってお手伝いしてくださる模擬店、地元スーパーなどによる食品販売、イベントとして、子育て世代をターゲットとした小児科医による講演会、紙芝居やお菓子配り、体験型ロコモ体操を催した。子ども向けのゲームコーナー、リラクゼーションコーナー、高齢者相談コーナーなどにもフェスタ開始直後から行列ができ、子どもから年配の方まで幅広く楽しんでいただけるお祭りとなった。

地域の課題

法人存立の基盤である「地域に仕える」ことを見つめ直し、具体的には今年の春から秋にかけて３回にわたり地元商店街の街づくりイベントに参加し、９月には地元町会の協力を得て施設全館での防災訓練を実施した。今後の活動として、地元の町会や商店街との円滑な関係づくりから１つステージを上げ、専門職として地域に貢献できる様々な機会を創りたいと考えている。

江戸川区　特養

社会福祉法人江戸川豊生会 みどりの郷福楽園
第９回　みどりの郷まつり

■開催日程　11/12
■参加団体　なぎさ虹の会、ヒイラニフラスタジオ、警視庁第二機動隊、シルバーとっぷ、みどり会、コープみらい、江戸川区商店街連合会
■参加人数　300名

実施の目的

地域の方に施設を開放し、社会福祉施設として社会資源を地域に還元する。

イベントを通して地域の方との交流を深める。また、新たなボランティアの拡充に期待する。

当日の様子

恒例のもちつきでは、第二機動隊が力強い餅つきを披露。屋内ではフラダンスショーや脳トレ体操、オレンジカフェさんも出店した。バザーでは掘り出し物も多く販売した。屋台は焼き芋、牛すじカレー、ひっつみ汁、焼きそば、ドリンク、新鮮野菜も用意し完売した。今回は綿あめを無料で提供、予想以上の反響があった。遊び屋台は１回10円、大好評で景品が品切れになった。最後は江戸川区商店街ヒーロー「エドレンジャー」ショーで、子どもから大人まで一緒に楽しむことができた。地域の協力により、このような盛大なおまつりを開催することができた。

地域の課題

親子連れの参加者が多く、楽しく過ごせたという感想を多くいただいた。

過去に８回開催しているが、今回初めて知った方も多く、地域への宣伝、広報活動の必要性を感じた。

江戸川区　その他

社会福祉法人江東園（ESC委員会）
エドガワスマイルコミュニティまつり2017

■開催日程　11/25　10：00～15：00
■参加団体　就労継続B型元明館、就労継続B型トリコローレ、公益社団法人JAPAN OF ASIA、日刊スポーツ、（株）リクルートコミュニケーションズ、（株）オリコフォレントインシュア、江戸川みまもり隊、フラサークル MAKANI ALOHA、アロマヨガSHANTI、エドガワスマイルコミュニティ委員会（江戸川共栄商店街振興組合、江戸川一丁目町会、江戸川二丁目町会、江戸川二丁目都住自治会、東婦会、東部第一地区民生児童委員協議会、東部地区青少年委員会、社会福祉法人江東園
■参加人数　900名

実施の目的

すべての世代が積極的に関わりを持ち、支えあいながら暮らすことのできる地域社会「エドガワスマイルコミュニティ」の実現。また数年前まで行っていた「江戸川コミュニティまつり」を社会福祉法人がサポートして、復活させることで地域の力をよみがえらせる。

当日の様子

当日は約900人の来場者数。模擬店などの集客から以下のブースに呼び込むことに成功し、つながる地域に向けた啓発活動を行うことができた。

・地域マップづくりワークショップ
・認知症サポーター養成講座（一般及び小学校高学年）
・地域活動講演会
・体力測定、骨密度測定
・認知症カフェ

＜今回得られた効果＞

・町会等各種団体との連携が深まったこと
・各種地域資源との連携が深まったこと（図書館、各種サークル）
・今後の地域活動の活性化へのアイディア創出

地域の課題

次の課題は地域リーダー（町会の後継者など）の発掘。次のしかけとして12月に2回の「地域のみんなとつながるワークショップ」を開催予定。

江東区　特養

社会福祉法人あそか会 特別養護老人ホーム　あそか園
第６回　あそか園地域交流まつり

■開催日程　9/24　11：00～15：30
■参加団体　日清医療食品（株）、宅配クック123、パナソニック フリショップ江東、深川第四中学校、深川第七中学校、ボランティア３団体等
■参加人数　100名

実施の目的

社会福祉法人に対する社会貢献活動の一環として、あそか園を地域交流の場として開放する。

地域の一員として、様々なイベントを開催し、施設を身近に感じてもらう。

当日の様子

午前中は来場者が少なかったものの、午後は毎年恒例となっているバザーに加え、今年度新たに設けた特設ステージにてベリーダンス等の公演を実施したことで、例年と比べてより多くの方が来場された。また、近隣の中学生が作成した俳句（色紙）・習字等を展示するスペースを設けることで、副校長の来場もあり、今回の活動が双方の交流のきっかけのみならず、地域住民の生きがい活動の促進に貢献したと感じている。

地域の課題

江東区の人口増は、出生率の上昇ではなく、転入者によって人口が増加している傾向が続いている。特に75歳以上の後期高齢者については、増加することが推計されており、社会福祉法人として、自らの専門性を地域へ還元し、施設と地域住民の方が暮らしやすい街づくりに尽力していく必要がある。また、福祉の後進育成の観点から、今回の活動を良いきっかけとし、小・中学生に少しでも福祉に興味を持ってもらえるように学内のボランティアクラブ・サークルへのアプローチを展開していきたい。

今後の活動においては、地域交流まつりに加え、定期的に自施設を地域住民等に開放し、将来的にはサロンとして使用するなど、あそか園が地域福祉の中核となれることを目指していきたい。

練馬区　特養

社会福祉法人東京福祉会 練馬高松園
まつぼっくりサロン

■開催日程　10/22　12：00～14：00
■参加団体　移動クレープ車
■参加人数　90名

実施の目的

特別養護老人ホームを開放し、地域の方々に広く知っていただき、地域に開かれた施設を目指す。

寄付の文化育成。

当日の様子

特別養護老人ホーム練馬高松園の秋まつりの場所を利用し、クレープを焼く車を設置した。

当日は台風の影響で秋まつりの参加者が少ないと予測されたが、ポップな絵柄のクレープ車に誘われて数多くの方が並んでくださった。

赤い羽根共同募金箱を設置して、クレープを受け取った方々からお気持ちのご協力をいただいた。

地域の課題

老人福祉施設は身近に関わる方がいないと入りづらい環境。

地域の信頼を得、相互協力を担う上でも入居者、家族、地域の方々が一同に集える場が必要。

練馬高松園では、毎月「まつぼっくりサロン」を開催。勉強会、コンサートなど各種イベントを法人として開催している。

練馬区　特養

社会福祉法人泉陽会 特別養護老人ホーム 光陽苑
陽だまり喫茶

■開催日程　毎週土　13：30～16：00
■参加団体　特別養護老人ホーム 光陽苑、陽だまり会
■参加人数　520名

実施の目的

入居者と、地域の方が喫茶店を通じ、交流することを目的とし、施設への理解と地域参加の場としての協力を行う。また、地域の方へ憩いの場としても提供する。

平成５年、練馬区の配食サービス協力員の方々が中心となり、ボランティア団体「陽だまり会」を結成し「ひだまり喫茶」を開始。

平成９年、練馬区の配食サービス終了後も喫茶店の運営を続け現在に至る。

光陽苑の利用者・入居者及び地域の方に喫茶店を提供し、地域との繋がりを持っていただくことを目的としたボランティアグループである。行事等や施設との協力、連携も行っている。

当日の様子

陽だまり会が用意したコーヒー、紅茶、和菓子等を召し上がりながら、入居者と地域の方々が楽しそうに談笑し交流を深めていた。

地域のグループホーム入居者も来所し、交流を通して施設の行事参加や協力などに繋がった。

地域の課題

地域交流の場として活用はするものの、「施設の方しか利用できないのではないか？」との意見もあり、PR不足を感じた。

今後は、陽だまり会のアピールとしてチラシの配布など周知を行っていく。

練馬区　特養

社会福祉法人育秀会 第３育秀苑
百日草（ジニア）コンサート

■開催日程　10/26　14：00～15：00
■参加団体　オカリナ演奏グループ　シクラメン、フラダンス　カトレア会
■参加人数　30名

実施の目的

地域で活動するグループに日頃の成果を発表する場を提供するとともに、地域の方や施設に入所している方も一緒に楽しんで頂くことを実施の目的とする。

当日の様子

民生委員さんをはじめ、多くの方が参加された。オカリナの演奏に合わせて、皆で大合唱！オカリナという楽器は様々な大きさがあるということも知り、驚きの声が…フラダンスの踊り手さんはダンスはもちろん、トークがとても楽しく、皆様、笑い！踊り！楽しんだ。お客様からは「特養って初めて入ったけど、明るいですね」「とても楽しめました」「また参加してみたい」などの声をいただいた。また、参加いただいた団体の方からも「こんなに広い場所があるとは思わなかった。またこちらでやりたいです」という声もいただいた。

地域の課題

【地域の課題】
・正直まだよくわからない。今後どのようなニーズがあるのか？を地域への聞き取りやアンケート等を実施し把握していく予定。
【今後の活動】
・今年度は音楽イベントを中心に開催し「第３育秀苑」を知ってもらう。普段外出することが難しい方に対しては送迎を行いたい。
・職員より地域に向けた「イベント計画」を募集し、検討・実施していく。
・近隣の病院と連携し、「健康講座」を展開していく。

練馬区　特養

社会福祉法人泉陽会 第二光陽苑
第二光陽苑 秋祭り

■開催日程　10/15　10：00～15：00
■参加団体　関中学校ウィンドアンサンブル部、保谷和太鼓、やすらぎの杜パン工房、ほっとJOB
■参加人数　40名

実施の目的

・地域との交流の機会の一端となり、利用者に楽しんでいただく。
・地域の方々に、法人および高齢者福祉に対する理解を深めていただく。
・気軽に来苑できる施設をアピールしたい。

当日の様子

19回目の秋祭りであったが、朝から降り続く雨と気温が上がらず、来苑者数は１日を通して見込めない状況であった。当日は、アトラクション（吹奏楽部・太鼓）、模擬店、つなひろブース（健康相談）を設けた。特養入居者と家族の参加が中心で、残念ながら天候の関係で賑やかなお祭りまでには、繋げられなかった。

地域の課題

・地域的にお祭りが減ってきている状況の中で、祭りを実施できる事が地域との交流の場となれればと実感している。地域の方々への法人及び高齢者福祉に対する理解も深めていくためには、継続をしていければとも考えている。
・夏と秋に地域に向けたお祭りを実施しているので、今後もそこで継続していきたい。また、介護者教室なども利用し、地域の課題なども抽出できる場を設けていきたい。

練馬区　その他

社会福祉法人芳洋会 特別養護老人ホームサンライズ大泉
大泉西小学校 応援団まつり

■開催日程　10/28　10：00～13：30
■参加団体　主催：大泉西小学校応援団
共催：練馬区青少年委員会、大泉西小学校地区委員会
主管：練馬区教育委員会子ども家庭部子育て支援課学校応援団、開放係、ひばり野球部、ハリケーンサッカー部、大泉西小PTAバレー部、大泉西小クイーンズ、八丈太鼓、父親ソフトバッカス、父母会、スワンベーカリー、サンメイト（卓球）、剣友会（剣道）、Candy（新体操）、練馬区緑化協力員、おむすび座（人形劇）、大泉西小テニス、サンライズ大泉
■参加人数　184名

実施の目的

「みんなでつなごう手と心」をテーマに、学校応援団事業及び子ども会事業をより多くの子どもたちや地域の方々に知ってもらうための交流の場として開催する。本事業にかかわる方々と学校、父母連絡委員会、および地域協力者の方々すべての協力で行っていく。

当日の様子

応援団まつりに約15団体が参加する中、サンライズ大泉は教室を１つお借りして「介護体験ブース」を開催した。「介護体験」として小学生を中心に車いす体験（自走・リクライニング・子ども用など）、高齢者体験、白杖体験、介護機器体験、介護ロボット体験をしてもらった。ブース運営はサンライズ大泉職員と介護機器業者さんにもお手伝いいただいた。またアクティブル君を事務局からお借りして宣伝を行った。

「介護体験」の参加者としてスタンプを押した人数は184名（複数回体験しているため実際にはもっと多い）だった。「車いすって楽しいね。また乗ろう」と何度も繰り返し体験している小学生や、「車いすに乗るのは初めて。いい機会になった」という親御さんからの感想も聞かれた。介護を楽しく学ぶ良い機会となったようだ。応援団まつり全体の参加者は513名であった。

地域の課題

サンライズ大泉は、ショートステイは併設ではあるものの特別養護老人ホームのみの事業所であり、在宅系サービスを実施していない中で、いかに地域で必要とされるサービスで在りうるかが課題となっている。

そのような中で、サンライズ大泉が応援団まつりに参加するのは今年で３回目となる。その他に地域の方にお茶を飲みながらショッピングを楽しんでいただく「ショップ＆カフェ」や、介護予防講座「サンライズカフェ」（練馬区出張型街かどケアカフェ）・小学生・学童保育児による施設訪問、学校への出張授業、地域のお祭りへの参加などを行っている。

引き続き、地域にこちらから出向いて参加させていただくことで、地域に必要とされる施設を目指していきたいと考えている。

目黒区　特養

社会福祉法人目黒区社会福祉事業団
目黒区立特別養護老人ホーム中目黒
在宅高齢者閉じこもり防止事業（地域交流サロン）

■開催日程　毎週火　11：00～15：00
■参加団体　手話ダンスアミカ、フラダンス常磐会、東部包括支援センター
■参加人数　74名

実施の目的

気軽に立ち寄り、情報交換や相談を行える場を提供するとともに、介護予防体操等を実施することにより、引きこもりがちな在宅高齢者の居場所を確保する。（区内在住等問わず誰でも利用可能）

当日の様子

・印象として独り暮らしの高齢者の参加が多いため、大勢の人と一緒にプログラムに参加することによって、日頃一人では行いにくい体操や歌唱（発声）、談話ができることが一番の魅力になっている様子。
・互いに顔見知りになるため、午後のプログラムに誘い合って参加したり、「あなたが参加するなら私も参加しようかしら」といった、人との繋がりを感じられる場になっている。
・比較的近所の住民が多く参加しているため、若い頃の知り合いに偶然再会して再度地域交流サロンから一緒に帰宅する等、施設外での交流も生まれている。

地域の課題

今後とも、更に地域交流サロンの活動を地域へ知らせていきたい。現在でも区報の他に回覧板や掲示板に勉強会等を広告しているが、それを見ての参加者は各回１～２名程度に留まっており、新しい参加者の呼び込みが課題となっている。

世田谷区　その他

多摩川癒しの会　社会福祉法人大三島育徳会

秋の芋煮会

■開催日程　10/15　10：00～13：30

実施の目的

地域の高齢者や障害者など普段、川に行きづらい方を対象に秋の多摩川にふれていただき、芋煮を召し上がっていただく。

当日の様子

多摩川河川敷で行うので、雨の為危険が伴い、中止となった。

地域の課題

雨の時に中止でなく延期できる方法を考えていきたい。

世田谷区　その他

社会福祉法人友愛十字会 特別養護老人ホーム砧ホーム
ふれあい祭り

■開催日程　10/1　10：00～15：00
■参加団体　地域の小学校合唱団、レイアロハフラサークルのコンサート、商店街の方の模擬店、三峰神社の神輿
■参加人数　780名

実施の目的

地域の方々、利用者とその家族・ボランティアが参画しながら、共にお祭りを実施することで、楽しく交流を深める。また、併せて友愛十字会が地域に密着した福祉サービスを展開していることを広く知っていただく。

当日の様子

地域のお子様や高齢者の方、施設利用者の家族等多くの方が来園され、コンサートやゲーム、お茶席を楽しんでいた。

また、地域のお祭りと協賛し太鼓演奏や、御神輿の休憩場所として敷地内を提供し盛り上げていただいた。

地域の課題

砧地域にある社会福祉法人として、地域ネットワークのきっかけ作りを今後も広げていきたい。参加団体や協賛を増やし、イベントを通して「顔の見える関係性」をつなげていく。

世田谷区　特養

社会福祉法人大三島育徳会
だんだんまつり

■開催日程　10/22　10：30～15：00
■参加団体　法人内９拠点15事業所、近隣保育園・児童館、近隣小学校・中学校、コンサート会場演者３団体、イベントブースボランティア　２団体、おまつり模擬店ボランティア　６団体、福祉学校生徒、法人後援会
■参加人数　300名

実施の目的

「だんだん」とは、法人名に由来する大三島地方の方言で、「ありがとう」を意味する。法人を支えて下さった、利用者、家族、地域の方々、関係者各位に、法人祭りを開催し、「ありがとう」の思いを伝える。

当日の様子

衆議院議員選挙が重なり、台風迫る曇天の中、第１回法人まつりとして、午前中からたくさんの来場者が来て下さった。法人各事業所が飲食の模擬店を担当し、日頃から法人に協力いただいている地域ボランティア団体の方々と協力して、模擬店を盛り上げてくれた。

プロのバルーンアートショーやアロハコンサート、バンド演奏、職員によるショーなど、コンサート会場も子どもから高齢者まで多くの方が楽しまれた。

野点や絵手紙などを体験できるイベントブースでも、ボランティアが盛り上げてくれた。

介護体験ブースでは、支援センターの地域包括職員が介護相談ブースを開催し、数名の相談があった。「福祉施設とはどういう所なのか。どういった方が利用できるのか」など普段あまり関わりはないが、いつか見学してみたかったという方も多く、法人の事業を周知することもでき、有意義なおまつりとなった。

地域の課題

今回の法人まつりは、地域の皆様へ感謝の気持ちを伝えるという目的にて、広報活動を強化した。法人事業所関係者へのお知らせに加えて、ホームページでのアナウンス、世田谷区報への掲載、町内会の回覧板、近隣小・中学校や児童館、近隣住民などに広報を行った。第１回目の法人まつりにて、準備がぎりぎりになることも多かった。次年度は早めに広報活動を開始し、より多くの方々に参加していただき、地域に法人をアピールしていきたい。

世田谷区　特養

社会福祉法人老後を幸せにする会 等々力共愛ホームズ

衣類販売会と地域のひろばカフェ（等々力きままカフェ）

■開催日程　9/3　10：00～16：00（衣類販売）
　　13：00～15：00（等々力きままカフェ）
■参加団体　特別養護老人ホーム等々力共愛ホームズ、デイ・ホーム共愛、等々力あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）
■参加人数　51名

実施の目的

【等々力きままカフェ】
　地域住民、認知症高齢者の当事者や当事者家族、専門職の交流の場として、認知症カフェを開催することによって、地域住民による認知症高齢者への理解を促進し、「認知症でも安心して暮らせる」地域づくりに寄与するため。
【衣類販売】
　地域住民、特に中高年や在宅介護の必要な高齢者やその家族を対象に、着脱や洗濯のしやすい衣類と介護用品のお買い物会場を提供することにより、地域に潜在化する介護課題の相談拠点として事業所が周知されることと、地域に介護資源を還元することを目的とした。

当日の様子

【等々力きままカフェ】
　当日は地域にお住いの方、地域にある小規模多機能事業所に通所されている方など、29人が来場され、ティータイムを楽しみながら、思い思いのおしゃべりをされていた。出張販売の衣類販売に加え、自然発生的に歌声サロンが始まるなど、途中でお帰りになる方も少なく、ゆっくり和やかに過ごされた。
　「久しぶりにゆっくりとおしゃべりができて楽しかった」など次回開催日を楽しみにしているとの感想を数多くいただき、何か特別なプログラムを提供することよりも、こうした場所と時間の提供そのものが貴重な社会資源となることをスタッフ一同あらためて実感した。
【衣類販売】
　所属の町会に２か月前からチラシを作成して回覧板で各戸に配布したことで、年間で２回目になる高齢者用の衣類販売や介護用品の販売が徐々に地域に周知され、特養入居者以外の外部からの来訪者が、前回の３名から11名と増員し、賑わいをみせた。

地域の課題

　今回は地域の特別養護老人ホーム、デイサービス、地域包括支援センターの担当者が運営主体となっての開催だったが、地域の方々が交流できる場として継続させていくためには、地域住民の方々に運営にかかわっていただき、協働していくことが必要不可欠と考えられる。
　多世代の住民の方々に、こうして交流できる場の必要性を理解してもらい、運営メンバーやボランティアとして関わっていただける人材の発掘に向けて、等々力気ままカフェは地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治体のまちづくり部門で三者連携の会議を定期的に開催し、連携しての対応を進めている。衣類と介護用品の出張販売も、ちょっとした衣類のお買い物に不便をする地域の社会資源として年３回定期的に開催することで、地域の介護ニーズをひろう場としても活用していきたい。

八王子市　養護

社会福祉法人多摩養育園 養護老人ホーム楢の里
秋の演奏会

■開催日程　11/4　14：00～15：00
■参加団体　養護老人ホーム楢の里、創価大学吹奏学部、光明第三保育園
■参加人数　50名

実施の目的

創価大学吹奏楽部の楽しい演奏を子どもから高齢者まで楽しめる空間で共に過ごすことで、交流を図っていく。

当日の様子

多くの地域の方が参加し、吹奏楽の生演奏を楽しんだ。子どもたちの知っている曲目もあり、高齢者から子どもまで、笑顔になり、楽しんでいた。

楽器特徴を生かした曲目で、楽器の紹介などもあり、楽しいひと時を過ごされた。

地域の課題

地域の方、保育園児から高齢者までが楽しめる行事を企画していく。

地域の「大きな家」として、地域の子どもから高齢者まで、気軽に立ち寄れる施設を目指していく。

八王子市　特養

社会福祉法人清明会 清明園・浅川ホーム
長寿を祝う会

■開催日程　9/15　11：00～14：30
■参加団体　東京ミュージックボランティア、高尾ボランティア、ふじだな喫茶
■参加人数　313名

実施の目的

長寿の方のお祝いを盛大に行う。家族、地域の方との交流を深める。

当日の様子

米寿、白寿、百寿、特別長寿の皆様を地域、家族の方と共に式典を行い、お祝いをした。

昼食はお祝い膳を召し上がり、普段とは違った食事を楽しんでいただいた。模擬店も開かれ、家族やご友人と共におでんや焼きそばを召し上がった。また、利用者がクラブで行っている野点でお手前を披露し、書道・手芸の作品展示と即売会が行われた。午後は、東京ミュージックボランティアの方々による演奏が行われ、利用者と地域の方々が一緒に歌い、リズムに乗りながら一体となっており、終日楽しんでいただいた。

地域の課題

今回の行事の他、地域子ども会との交流等も行っており、その都度、地域の方々に足を運んでいただいている。また、利用者も地域で行われているイベントや幼稚園の行事に招待していただいている。

行事の時の交流だけに限らず、日常的に地域の方が施設に気軽に出入りできる様な取組みや施設の雰囲気作りを行っていきたい。来園して頂くだけでなく地域で行われる行事等にも積極的に参加をしていき、より交流を深めていきたい。

八王子市　その他

社会福祉法人アゼリヤ会

アゼリヤ会地域交流（大根堀り）

■開催日程　11/12　14：00～16：00
■参加団体　救護施設優仁ホーム、養護老人ホーム美山苑、特別養護老人ホームみやま大樹の苑
■参加人数　65名

実施の目的

救護施設の入居者が育てた大根の収穫や豚汁の無料サービス、高齢者疑似体験や福祉車両の紹介、クリスマス向けの小物を手作り体験、手作り作品の販売・作成を通じて、地域交流を企画。

当日の様子

当日は天気にも恵まれ、この交流会も３年目を迎え、地域の方々の意識の中に、少しずつ浸透している印象だった。大根堀り体験も、どの大根を収穫しようか迷いながら、収穫されていた。

無料で提供した豚汁も、「寒くなったから、温まるね。大きい鍋で作ると美味しいね」と好評であった。

クリスマス向けの小物も、参加者（主に小学生）も試行錯誤しながら、飾り付けを作り楽しまれていた。

高齢者疑似体験では、ゴーグル（白内障や全盲等）を使用し、肘や膝を固定するベルトや重りをつけて、体験していただいた。感想をうかがうと、「これからも元気で、過ごさないと大変だね」と日々の運動を意識される様子だった。

地域の課題

今回は昨年よりもチラシの配布先を増やしたが、参加人数は昨年とほぼ同じぐらいの参加状況であり、地域に向けての情報発信方法を検討予定。

交流会を通じて、地域の方々の意見を聞きながら、今後も法人として、地域のニーズに合わせ、当法人の特性を生かした地域福祉活動を行いたい。

日野市　特養

社会福祉法人寿優和会 特別養護老人ホーム浅川苑
あさかわ祭り（地域交流）

■開催日程　10/15　10：00～14：30
■参加団体　ボランティア・グループはまやらわ（琴・三味線・太鼓・日本舞踊・バイオリン合奏）、介護ショップりんりん、実践女子大アトラスチアリーディング部
■参加人数　120名

実施の目的

同じ地域に住む方々との交流を通し、災害や地域を良くするための行動をともに進めていくことができるようになる。

当日の様子

当日は雨の日にもかかわらず、たくさんの方の来場があり、子どもから大人までお越しいただき、明るく楽しいあさかわ祭りとなった。

バザー・屋台も盛況で、からあげ・今川焼きは人気があった。

介護相談や高齢者疑似体験は地域の方や子どもに喜ばれた。

チアリーダーの方達のダンスに、特養の入居者もとても元気をもらった。

地域の課題

地域の方、中学校等のボランティアや、さまざまな形でたくさんの方達の力を貸していただき、無事故で楽しいあさかわ祭りを開催できた。

このネットワークを広げながら、地域をより良くする活動に繋げていきたいと考える。

町田市　特養

社会福祉法人友愛十字会 友愛荘
ゆうあい広場 ～秋の味覚を楽しもう～

■開催日程　10/13　11：30～13：30
■参加人数　31名

実施の目的

地域住民が気兼ねなく立ち寄れる開かれた施設づくりと利用者が地域交流する機会を増やす。

当日の様子

秋の味覚を楽しむという企画でさんまの炭火焼き、きのこの炊き込みご飯、芋煮汁、りんごの食事を楽しんだ。園庭で特養利用者の参加も予定していたが、雨天のため室内開催となりスペースの関係上、地域参加者のみで開催した。「初めて会った人といろいろ話せて楽しかった」「とてもおいしかった」などの感想をいただいた。参加者から歌の呼びかけがあり、職員と共に盛り上がった。バザーや、地域の障害者施設で栽培したきのこ販売も好評であった。イベント終了後に参加者と特養利用者との交流もあり、有意義な時間を過ごすことができた。

地域の課題

参加者から「地域のつながりは大切。また、このような企画を行ってほしい。参加したい」という声が多数聞かれた。地域には子どもから高齢者まで様々な方が暮らしている。誰もが安心して助け合って暮らすことができるように、これからは施設から地域に情報を発信することが必要である。より良い情報が発信できるように努めていきたい。

稲城市　軽費

社会福祉法人博愛会 ハーモニー松葉

地域交流イベント「第２回　歌の祭典＆芋煮会」

■開催日程　10/24
■参加団体　社会福祉法人正吉福祉会　やのくち正吉苑、そんぽの家　稲城矢野口
■参加人数　110名

実施の目的

当施設の定期行事として開催し入居者・利用者及び地域住民が、昭和歌謡曲や唱歌等を皆で歌うことを通じ、地域交流や活性化を目指す。

当日の様子

入居者・利用者を始め、地域住民や近隣施設の社会福祉法人正吉福祉会やのくち正吉苑及びそんぽの家稲城矢野口の入所者など合わせて50名近い方にご参加いただいた。当日は懐かしの昭和歌謡曲や唱歌など計15曲を施設長のギター演奏と歌に合わせ歌い、介護職員によるシナプソロジー体操も行った。

参加者からは「とても楽しかった」「懐かしい歌を皆さんで歌うことでとても元気になった」と満足されている様子であった。また、入居者及び利用者と地域の方が会話しながら参加し、地域交流機会として良いイベントとなった。

歌の祭典終了後は当施設の厨房職員手作りの芋煮汁を職員が地域の方に提供し、芋煮会を行い「芋煮汁は本当に美味しくておかわりをしてしまった」「秋の味覚を感じることができて良かった」など大変喜んでいただけた様子であった。

地域の課題

当施設が所在するエリアは地域活動が盛んで、稲城市社会福祉協議会がコミュニティーソーシャルワークのモデル地区として地域包括支援センターや自治会、民生児童委員や老人会等が連携し、地域フォーラムを開催する等、地域活性化に現在取組んでいる。

しかしながら、ひとり暮らしの高齢者や子育て世代や地域との繋がりがない方も増えており、地域包括ケアシステムの構築での課題となっている。

今後も当施設が、地域住民や子育て世代及び子どもが少しでも参加していただけるよう取組み、行事を通して社会福祉法人として地域への役割強化に努めながら開催していく。

三鷹市　特養

牟礼東町会（協力：社会福祉法人桜栄会 恵比寿苑）
牟礼東町会秋祭り　太鼓巡行

■開催日程　10/1　12：20～13：00
■参加団体　牟礼東町会、恵比寿苑
■参加人数　130名

実施の目的

施設所属町会の、秋祭り太鼓巡行の際に、施設に立ち寄っていただき、地域住民の方々と利用者の交流の場を作ること。

当日の様子

秋祭りの太鼓巡行で、施設に立ち寄っていただくことになってから、今回で４年目となる。年々、参加される住民の方やお子様が多くなり、今年は100名を超える住民の方々に、お越しいただいた。施設の利用者も、約30名程参加され、大太鼓を叩かせていただいたり、お囃子や獅子舞の踊りを楽しむなど、地域の方々と交流させていただいた。

地域の課題

毎年の課題ではあるが、巡行の途中で立ち寄っていただいているため、立ち寄る時間帯も決まってしまい、滞在できる時間も短く、交流の時間としては忙しくなってしまう。また、利用者の昼食時間と被ってしまっている。利用者の中には、入所前に地域の太鼓団体や、地域のグループ等に所属されていたり、長年町内に住んでいらした方々も多いので、もう少しゆとりをもって地域の方々と関われる時間が作れると良い。今後も、町会と関わりを持ち、地域の一員として様々な交流機会を作っていきたい。

三鷹市　その他

社会福祉法人東京弘済園

東京弘済園まつり～地域の力・施設の力～

■開催日程　11/3　10：30～14：30
■参加団体　近隣学校の吹奏楽部、チアダンス部、心肺蘇生サークル、福祉作業所（２カ所）、江戸小噺サークル、音楽ボランティアグループ
■参加人数　800名

実施の目的

「地域の力・施設の力」と題して、地域の方々に、地域の様々な団体の方々や当法人の職員の日々の活動の発表や、スキルを生かしたアトラクションを見たり体験していただき、当法人や社会福祉をより理解していただく機会とする。

当日の様子

日頃は当施設に入る機会のない方々も含め、多くの方々が来園してくださった。近隣学校の吹奏楽部の演奏でオープニングを迎えた後は、子ども向けには、リトミック講座、バルーンアート、ゲームコーナー、革細工コーナー。大人向けには、施設紹介パネル、体力測定コーナー、江戸小噺、心肺蘇生法体験コーナー、チアダンス、コンサート等多くのアトラクションを皆さん思い思いに楽しんでいらした。模擬店も大賑わいで、芝生広場でレジャーシートを敷いて過ごしている親子連れも多くみられた。

地域の課題

ここ数年で、当施設の周りには多くのマンションが建設されて他市から転入されてきた家族が多くなっている。

おまつりやボランティア等を通じて、少しずつ施設や人を知ってもらい、何かあった時に思い出してもらうつながりを作っていきたい。

府中市　特養

社会福祉法人安立園 安立園特別養護老人ホーム
盆おどり

■開催日程　8/18予定

実施の目的

利用者、施設スタッフ、地域住民との交流を目的に開催。

当日の様子

当日雨のため中止。

地域の課題

来年も実施の予定。

国立市　特養

社会福祉法人弥生会 くにたち苑

くにたち苑バザー・デイ作品展示会

■開催日程　10/15　11：00～14：00
■参加団体　特養家族会
■参加人数　100名

実施の目的

自宅で使用しない贈答品や食品、地元の野菜を提供してもらいバザー品として出品。地域住民との交流およびバザーの売り上げで利用者の生活物品を購入。またデイサービス利用者の作品展示を行い、活動の成果を見てもらう。

当日の様子

あいにくの雨のため、今年は施設内のデイフロアおよび食堂で開催。毎年バザーを楽しみにしている地域住民もいるらしく、前日には「雨でもやりますか？」と確認の電話も入るが、やはり天気に左右され来苑者は少な目…。しかし来園者は、格安のバザー品や地元の新鮮野菜に目を引かれ、見る見るうちに品物がなくなりました。また模擬店では、たいやき、たこやき、焼きそば等を提供し、特養利用者も参加しながらの楽しい1日となりました。

地域の課題

デイサービスおよびショートステイの利用率が低下しているため、バザーに合わせて施設のPRをもっとした方がいい。またもう少し地域の団体に呼び掛け、参加者を増やしたい。

立川市　特養

社会福祉法人恵比寿会
第５回フェローホームズ秋祭り

■開催日程　10/28　10：30～14：30
■参加団体　特別養護老人ホームフェローホームズ「森の家」「仲間の家」「高松の家」「ヴィラ･フェローホームズ」、富士見町地区「富士見YOSAKOI」「いっしょう太鼓」、立川市内「YU-ME」、その他地域「都立片倉高校ダンスチーム」
■参加人数　300名

実施の目的

地域の皆さまとの交流を含め、利用者や来場された方々に楽しいひと時を過ごしていただけるよう、感謝の気持ちを込めての企画を盛り込んだお祭りである。

当日の様子

10月28日の「第５回フェローホームズ秋祭り」では利用者、家族、地域の皆さまに日頃の感謝の気持ちを込めて、恒例となった屋台、バザー、地元で採れた野菜の販売、ステージイベントなどが行われた。

当日は小雨模様で、雨天用会場への変更となったが、開始時には雨も止んで「焼きそば」「えびす焼き」「綿あめ」などの屋台やバザー品販売所は大勢の人でてんやわんやな様子だった。毎年朝一番で来られる地元自治会の会長さんや自治会掲示板のポスターを見てきていただいた近隣の方や家族と一緒に来られた利用者の笑顔や、おいしそうに頬張る姿が印象的だった。

第２会場のイベントでは地元「いっしょう太鼓」のステージを皮切りに会場全体がコラボして大いに盛り上がった。今後も「地域とともに！」を合言葉にして地域、利用者(家族含む)、施設が一体となり感謝の気持ちを伝えていきたい。

地域の課題

富士見町地域は公団住宅、都営住宅等の昭和40年代に建設された建物が多く、またそこに居住する人々の高齢化も急速に進んでいる。民生委員等との連携により地域情報を活用して今後どのようにサポートするか課題である。

今後の活動については、富士見町地域に開設しているフェローホームズ富士見町相談センターおよび法人本部地域サービス担当による地元行事への積極的な参加により、地域情報を収集し役立つ成果に結びつける活動をする。

昭島市　養護

社会福祉法人同胞互助会 養護老人ホーム 偕生園
納涼祭

■開催日程　8/26　18：00～20：00
■参加団体　特別養護老人ホーム愛全園、昭島市高齢者在宅サービスセンター、昭島鳳凰太鼓、ダンスダンス、すみれ会、昭島民生委員
■参加人数　300名

実施の目的

地域の夏の風物詩として、施設の利用者とその家族、地域のお子様からお年寄りまでが一緒に楽しめる行事を開催することが目的。

当日の様子

当日は雨予報にハラハラしたが、何とかお天気ももちこたえ、無事、外で開催することができた。地域の子どもたちからお年寄りまでたくさんの方が来て下さり、盆踊りやゲーム、模擬店を楽しんだ。アトラクションは、昨年に引き続き、地域の子どもたちの「ダンスダンス」と「昭島鳳凰太鼓」をお呼びした。今年は、外の広い舞台で迫力満点の演技、演奏を披露して下さり、会場全体が魅了された。最後に行った「大抽選会」も、子どもたちが大盛り上がりで、地域の方々と共に楽しむことができた。

地域の課題

施設の周りに、新たに住宅が建ち、新しい住民の方々にも、法人を知っていただける機会になればよい。

昭島市　特養

社会福祉法人同胞互助会 特別養護老人ホーム愛全園
「文化祭」「愛全フォーラム」

■開催日程　11/18　10：30～15：00
■参加団体　社会福祉法人同胞互助会、食工房ゆいのもり、楽夢食管理栄養士ボランティア会
■参加人数　400名

実施の目的

利用者の作品展示販売、模擬店等を利用者と共に企画運営し、地域の方との交流を楽しむ。

フォーラムでは法人全体の職員が協力し、地域の方を対象に介護体験や勉強会を開催する。

当日の様子

今年の文化祭のテーマは「ひろがろう つながろう 介護と食」とし、これまで法人が取組んできた「楽夢食」をフォーラムのメインにおいた。

今まで、施設の方には来ていたけれど「楽夢食」は知らなかったという人、逆に、「楽夢食」には参加していたけれども施設のことはよく知らないという人たちが、それぞれを知るいい機会となった。

施設内では、愛全園、偕生園の利用者の作品展示や販売もあり、地域の方々との交流を楽しんだ。また、他法人の作業所ゆいのもりのパンの販売や、模擬店では、栄養課が腕によりをかけたカレーが大好評だった。

１日、曇り空ではあったが、たくさんの地域の方、家族の来園があり、利用者も楽しい１日を過ごすことができた。

地域の課題

今後も、法人の中の介護、医療、栄養等の専門職のノウハウを活用し、地域の方が必要とする情報を積極的に発信し、共有していけるように、こうしたイベントを実施していこうと考えている。

昭島市　複数施設共催

恩賜財団東京都同胞援護会 フジホーム

同一法人作業所パン販売

■開催日程　毎週火　10：30～13：00
■参加団体　立川福祉作業所
■参加人数　20名

実施の目的

地域の方に対して同一法人作業所のパンを販売することで、作業所の認知度アップを図ることと、利用者が製造したパンを利用者自身が販売することでのモチベーションを維持する狙い。

フジホームを販売場所として提供することで、地域の方に気軽に入っていただくきっかけ作り。

当日の様子

毎週実施しているが、だいぶ定着してきており、近隣職員はもちろんのこと、地域の住民、病院受診の帰りの方など多くの方にご利用いただいている。販売する利用者もパンが売れる毎に嬉しそうな表情を見せている。フジホームに来園される方も実際の販売の様子を見て、購入されることもある。

地域の課題

今後も地域貢献の一環として継続していく。

昭島市　複数施設共催

恩賜財団東京都同胞援護会 昭和郷
昭和郷フェスティバル

■開催日程　11/3　10：00～15：00
■参加団体　昭和郷内各施設：給食業者
地域商店：よしかわ屋、ニューマートナガフジ、和菓子茶の子、昭島ガス
地域団体：NPO法人ひだまり、玉川さくら太鼓、昭和中学吹奏楽部
■参加人数　800名

実施の目的

地域との交流を通して昭和郷や各施設の認知度を高める。

当日の様子

天候も良く開店当初より多数の方が来場される。毎年実施しているため、楽しみにしている方も多く顔馴染の関係ができている。施設の利用者も職員と共に順番に郷内を回り、ウインドウショッピングやお気に入りのものを購入していた。昭和中学吹奏楽部や玉川さくら太鼓の皆さんの発表の場としても活用いただいている。

地域の課題

地域全体が高齢化しており、日頃外に出る機会の少ない方も多数いる中で、このような機会を作り、少しでも足を向けていただけるようにしていく。今後も毎年開催していく。

東大和市　その他

社会福祉法人多摩大和園

文化祭＆芋煮会「感謝～今伝えたいことば～」

■開催日程　11/5　10：00～15：00
■参加団体　主催：社会福祉法人多摩大和園 やまと苑
　　共催：やまと苑家族会 パウラ
■参加人数　200名

実施の目的

地域交流及び地域貢献の一環として、苑主催、家族会共催による「文化祭＆芋煮会」を企画・開催し、利用者・家族・地域の皆様と交流を図ることを目的とする。

当日の様子

当日は、天候に恵まれ、秋晴れの下で開催した。

今回は、「感謝～今伝えたいことば～」というテーマの下に準備を進め、館内１階のホールには、利用者の作品や日々撮りためた写真など、色とりどりに所狭しと飾られた。

また、家族会主催のバザーとコンサートも開催され、にぎやかな盛り上がりを見せた。

ランチタイムは、サンドイッチor海鮮ピラフ・ラタトゥイユ・野菜サラダ・コーンスープ・リンゴのコンポートなど、洋食を堪能していただいた。

午後は、山形の秋の風物詩である芋煮会を開催し、大鍋２つに200人分の芋煮を作り、利用者・家族・地域の皆様と共に完食し、笑顔あふれる１日となった。

地域の課題

今後も継続的に地域交流行事を開催し、少子高齢を踏まえた課題として、地域包括ケアの推進や地域共生について、地域の皆様と共に積極的に考え、具現化していきたい。

今後の開催にあたり、広報活動の充実を図り、より広く情報発信できるよう、計画的に取組む。

小平市　その他

社会福祉法人黎明会 救護施設黎明寮
秋まつり

■開催日程　10/28　9：55～13：30
■参加団体　NPO法人立川しらゆり作業所、NPO法人アダージョ東大和ライブラリイエ工房、社会福祉法人ときわ会サングリーン、社会福祉法人おだまき工房、社会福祉法人武蔵野会小平福祉園、学校法人白梅学園　白梅大学小平市西地区地域ネットワーク（西の風）、キッズサークルソウルスパイス、ボーイスカウト小平第２団、社会福祉法人黎明会、小平市地域包括支援センターけやきの郷、あかつき、澄水園、のぞみ作業所
■参加人数　500名

実施の目的

施設開放し交流を図ると共に、本年度、当施設開設60年を迎えたことに感謝する。

当日の様子

台風23号の影響で小雨が混じる中、イベントなどの予定を変更しながら実施。例年に比して、参加者は少なかったが、小さなお子さん連れの夫婦、小学生など子どもの参加が多数あり、近隣自治会の顔もあった。小平市の協力を得て、当施設の60年を振り返るために近隣風景の記録写真を借用し掲示すると共に、小冊子を作成し当施設の沿革をお知らせした。

圧縮した全体進行であったが、笑顔がたくさん見られ、温かい雰囲気のなか、終会した。

地域の課題

子どもたちのダンスサークルから、地域の関係団体や大学など多種多様な団体の参加を得、例年、多くの方たちに参加していただいている。グランドのキャパの関係もあるが、さらに地域の関係機関・団体と協働を図っていこうと考えている。

東村山市　複数施設共催

社会福祉法人白十字会 特別養護老人ホーム白十字ホーム
第５回　八国山フリーマーケット

■開催日程　10/22　10：00～15：00
■参加団体　実行委員会：町内障害者支援事業所「みどりの森」「なごみの里」「ひなたの里」「あきつの園」、白十字ホーム同法人老人保健施設「ばんなん白光園」、東村山市　北部包括支援センター、東村山市民生委員会、東村山市　諏訪町自治会、白十字ホーム家族会、白十字ホームボランティア
後援：東村山市社会福祉協議会
フリーマーケットの出展団体（地域住民）：31店舗
アトラクション：「東村山市第四中学校吹奏楽部」「子ども劇場和太鼓」「おやじバンド」
台風の為不参加：「八国山保育園エイサー」「みどりの森バンド演奏」
■参加人数　500名

実施の目的

「老いも若きも♪いらっしゃい♪」～つながれ ひろがれ ちいきの輪　IN諏訪町～を合言葉にどの世代も楽しめ、八国山フリーマーケットを通し、地域の皆さんと交流できる場所になればとの思いで開催を迎えた。

当日の様子

今年は初めて「ハロウィン」をテーマに企画したため、当日の会場はハロウィンの雰囲気で活気に溢れていた。特養のイベントのため、正直ハロウィン世代は少ない。ボランティアや学生にヒントをもらいながら準備をする。お年寄り達も、魔女の帽子をかぶったり、お面をかぶったりしながら雰囲気をとても楽しんでいる様子があった。

地域の保育園・幼稚園・小学校・中学校にも2000枚以上のチラシを配布し参加を促した。そこでの企画で「ハロウィンの雰囲気つくりをしてきてくれたらプレゼントがもらえます」とうたった。雨にも関わらず、子どもたちもかわいい雰囲気を存分に発揮してくれ、白十字ホームの利用者たちはとても喜んでいた。

当日は、衆議院選挙と台風に見舞われ、イベントコンディションとしては最悪の状況の中開催。しかし、５年目の実行委員の結束は固く「会場は狭かったけど、施設内のほうが他の出展者とも話がたくさんできたし楽しかった」との声を多くいただき、大成功に終えることができた。

地域の課題

働き世代に、自分たちの暮らしている地域の福祉事情を知ってもらえる機会になればと考え、今回の呼びかけは子どもたちも楽しめるためのフリーマーケットを考えた。地域で暮らす、一人ひとりの「目」が、周囲に向くことで、子ども・障害者・高齢者への「福祉の芽」が増えていく、まさに“つながれ ひろがれ ちいきの輪”となった。

第５回を無事に終え、来年の開催も「地域で最期まで暮らす安心も得られるフリーマーケット」へと成長していきたい。

東久留米市　特養

社会福祉法人 三育ライフ
シャローム祭

■開催日程　11/5　10：00～15：00
■参加団体　社会福祉法人リブリー、社会福祉法人しおん保育園、NPO法人チャレンジャーパン工房モナモナ、会津物産販売宇津木さん、三沢かご店、NPO法人高齢者在宅介護支援センタースマイルアーク、社会福祉法人マザアス、なんくるエイサー、東久留米児童合唱団そよかぜ、東久留米総合高校箏曲部ほか
■参加人数　500名

実施の目的

地域の方々や、法人との協力で、祭りを作り上げみんなに楽しんで交流していただく。

当日の様子

106歳の利用者の開会宣言で始まり、恒例の沖縄エイサーの太鼓の音に、ご近所の皆さんが集まってくださった。近隣の事業所やご近所の方々のご協力によるフリーマーケットも模擬店も大盛況で、子どもコーナーは最後までたくさんの子どもたちでにぎやかであった。中のイベントは、子ども合唱団、フルートとピアノの演奏に加えて、高校の箏曲部によるお琴の演奏がありとても喜んでいただいた。今年は、小学生ボランティアが30名以上参加してくださり、元気に盛り上げてくれた。今年初めてアクティブル君にも参加してもらい、大人気！いい天気の中、皆さんに楽しんで交流していただけた１日であった。

地域の課題

毎年このお祭りに出店・参加するのを楽しみにしていただいている協力事業者や団体が定着し、こちらからお願いする前に、連絡をいただく事がありうれしく思えた。地域で協力し合うことで、災害時や、緊急時にしっかり顔の見える関係で相互に支えあうことにつながるのではないか。

東久留米市　特養

社会福祉法人マザアス 高齢者総合福祉施設マザアス東久留米
とも・いき マザアスバザー

■開催日程　10/22　10：00～13：30
■参加団体　門前自治会、ブレッツエン、モナモナ、ホームケアセンターイワサキ、リーフメディカル、メモリアルヨーコー、東部地域包括支援センター、マザアス各部署
■参加人数　100名

実施の目的

老人ホームに住まう高齢者たちと同じ地域に住む住民・子どもたちとゲームやバザーで交流を行い、地域のつながりを再確認する。

当日の様子

台風21号の接近で激しい雨に見舞われたため、敷地駐車場でのイベントを中止し、施設建物内で縮小開催となった。雨にもかかわらず「毎年楽しみにしているから」と多くの方にご来場いただけた。施設入居者にとって多くの来訪者の賑わいはあまりないことであり、貴重な時間となった。

地域の課題

例年と違う場所での開催となった為、戸惑ったり多少の混乱が生じた。
雨の為バザーで購入した物品が濡れてしまう心配から購入をためらう方も多くいた。
新しい取組みも大切だし、変わらず継続していく事もまた大切であると感じた。
今後も地域との交流は継続していきたい。

清瀬市　養護

社会福祉法人慈生会 聖家族ホーム
ふれあいバザー

■開催日程　11/3　10：00～14：00
■参加団体　ボランティア（秋津教会、小平教会、東星学園等）、よさこいソーラン清瀬、マ・メゾン光星、すばる、わかば、どんぐり、ボーイスカウト清瀬第２団、山下花店、熊谷組、ホームケアセンターイワサキ、聖ヨゼフ老人ホームOB
■参加人数　400名

実施の目的

バザーを通じて、地域の方々やホームの利用者、家族等の交流を深める。

２つの老人ホームを通じて社会福祉法人慈生会の事業を知っていただく。

当日の様子

前夜に降雨があったが、当日は青空が広がり絶好のバザー日和であった。ホームと同一法人が運営する児童養護施設と病院の他、カトリック秋津教会、ベタニア修道女会などもふれあいバザーと同時に模擬店などを出店する一大行事である。

子ども、高齢の方、家族連れなど多くの地域の方々が来場され、例年出店している障がい者施設の物品販売、模擬店の飲食物のほとんどが14時のバザー終了時間を待たずに完売となるなど大変盛況であった。

地域の課題

ふれあいバザーは、20年以上続く恒例のイベントとして地域に定着している。来場者も老若男女幅広い層の方々であるが、高齢者の方々が多くなっているように見受けられる。

現在、ふれあいバザー、交流カラオケ大会、地元老人会の芸能発表会、子どもの居場所づくり活動への場所の提供などを通じて地域の方々との交流を続けている。今後も地域のニーズに合わせて、ホームの持つ様々な機能を生かして地域活動に貢献していきたいと考えている。

瑞穂町　デイサービス

瑞穂町通所介護事業所連絡会
もう一つの敬老会

■開催日程　10/25　14：00～16：00
■参加団体　高齢者在宅サービスセンターみずほ、フラワープラム、デイサービスセンター不老の郷、お茶のみ処、杜の園ながおか、七福神、二本木交茶店、デイサービス葵、瑞穂町社会福祉協議会、瑞穂町高齢課、寿クラブ連合会、JA西多摩、東部高齢者支援センター、西部高齢者支援センター
■参加人数　550名

実施の目的

瑞穂町８施設の利用者が集まり、一般町民、寿会の皆様にも幅広く声掛けし、一緒に敬老のお祝いをするものである。

当日の様子

朝から雨の１日でしたが、開演２時間前から一般町民、老人会の人たちが並び、デイサービスの利用者の他にも、多くの方の参加を得た。第一部は敬老式典を行い、第二部では、プロの歌手（園まりさん、佳山明生さん）による歌謡ショーを行った。会場内の皆さんと出演者とが一体となり、大変盛り上がった歌謡ショーでした。途中デイの職員による介護予防体操も行い、皆さんと楽しい時間を過ごすことができた。

地域の課題

第４回目で各団体の協力で少しづつ認知度が上がってきている。瑞穂町通所介護事業所連絡会では、今後も施設間に限らず、地域住民の参加型の活動の企画等を展開していきたいと考えている。今回の「もう一つの敬老会」では開催場所の立地条件が悪く、駐車場スペースが少なく、解決しなければならない問題である。会場の大ホールは有料であり、今後無償化への方向を検討する必要がある。

瑞穂町　デイサービス

社会福祉法人常盤会 高齢者在宅サービスセンターみずほ
くりの里サロン

■開催日程　11/26　11：00～14：00
■参加団体　高齢者在宅サービスセンターみずほ、栗原町内会、ボランティアセンター
■参加人数　21名

実施の目的

地元町内会の概ね60歳以上の方に高齢者福祉施設をもっと身近な存在として理解を得るため、会食やレクリエーションを行い、親睦を高めることを目的とした地域交流会。

当日の様子

今回は、赤飯作り、けんちん作り、ひじき作りを行った。男性は３名の参加で園庭で窯に火をつけ、おもに赤飯作りを担当し、女性群はとても手際よく食材をカットし料理を行い、１時間程度で全ての料理は終了した。その後少しの時間を利用して、介護予防体操を実施し、お腹が減った状態で会食を行った。少し柔らかめの赤飯がとても美味しかった。会食の後は、カラオケを行い、楽しい１日を過ごすことができた。

地域の課題

地域主体のサロン活動なので準備の段階から協力をいただいている。食材の買い出しなどは、みずほ園職員が全て行っている。職員数が少なく勤務中に買い出しに行くことが困難になっていることは、今後の課題として検討したい。

あきる野市　デイサービス

社会福祉法人秋川あすなろ会 あすなろみんなの家
ふれあいお茶飲み会

■開催日程　9/13　11：00～15：00
■参加団体　原小宮ふれあい福祉委員会、原小宮町内会
■参加人数　33名

実施の目的

①町内の皆様の「ふれあい・交流の場」として、みんなで歓談しながら昼食を味わい、「演芸ボランティア」を招いて心温まる演目を中心に「室内ゲーム等」を行い、「笑って、歌って、元気よく」健康長寿を願い、楽しいひとときを過ごす。
②町内にある福祉施設として「あすなろみんなの家」の行っている事業を知っていただくとともに、介護保険や高齢者福祉の制度やサービスについて理解を深めていただく。

当日の様子

お茶飲み会の前、10：00からは、原小宮ふれあい福祉委員会が定期的に行っている「ウォーキングの会」があり、多くの方が都立秋留台公園でのウォーキングに参加された後に会場に集まった。

開会にあたり町内会長の挨拶のあと、あすなろみんなの家の施設長より、施設の事業内容やサービスの利用方法、介護保険制度の変更（介護予防・日常生活支援総合事業の開始など）についてお話しさせていただいた。

その後、当施設が用意した昼食や、ふれあい福祉委員会が用意された飲物や菓子を囲んで歓談の時間を過ごした。

食事が一段落した後は、招待した演芸ボランティアによる歌謡舞踊・マジック・参加型のクイズや体操も交えたステージや、ビンゴ大会、童謡や懐メロを歌ったりと、よく笑い楽しい時間を過ごしていただいた。

地域の課題

原小宮地区は河岸段丘の上下にそれぞれ住宅地があるため、高齢等の理由により地域行事などへの参加が困難になっている方がいらっしゃる（今回の行事に関しては、ふれあい福祉委員の自家用車で送迎を行った方が数名）。

町内にはコンビニエンスストアや商店がなく、移動手段が限られる方にとっては、買い物に不便が生ずる環境となり得る（最も近いコンビニエンスストア・ドラッグストアは平井川を渡るため、坂の上り下りが必要。総合スーパーまでは約２キロ離れており、バス等の交通機関までのアクセスも平井川を渡る必要がある）。

もともと、地域のつながりは比較的強い地域ではあったが、10数年前の区画整理事業後に転居されてきた方々の町内会未加入などの課題が出てきていた。しかし、最近では町内会など既存の組織に加え、自主グループが年中行事などの際に連動するなどの効果により、地域住民の参加が増加してきているのは強みと考えられる。

ふれあいお茶飲み会は、ふれあい福祉委員会・町内会が年に数回行っており、ここ数年は当施設を会場として活用いただいている。その中で健康づくり・認知症予防などの情報や、施設や制度等の紹介をさせていただいてきているが、普及・啓発活動のほか、地域ニーズを拾い上げる視点での取組みを強化していきたい。

日の出町　複数施設共催

社会福祉法人道心会 藤香苑　社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム
社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜
産業まつり de つながれひろがれ日の出町の輪

■開催日程　11/4、11/5
■参加団体　特別養護老人ホーム ひのでホーム、特別養護老人ホーム 藤香苑、
特別養護老人ホーム栄光の杜、日の出町産業まつり参加団体多数他
■参加人数　100名

実施の目的

食品販売を通して、地域における施設の存在を知っていただくこと。
毎年恒例とすることで、なじみの関係を築くこと。

当日の様子

ひのでホームは焼きたてパンの販売、藤香苑はEPA職員の方が作る本場の焼き春巻き、栄光の杜はタピオカミルクティーとホットコーヒーの販売。２日間にわたるイベント、両日とも天候に恵まれ、産業まつりには多くの来場者が訪れた。

それぞれの施設が積極的に呼び込みを行い、販売よりも、多くの地域の方々に声をかけることに主眼を置いていた様子である。売る側、購入する側、双方ともに楽しく和やかな雰囲気が醸し出されていたと感じた。

地域の課題

毎年出ている団体として知ってもらえることを目指したい。ちいきの輪を広げていくためにも、産業まつりに継続的に参加していきたい。

北区　特養

社会福祉法人泉陽会 新町光陽苑

田端新町二丁目自治会・新町光陽苑 災害時相互応援協定に伴う訓練

■開催日程　11/5
■参加団体　瀧野川消防署田端出張所、田端新町二丁目自治会、新町光陽苑
■参加人数　50名

実施の目的

災害時相互応援協定に伴う訓練の実施。

当日の様子

訓練の内容としては、「起震車体験」「煙体験ハウス」「火点想定による消火器による初期消火訓練」「倒壊建物からの救出訓練」「救出後の応急手当ならびに心肺蘇生訓練（ダミー人形を使用しAEDを使用）」「町会の消防隊、地元消防団、新町光陽苑自衛消防隊によるスタンドパイプ、ポンプ車、施設消火用散水栓による放水訓練」「アルファ米調理の見学」「新町コミュニティアリーナの備蓄倉庫及び仮設トイレ設置等の見学」を実施した。

起震車体験及び煙ハウスの体験が初めての方もおり、貴重な経験をしたとの声も聞かれた。

地域の課題

このような訓練の機会は２回目ではあるが、火災、地震の他に河川氾濫による水害（浸水）想定地域にもなっており、様々想定される災害場面において、どのように協定に基づいて相互に行動していけばよいか今後も訓練を積み重ね、いざというときに備えていきたいと思う。

青梅市　特養

特別養護老人ホームやすらぎの家　吹上自治会
地域災害協定の見直し

■開催日程　11/23
■参加団体　やすらぎの家、青梅市吹上自治会、吹上自治会防災ボランティア
■参加人数　50名

実施の目的

殆どの施設が地域と地域災害協定を結んでいるが、震災等の経験をもとに見直しが行われていない。地域との災害時の連携の在り方を相互に考え、協定書の見直しを行い、地域との連携をさらに強化することを目的とする。

当日の様子

地域防災訓練において、近隣の小学校で避難所の運営訓練、応急救護等を行った後、当施設において車椅子での避難訓練、災害時に地域の要支援者施設の車両、車椅子でどのように救援するのかなどの訓練と、施設の災害時に使用できる発電機、照明設備、大型のジャッキアップ機、チェーンソー等の設備を確認する。終了後協定書の見直しについて話し合いを行い、災害時の連絡網を毎年見直し、相互に確認をし合う仕組みを作る、本年度中に震災、水害などを含めた複合的災害協定の見直しを行うことを確認した。

地域の課題

２カ月おきに行われる、防災ボランティア会議の参加者は50名以上になるが、自治会に加入していない世帯も多くあり、地域に要支援者がいること、そして地域で支え合うためにその方の氏名などわかればいいが、把握できない状態にある。

個人情報の問題もあり、把握は困難であるが、地域の高齢化が進んでいるために、どのようにこの方たちを把握し、支援するかが課題であると共通認識し、行政、民生委員などの力を借り、地域を支えるネットワークを強化する必要がある。

あきる野市　特養

社会福祉法人さくらぎ会 こもれびの郷
地域防災協定に基づいた防災訓練

■開催日程　10/31
■参加団体　秋川消防署、緑の里自治会、こもれびの郷、市立秋多中学校
■参加人数　38名

実施の目的

災害への対応訓練を通して、地域住民と地域にある施設が協力して難局に備える。

当日の様子

当日午前より施設職員によるロールプレイ訓練を開始。午後には参加団体が全て揃い、秋川消防署の指導のもと訓練本番を行う。施設利用者は実際に避難をしていただき、関係団体も参加した。終了後は、秋川消防署による講評を受けた。また、炊き出しを行い、関係者全員で飲食し被災時を想定した訓練とした。

地域の課題

今回は厨房付近からの出火を想定し訓練を行った。フロアの利用者（高齢者）が実際に全て避難し、消火についても実際の放水を行い臨場感あふれる訓練となった。中学生もこの訓練に参加し、防災の備えの大切さを改めて感じ取った様子であった。

その後の炊き出し訓練においては、試食も行い災害時のリアルな想定を体験することができた。こうした活動を通じ、地域、施設、学校などのその他の組織が連携する素地を作れたと確信した。今後はこうした活動を毎年行い、あらゆる災害を想定した訓練を行い、地域と施設の連携を深めていきたい。

豊島区　その他

社会福祉法人フロンティア
夢を応援「茜パン」

■開催日程　平日　15：00～16：00
■参加団体　いけぶくろ茜の里
■参加人数　当日の様子にて実績を掲載

実施の目的

障害者就労支援事業所「いけぶくろ茜の里」利用者の手作りのパンを、豊島区役所と連携の上、登録の学習支援事業所の子どもたちへ無償配布。

当日の様子

事前に必要個数の連絡を受け、用意してあるパンやラスクを、代表で取りに来た方々が笑顔で「皆が楽しみにしています」と、受け取ってくださった。

９月から11月の間に７事業所へ、延べ93回1,979個をお渡ししている。

地域の課題

茜パンを通して、障がいのある方々に対する理解を深めていただくことが、少しずつできている。利用者が一生懸命作って販売していることで、障がい者の一面を見ていただき、地域と繋がっていけるよう、これからも施設から何が発信できるかを考え続けていきたい。

板橋区　その他

株式会社タムラプランニング＆オペレーティング

高齢者の「生きる」を考える

■開催日程　11/9
■参加団体　後援：板橋区、東京都社会福祉施設協議会、東京都高齢者福祉施設協議会、高齢者住宅経営者連絡協議会、タムラプランニング・アライアンス
協賛：板橋区社会福祉施設協議会
■参加人数　1077名

実施の目的

認知症ケア・看取りケアは、高齢者ケアサービスの中で最も必要とされるサービスであり、その人らしく尊厳のある暮らしをいかにサポートするか、すべての人にとってとても重要な課題である。この公演でいかに「生きる」のか感じてほしい。

当日の様子

第一部石飛医師の講演はわかりやすく、やわらかな口調で高齢者の置かれている医療と介護、看取りの現状を伝え、医療の在り方や高齢者、そして家族をどう支えていけるか、の問いを投げかけていた。

第二部の劇団ZANGEの公演「生きる」は、実際に京都であった事件を元にした重いテーマを取り上げているが、時に笑いを誘い、最後には涙なしでは見られない、心に残る舞台であった。

ロビーには高齢者介護に関係する商品の展示も行われ、たくさんの方が実際に手に取ってみていた。

地域の課題

舞台「生きる」単独公演は、今後もたくさんの皆さんに見ていただけるよう、東京都内、埼玉県など公演を行っていく予定。

たくさんの方に介護の問題を考えるきっかけとしてほしい。

目黒区　特養

目黒区（協力：社会福祉法人目黒区社会福祉事業団 目黒区立特別養護老人ホーム中目黒）
在宅高齢者閉じこもり防止事業（会食サービス事業）

■開催日程　毎週火　12：00～13：00
■参加団体　特別養護老人ホーム中目黒
■参加人数　221名

実施の目的

ひとり暮らしなど高齢者に対して、昼食の提供を行うとともに、栄養士による栄養指導・栄養相談を行うことにより、在宅高齢者の閉じこもり防止や食生活の改善、健康の増進を図る。

当日の様子

「元気に健康で過ごすために、まずは食事から、そして運動！」しっかりと意識した生活を送れるように、月に一度栄養をテーマにした勉強会を開催。

11時半を過ぎると、三々五々利用者の皆さんが集まり始める。お茶を飲みながら、笑顔で一週間ぶりの再会。楽しそうにおしゃべりをしながら過ごしている。皆さん揃ったところで11時50分頃より口腔体操をして、食事を食べる準備を始める。肩や首周りを動かしたり、マッサージしたり、声を出して口のまわりの運動をする。温かいお食事を、会話を楽しみながら召し上がっている。栄養士へ料理の質問や調理法等食事に関する情報交換もしている。

参加者からは、「家に帰れば１人だけれど、ここに来れば皆さんとおしゃべりができるし、何よりみんなで食べるご飯は美味しい。毎週火曜日を楽しみにしている」という声もあり、食後のコーヒーや紅茶を飲みながら、あちらこちらで楽しそうにおしゃべりに花を咲かせている。

地域の課題

参加者に「ここへ来て楽しい」と思っていただき、継続して参加し、参加者同士の交流が図れるよう活動を行う。

八王子市　複数施設共催

社会福祉法人親和福祉会 特別養護老人ホーム 小松原園
「小松の杜の介護体験塾」
～八王子市立陶鎔小学校４年生～

■開催日程　7/4　13：30～15：00
■参加団体　八王子市高齢者あんしん相談センター川口、養護老人ホーム竹の里、八王子市社会福祉協議会、柴橋商会、ケイアイ、NiCK、トーカイ、フロンティア、ダスキン、フランスベッド、サカイヘルスケアー、楢の里、悠杜、快杜、ほほえみ、だんだん、まめまめ、八王子市高齢者あんしん相談センター南大沢
■参加人数　135名

実施の目的

地域の小学校の総合学習の授業の一環として、介護福祉体験の授業を５時限分の授業として取り入れていただき、その中の２時限分を当日実施した。この体験を通して、子ども達に介護や福祉を学んでもらい、地域で暮らす高齢者の力となってもらうことと、将来の介護人材の育成にも繋げ、地域にたくさんの事業者があるということなども知ってもらうことで、地域の絆を深める。

当日の様子

今年で３年目を迎え、学校側も協力団体も流れは分かっていたため、当日の体験塾は円滑に進行ができ、怪我や事故もなく無事に行うことができた。

当日は、２部構成で行い、前半は地域包括支援センター職員による認知症サポーター講座を行い、中でも、学校の先生や施設職員などが参加した劇を織り交ぜた講義は、大変盛り上がった。

後半は、福祉機器体験の授業を行い、参加した４年生の子ども達に、事前に４グループに班分けをしてもらい、当日は福祉車両乗車体験・介護ベッド体験・介護食体験・車椅子乗車体験の４グループに分かれ、地域の事業所の方々の手伝いのもと、子ども達に楽しみながら学んでもらった。参加した子ども達からは「お年寄りの人って大変だな」「介護する人ってすごい」「福祉機器ってとても便利」などといった声が聞かれた。この取組みには、各協力団体より40名ほどと、自施設より若手職員など10名ほどが協力し、地域の事業者間の繋がりも年々深くなってきた。

また、この体験の後、学校で事後活動として後日、体験したこと等をグループごとでポスターを作成し、学校公開の時に４年生各クラスの父母の前でポスターセッションを行い、父母の方も知らない様な体験や知識を披露し、父母の皆さんも大変喜ばれた。

地域の課題

当施設のある地域は、核家族化や近所付き合いなど地域の繋がりが希薄化しており、親交を深める機会が不足していることや、子ども達が高齢者と接する機会が少なくなっている。

地域の中に児童館がなく、学童を卒業した児童の居場所が不足している。地域の高齢化も進んでいるが、地域にある介護福祉の事業所が認知されていない。

今後はこういった問題に対して、多角的な視点から物事を見つめ、地域の実情に合わせた活動を行っていきたいと考えている。

また、今回の取組みに関しては、陶鎔小学校だけでなく、近隣の小中学校などにも波及していけるように、市や教育団体と協力して展開していきたいと思う。

八王子市　複数施設共催

社会福祉法人親和福祉会 特別養護老人ホーム 小松原園
医療相談員さんとの情報交換会

■開催日程　10/30　14：00～16：00
■参加団体　八王子山王病院、右田病院、日の出ヶ丘病院、数井クリニック、恩方病院、サテライト悠杜、スローライフ、ほほえみ、八王子医師会、八王子市高齢者あんしん相談センター川口、養護老人ホーム竹の里、養護老人ホーム楢の里、ウエストケアセンター、ケアサービスセンター虹、ほのぼの、青陽園、山水園、八王子市高齢者あんしん相談センター中野、多摩特養老人ホーム、東京都多摩若年性認知症総合支援センター
■参加人数　52名

実施の目的

地域の医療相談員と、地域の事業者のケアマネや相談員が集まり、医療と介護のより良い連携について情報交換を行うことで、高齢者が安心して医療や介護を受けられるような環境を作っていく。

当日の様子

当日は、各医療機関の紹介から始まり、参加した医療相談員を代表して、八王子山王病院の小俣医療相談員より「医療機関と介護事業者との連携について」講演いただき、その後は各医療機関の代表者より、病院の特性や特徴などを話していただいた。後半は、参加した各介護事業者の方々より、質疑や事例等について話していただき、内容ごとに医療相談員が応えるような形で進行し、あっと言う間に２時間の情報交換会が終了した。

参加された方に、その場でアンケートを取り、ほとんどの方が良かったと答えた。またコメントの欄には、「いつも電話での相談で、お名前だけは存じ上げていましたが、お会いできて相談（身近に）しやすくなった気がしました」や、「病院の役割や機能体制を理解して連携したいと思った。まめに連絡し、利用者の面会にも行きたいと思います。」や、「他の医療機関の話や、介護事業者の方々の気持ちを聞けて勉強になった」など、参加された医療相談員や介護事業者の皆さんにとって、大変有意義な情報交換会となった。

他には、今後も続けて欲しいという意見が多くあった。

地域の課題

この地域だけの問題ではないかもしれないが、ケアマネは「医師」、医療関係者は「ケアマネ」が最も連携が取りにくいと言われており、医療機関と介護事業者との間には壁がある。

医療機関側と介護事業者側の双方に、それぞれの仕組みや制度についての理解が不足している。医療と介護のネットワークが不完全な状態にある。

こういった課題を含め、地域ごとにこういった活動を増やしていき、多職種を交えての事例交換会などを行っていきたい。

東村山市　複数施設共催

東村山市高齢者福祉施設連絡会
お年寄りの手作り作品展

■開催日程　10/13～10/15
■参加団体　（特養）白十字ホーム、ハトホーム、第二万寿園、東京都ナーシングホーム、はるびの郷、ひかり苑、青葉の杜
（養護）万寿園、さくらコート青葉町
（軽費）サンホーム、第三万寿園
（デイ）白十字八国苑、寿デイサービスセンター、はるびの郷、ハトホーム在宅サービスセンター、東大和市ふれあいデイサービスセンターひかり苑、本町ケアセンター、青葉の杜デイサービスセンター
■参加人数　913名

実施の目的

高齢者福祉施設と在宅のお年寄りの手作り作品展を展示し、市民に高齢者福祉施設活動の一端を理解してもらう。

当日の様子

開催期間の３日間は雨に見舞われ、来館者数は913名で昨年と比較すると減少した（昨年982名）。また、地域からの出展数については、作品募集を市報９/１号（９/15号掲載）での掲載ができず、十分な広報ができなかったことが影響していると考えられる。

会場の都合上、使用方法に制限があることから、例年同様、作品の落下や作品の作成方法についての問い合わせがあり、対応に苦慮した。また、希望者には差し上げます（社協所管の作品）という作品の対応方法を、事前に申し合わせていなかったので戸惑った。

地域の課題

今後の活動については、施設連絡会の事業計画にある内容（高齢者幸せの会への協力、テーマ別研修、介護職短期派遣研修、お年寄りの手作り作品展等）で進める。毎年開催しているテーマ別研修（地域向けの施設見学会）は、好評であり定員を超過する方向にあるので、各施設で随時対応している。

また、市内にある社会福祉法人連絡会では、28の法人が共同で行う「暮らしの相談ステーション」を10/１からスタートしている。内容については、どのような内容でも相談をしてもらい、法人で対応できる相談内容は支援を行い、内容によっては適切な機関を紹介するなどの事業である。

東村山市　その他

社会福祉法人東村山市社会福祉協議会
東村山市内社会福祉法人連絡会
施設・事業所の市民オープン見学会

■開催日程　9/25、10/22、10/23、10/26、10/27、10/28、10/30、
11/7、11/11、11/25
※9～11月の期間中、水・日・祝以外毎日行っていた団体もあり

■参加団体　村山苑：ほんちょう保育園、ほんちょうケアセンター、福祉事業センター、救護施設さつき荘、ハトホーム、救護施設村山荘
白十字会：白十字ホーム
梨世会：グループホーム宝亀、小規模多機能ホーム梨の園
東村山けやき会：グループホームはぎやまはうす、平成の里、地域生活支援センターふれあいの郷
土の根会：花さき保育園

■参加人数　9名

実施の目的

社会福祉法人が運営する施設や事業に関して、市民に理解してもらう。

当日の様子

実施団体の内、実際の見学者があったのは梨世会のみ。

同じ町内の福祉活動団体から５名が参加し、２つの施設の特色を職員が説明。その後、参加者は各施設内を見学し、施設内会議室で感想や意見交換を行った。

地域の課題

見学対応をした施設においては、法人及び施設の様子を、同じ町内の方に具体的に知ってもらうことができたと同時に、施設における現状の課題（今回は高齢者の介護分野）も提示できた。

地域とのつながりが密となり、今後も互いにできることを協力し合う関係が結べることとなった。

課題としては、見学対応をした施設においては、参加者よりボランティアの申し出があったが、受け入れ体制が整っておらず、即答できずに機を逃してしまった。

その他の法人では見学希望者がいなかったため、広報の方法や範囲等を再検討する必要があると強く感じた。

東村山市　その他

社会福祉法人東村山市社会福祉協議会
東村山市内社会福祉法人連絡会
市民に向けたイベントの開催

■開催日程　9/9、10/22、10/27、10/30、11/1～11/26
■参加団体　①「コロニー祭り」コロニー東村山　②「八国山フリーマーケット」白十字ホーム　③「おはなしコンサート」花さき保育園　④「ハトホーム交流サロン　暮らしの相談室」ハトホーム　⑤「萩山親子のひろばどんぐり」久米川保育園　⑥「ひきこもり支援講演会」「認知症サポーター養成講座」救護施設村山荘　⑦「ふらっとカフェ」はるびの郷　⑧「文化祭」秋津療育園　⑨梨世会
■参加人数　244名

実施の目的

市民が参加できるイベントを開催することで、施設を身近に感じてもらい知ってもらう。

当日の様子

④茶話会兼交流サロンを実施。「むらやまえん生活相談所」の相談員が同席し、介護以外の相談も受け付けた。昼食の実食も行った。
⑥「ひきこもり支援講演会」と「認知症サポーター養成講座」を実施。講演会では初めて事前申し込みを不要とした。長年、ひきこもりの青少年への支援を実施しているNPOから講師を招き、ひきこもりの長期化・高齢化や着目点などを伺った。法人職員だけでなく地域からも関心のある人が参加し、熱心に話を聞いていた。養成講座には地域の方や高校生などが参加。施設職員がシナプソロジー体操を実施し、参加者に体験してもらった。
⑦認知症カフェ・家族介護者教室のビギナー講座・施設見学の３種を合わせて実施。ビギナー講座を経た上での施設見学は意味合いが大きかった。初めて施設見学をする方より「とても勉強になった」との声が聞かれた。
⑧文化祭にて「利用者の生活の様子の展示」と講演会を実施。展示は利用者自身が楽しみながら取組むことができ、昨年度より多くの人にも見てもらえた。講演会では、重症心身障害児・者支援に関するお話を伺った。

地域の課題

各イベントの参加者はそれなりに居たが、どのイベントでも「つなひろ」を経由した参加は実感できなかった。「つなひろ」の告知力の弱さ、法人や施設自体のPRが課題だと感じる。普段からもっと気軽に施設に足を運べるような工夫が必要。
⑥ひきこもり支援のニーズは掘り起こしにくく、「制度に繋がりにくい引きこもり状態にある方・その家族への支援」を、法人単独ではなく関係機関と情報を共有して具体的に検討したい。養成講座では、今後は同法人の保育園児の保護者にも多く参加してもらえる工夫、同法人内の介護職員が講師を担えるような育成を行いたい。
⑦認知症カフェは参加者が定着しており、カフェを通じたニーズ把握や情報提供もできている。この形をいかに継続させるかが重要だと感じる。

日の出町　特養

社会福祉法人福陽会 第３サンシャインビラ
施設の食事を知ろう

■開催日程　11/30　11：30～13：00
■参加団体　地域の方々、利用者の家族
■参加人数　10名

実施の目的

施設で提供している普段の食事を食べながら老人ホームとはどのような所なのか知っていただく。

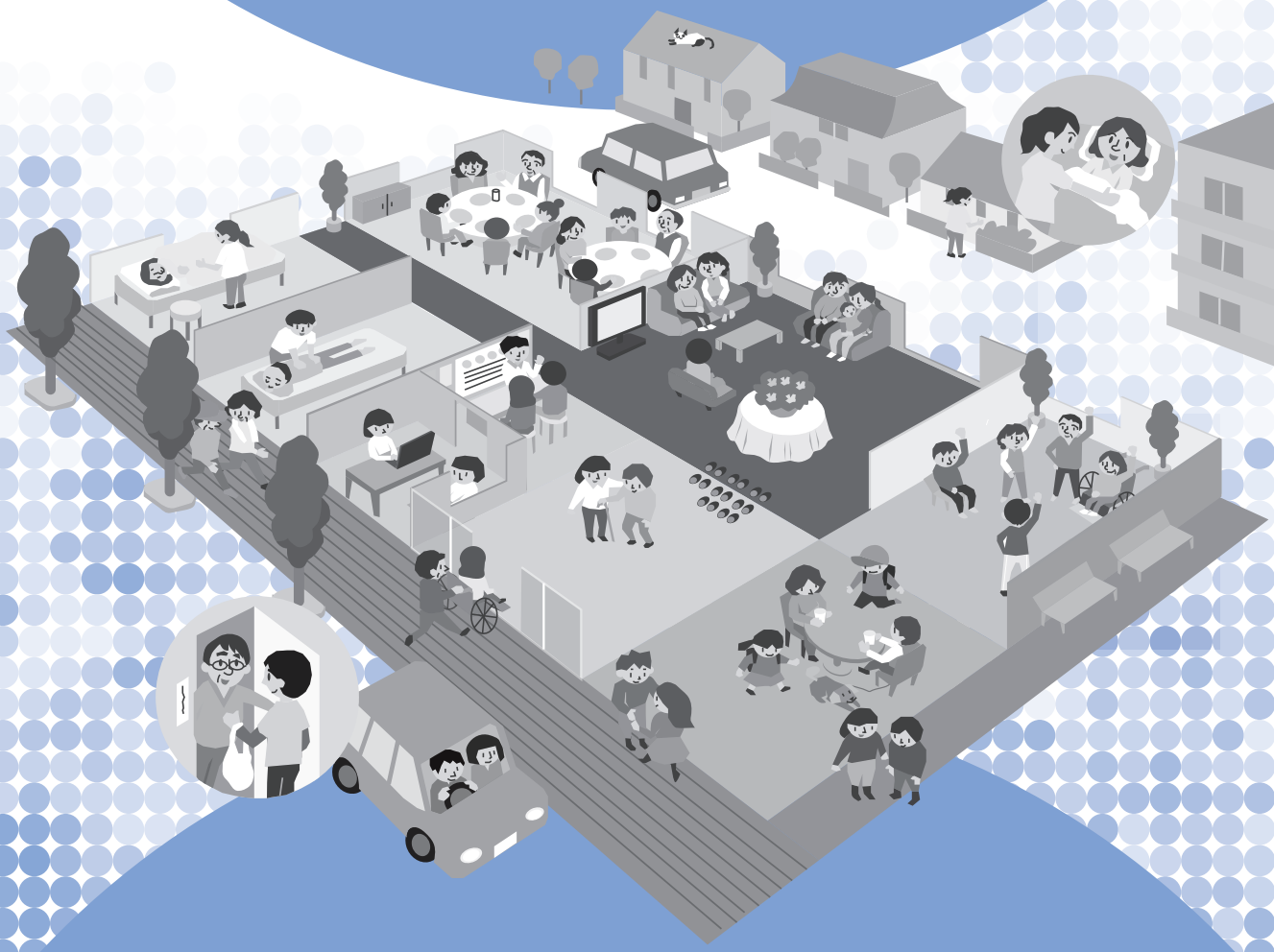
当日の様子

管理栄養士より、療養食や食形態（普通食、刻み食、極刻み食、ペースト食、トロミ）など、施設で提供している食事についての説明や様々な形態の食事を見ていただいた。減塩食の塩分摂取量は６g未満で３食の食事を提供しているが、塩、味噌、醤油の塩分６gはどの位の量なのかというのも実際に見ていただいた。その後、普段施設で提供している食事を召上っていただいた。最後に、和菓子の練り切り作りを参加者の方と一緒に行った。参加者から、様々な食事形態があるのに驚いた、良い勉強になった、食事が美味しかったなどの声が聞かれ、和やかに会が行われた。

地域の課題

参加者の中には、近所に住んでいて、施設の周辺を良く散歩しているが、初めて施設に来た、色々な取組みをされていて驚いた、楽しかったと話される方もいた。まだまだ施設の近くに住んでいる方でも、施設を知らないという方が多くいらっしゃると思う。施設と地域が繋がっていけるよう、ボランティアの受け入れ、地域の方々にも参加いただける行事などを計画していきたい。

資料



東社協　東京都高齢者福祉施設協議会

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in ＴＯＫＹＯ

《高齢者福祉施設・事業所を中心とした「地域に寄り添う」ための都内一斉キャンペーン》

参加施設・事業所の募集ご案内

「つながれ ひろがれ ちいきの輪 ｉｎ ＴＯＫＹＯ」は、誰もが安心して暮らせるまちづくりをめざして、都内の高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人が中心に取組むキャンペーンです。

皆様のご賛同と積極的なご参加により、高齢者福祉施設・事業所ならびに社会福祉法人における地域の取り組みへの認知度が高まります。ぜひご参加ください。

１　目的

地域でこぼれ落ちる人がいないよう、誰もが安心して暮らせるまちを目指して、高齢者福祉施設・事業所が、地域に寄り添うことで「ちいきの輪」をつくります。

高齢者やその家族をとりまく課題が多様化・複雑化する中、社会福祉法人による高齢者福祉施設・事業所には、地域住民への寄り添い（アウトリーチ）に大きな期待が高まっています。

高齢者福祉施設・事業所を中心に、地域住民に向けた事業をとおして「ちいきの輪」をひろげる一歩として、このキャンペーンにご参加ください。

◎キャンペーンについて

都内の高齢者福祉施設・事業所が一つになって行うキャンペーンです。

〇多くの高齢者福祉施設・事業所では、地域に根ざした活動に取り組んでいるものの、社会福祉法人としてＰＲする機会は、かならずしも多くはありませんでした。

〇キャンペーンをとおして、高齢者福祉施設・事業所の取り組みを地域住民に知っていただけるよう、会員の施設名や法人名も含めた積極的なＰＲを行います。

施設・事業所らしい、地域に向けた活動によりご参加ください。

〇地域住民への寄り添いが趣旨であれば、どのような事業でもご参加いただけます。

〇単独の施設・事業所取り組む事業のほか、他の施設・事業所や、他法人及び他業種の福祉施設・事業所と合同の事業でもご参加いただくことができます。

〇キャンペーン期間中（９月から１１月）に実施する事業でのご参加をお願いします。

活動実績を踏まえ、福祉の理念のもとづく地域包括ケアの推進につなげます。

〇キャンペーンのみに終わらないよう、各施設・事業所からの活動報告をふりかえりながら、福祉の視点による地域包括ケアの推進に向けた取り組みを行います。

多くの施設・事業所によるご参加によって効果的なＰＲができることから、積極的なご参加をいただくようお願いします。

あわせて、都内全区市町村でのキャンペーン参加をめざし、ブロック会や区市町村施設長会での呼びかけについてもご協力をいただきますようお願いします。

２　前回の状況－昨年度の実績より

前回のキャンペーンでは、会員の施設・事業所をはじめ地域の団体との協働により、
のべ９７９団体により１２１事業を実施。１９，１７９人の参加がありました。

＜キャンペーンの様子＞

オレンジカフェ（認知症カフェ）
晴海苑（中央区）

災害時応援協定者　合同防災訓練
ケアタウン成増（板橋区）

食 de つながれひろがれ日の出町の輪
藤香苑・栄光の杜・ひのでホーム（日の出町）

＜実施データ＞

取組み種別	事業数	構成比（%）
認知症への対応	14	11.6
介護予防・高齢者支援	13	10.7
アウトリーチ	3	2.5
相談・家族支援	11	9.1
カフェ・居場所づくり	12	9.9
地域住民の学びの機会	12	9.9
地域団体との協働	27	22.3
地域交流	23	19.0
防災への取り組み	6	5.0

※その他詳細データはＨＰをご覧ください。

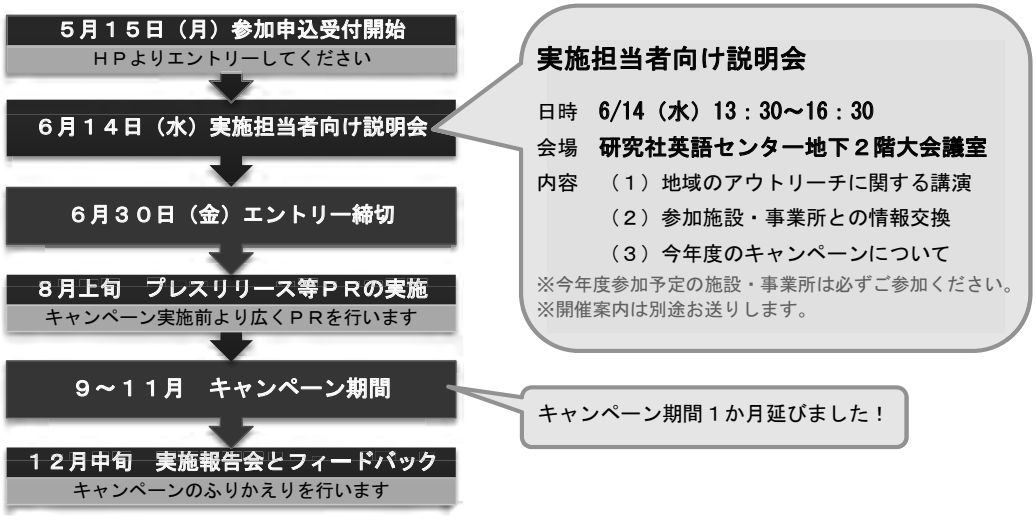
＜おもな取り組み例＞

介護予防教室や認知症カフェの開催
地域の高齢者宅への訪問活動
地域住民や家族への相談活動
施設を会場としたカフェや居場所づくり
福祉や健康に関する市民向け学習会
地元イベントの参加など地域団体との協働
まちづくり懇談会など地域内での交流会
福祉避難所設置訓練など住民向けの防災活動

＜キャンペーンに参加した施設・事業所担当者の声より＞
・新しいことではなくても、たくさんの事業所が参加することが大切だと感じました。
・他施設の担当者と話し合うことで、一人で悩んでいたことへのアドバイスがもらえました。
・キャンペーンをとおして、地域の中での法人相互の連携が深まる可能性を感じました。

◎キャンペーン参加による３つのメリット
１　高齢者福祉施設や社会福祉法人に対する地域住民の理解が広がります
２　施設・法人における地域での新たな取り組みを行うきっかけにつながります
３　法人内の他事業所ならびに他の法人との連携をすすめるきっかけにつながります

３　キャンペーンの流れ



４　Ｑ＆Ａ

【Ｑ】従来から実施している事業でも参加できますか。 【Ａ】従来の活動も含めてＰＲすることがキャンペーンの目的です。なお、キャンペーンを契機として、施設・事業所内で新たな事業を検討いただく形での参加も可能です。
【Ｑ】１日間、半日間、通年で実施している事業でも参加できますか。 【Ａ】広く地域住民を対象とする事業であれば、実施時間や期間の制限は特にありません。
【Ｑ】開催日時は施設側で決めてもよいのでしょうか。 【Ａ】各施設でお決めください。その際、日程が重ならないよう近隣施設との調整をお願いします。
【Ｑ】キャンペーン期間（９～１１月）に行わなければいけませんか。 【Ａ】一斉に行うことによるＰＲ効果を企図しており、できるだけこの期間での開催をお願いします。
【Ｑ】前回のキャンペーンに申し込んだ事業を再び申し込むことはできますか。 【Ａ】前回お申込みいただいた事業を今回も引き続きお申込みいただくことができます。
【Ｑ】施設のある地域の在住者のみを対象とする事業でも参加できますか。 【Ａ】ご参加いただけます。その場合、参加申込書の該当欄（参加条件）に記載ください。
【Ｑ】事業やイベントの経費負担、ブロック活動助成の活用方法について教えてください。 【Ａ】事業やイベントの実施にかかる経費は、会員施設・事業所によりご負担ください。 なお、複数の施設・法人での合同事業など区市町村単位・地域ブロック会単位で活動を行う場合には、地域ブロック会活動経費、地域ブロック会協働助成事業をご活用いただくこともできます。その場合には、各地域ブロック会長または事務局までご連絡ください。 キャンペーン全体の広報・ＰＲにかかる経費（キャンペーン紹介パンフレット等）は、東京都高齢者福祉施設協議会が負担します。
【Ｑ】キャンペーン全体のＰＲはどのように行うのでしょうか。 【Ａ】キャンペーンを紹介するパンフレットを作成の上、施設名や法人名、所在地、参加する事業やイベントに関する情報をまとめて掲載します。また、東京都高齢者福祉施設協議会のＨＰに掲載する他、行政や団体、メディアにも発信します。
【Ｑ】高齢者福祉施設や社会福祉法人を紹介する市民向けパンフレットを作成する予定はありますか。 【Ａ】東京都高齢者福祉施設協議会でパンフレットを作成の上、キャンペーンにご参加いただける施設にお届けします。イベント当日などに配布いただきながら、都内全体の取り組みとしてご紹介ください。

【Q】キャンペーンのロゴや名称はありますか。それをどのように使うのですか。
【A】チラシやウェブサイト、また職員名刺や広報誌などに記載することで、趣旨に賛同しながら都内の高齢者福祉施設が一丸となって行っている姿を伝えるよう、ロゴマーク使用にご協力願います。ＨＰよりダウンロード可能です。
また事業名称は、キャンペーンの趣旨にご理解をいただきながら、実施施設・事業所で任意に名称を設定いただいてもかまいません。

【掲載例】
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO
東京都高齢者福祉施設協議会
特別養護老人ホーム　〇〇苑
地域交流会・介護相談会　１１月〇〇日（〇）１０時～１５時

【Q】パンフレット以外の広報グッズはありますか。
【A】作成する予定です。参加施設・事業所にはキャンペーン実施前に配布いたします。昨年度は、ミニのぼり、アクティブルぬいぐるみなどを配布しました。また、キャンペーン期間中には、アクティブル着ぐるみを貸し出すこともできます。詳細は、事務局までお問い合わせください。

【Q】終了後の報告はどのように行うのでしょうか。
【A】事業レポート、活動に関する写真の送付をお願いします。
レポートのフォーマットをＨＰよりダウンロードの上、作成し、事務局までお送りください。あわせて、ＨＰやFacebook 等に掲載可能な写真を１～２枚程度お送りください。レポートでの地域の方々の声、活動をとおして浮き彫りになった福祉課題などについて伝えます。

【Q】社会福祉法人ではなくてもキャンペーンに参加できますか。
【A】可能です。ぜひご参加ください。

【Q】会員以外の事業所との共同（高齢分野以外の施設等との連携を含む）での参加はできますか。
【A】可能です。ただし申込時の担当施設・事業所名は、協議会の会員施設・事業所名でお願いいたします。

【Q】キャンペーンの事業に対するリスク対応について。
【A】事故等のリスクへの対応は、各施設・事業所でご対応いただくようお願いします。

◎参加申込みについてはＨＰをご覧ください。

▼東京都高齢者福祉施設協議会ＨＰ
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/

東京 高齢協議会 で検索！
※「参加施設・事業所専用ページ」よりお申込みできます。

◎お問合せ先

東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当（佐藤・井上・藤原）
TEL：03-3268-7172　FAX：03-3268-0635　メール：kourei@tcsw.tvac.or.jp

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2017　実施状況

1　実施期間

2017年９月１日～11月30日

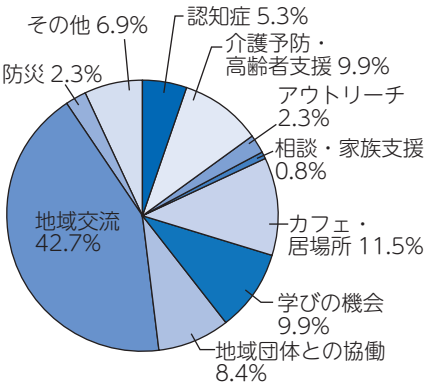
2　実施状況概要

	数	前年度数	増減
参加事業数	131	121	10
参加団体数	835	979	-144
参加者数	39,711	19,179	20532
実施区市町村数	44	39	5

3　実施事業内訳

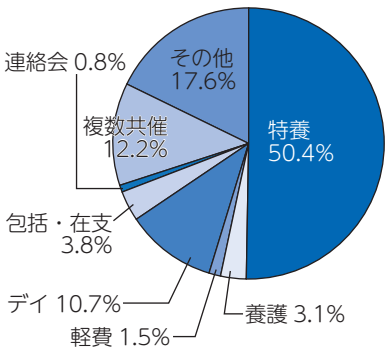
⑴取組み種別

	事業数	構成比	前年度数	増減
認知症	7	5.3%	14	-7
介護予防・高齢者支援	13	9.9%	13	0
アウトリーチ(訪問活動)	3	2.3%	3	0
相談・家族支援	1	0.8%	11	-10
カフェ・居場所	15	11.5%	12	3
学びの機会	13	9.9%	12	1
地域団体との協働	11	8.4%	27	-16
地域交流	56	42.7%	23	33
防災	3	2.3%	6	-3
その他	9	6.9%	0	9
合　　計	131	100.0%	121	



⑵施設・事業所種別

	事業数	構成比	前年度数	増減
特別養護老人ホーム	66	50.4%	65	1
養護老人ホーム	4	3.1%	2	2
軽費老人ホーム	2	1.5%	2	0
デイサービスセンター	14	10.7%	14	0
地域包括支援センター・在宅介護支援センター	5	3.8%	16	-11
区市町村施設連絡会	1	0.8%	10	-9
複数施設との共催	16	12.2%	4	12
その他	23	17.6%	8	15
合　　計	131	100.0%	121	



(3)地域別

		事業数	構成比	会員事業所数 ※	数（ブロック内事業）	ブロック内会員事業所数	前年度数	増減
中央ブロック	島嶼部	0	0.0%	17	7	131	0	0
	千代田区	0	0.0%	10			1	-1
	中央区	0	0.0%	7			1	-1
	港区	0	0.0%	19			1	-1
	品川区	3	2.3%	30			0	3
	渋谷区	2	1.5%	24			1	1
	新宿区	2	2.3%	24			0	2
城北ブロック	文京区	1	0.8%	16	20	109	3	-2
	北区	2	1.5%	32			5	-3
	豊島区	13	9.8%	25			9	4
	板橋区	4	3.0%	36			5	-1
城東ブロック	台東区	3	2.3%	23	9	133	4	-1
	荒川区	1	0.8%	21			0	1
	足立区	3	2.3%	51			3	0
	葛飾区	2	1.5%	38			2	0
墨東ブロック	墨田区	3	2.3%	24	7	104	2	1
	江戸川区	3	2.3%	38			10	-7
	江東区	1	0.8%	42			1	0
城西ブロック	中野区	1	0.8%	17	10	109	3	-2
	杉並区	2	1.5%	32			3	-1
	練馬区	7	5.3%	60			4	3
城南ブロック	大田区	1	0.8%	45	11	106	0	1
	目黒区	5	3.8%	15			7	-2
	世田谷区	5	3.8%	46			5	0
八王子ブロック	八王子市	6	4.5%	66	6	66	3	3
南多摩ブロック	日野市	7	5.3%	14	10	90	5	2
	町田市	1	0.8%	50			4	-3
	多摩市	1	0.8%	18			1	0
	稲城市	1	0.8%	8			0	1
北南ブロック	三鷹市	3	2.3%	14	23	145	1	2
	調布市	2	1.5%	22			1	1
	府中市	3	2.3%	27			2	1
	小金井市	0	0.0%	8			0	0
	国分寺市	1	0.8%	8			0	1
	国立市	1	0.8%	4			1	0
	立川市	1	0.8%	20			3	-2
	昭島市	8	6.0%	12			5	3
	狛江市	0	0.0%	8			0	0
	東大和市	2	1.5%	12			0	2
	武蔵村山市	2	1.5%	10			3	-1
北北ブロック	武蔵野市	4	3.0%	22	15	111	3	1
	小平市	1	0.8%	16			1	0
	東村山市	6	4.5%	22			6	0
	西東京市	0	0.0%	28			0	0
	東久留米市	3	2.3%	11			3	0
	清瀬市	1	0.8%	12			0	1
青梅ブロック	瑞穂町	2	1.5%	8	4	49	0	2
	青梅市	2	2.3%	32			1	1
	奥多摩町	0	0.0%	5			0	0
	羽村市	0	0.0%	4			0	0
秋川ブロック	あきる野市	3	2.3%	21	9	44	4	-1
	日の出町	4	3.0%	11			2	2
	桧原村	0	0.0%	2			1	-1
	福生市	2	1.5%	10			1	1
合計	44	131	100.0%	1197	131	1197	121	

※会員事業所数、ブロック内会員事業所数は2018年３月現在

つながれひろがれちいきの輪 in TOKYO 2017　施設・事業所の合同実施状況

複数施設・事業所　共催

事業・イベント名	八王子介護フェア			八王子市	
主催団体名	社会福祉法人一誠会　社会福祉法人多摩養育園　社会福祉法人清心福祉会	開催日程	10/21　10：00～15：00		
参加団体	25団体				
	主催：社会福祉法人一誠会、社会福祉法人多摩養育園、社会福祉法人清心福祉会 共催：滝山会（八王子市高齢者あんしん相談センター左入、特定医療法人社団愛有会三愛病院、医療法人財団敬寿会相武病院、医療法人社団東京愛成会高月病院、社会福祉法人八王子心成会登芙喜心成苑）、社会福祉法人清心福祉会ファミリーイン堀之内 後援：八王子市、八王子市学園都市文化ふれあい財団、東京都社会福祉協議会東京都高齢者福祉施設協議会、八王子ブロック施設長会、東京都消費生活総合センター 協力機関：社会福祉法人明徳会藤寿苑、東京純心女子中学高等学校、株式会社アイテックプロ、株式会社ケイアイ、酒井薬品株式会社八王子営業所、西都ヤクルト販売株式会社、パラマウントベッド株式会社、工房井上、八王子センター元気、ザ・レインボーズ、NPO法人はちきたSC				
テーマ	介護予防・高齢者支援	参加述べ人数	254名	取組み詳細	P52

事業・イベント名	「小松の杜の介護体験塾」～八王子市立陶鎔小学校４年生～			八王子市	
主催団体名	社会福祉法人親和福祉会 特別養護老人ホーム 小松原園	開催日程	7/4　13：30～15：00		
参加団体	19団体				
	八王子市高齢者あんしん相談センター川口、養護老人ホーム竹の里、八王子市社会福祉協議会、柴橋商会、ケイアイ、NiCK、トーカイ、フロンティア、ダスキン、フランスベッド、サカイヘルスケアー、楢の里、悠杜、快杜、ほほえみ、だんだん、まめまめ、八王子市高齢者あんしん相談センター南大沢				
テーマ	その他	参加述べ人数	135名	取組み詳細	P163

事業・イベント名	医療相談員さんとの情報交換会			八王子市	
主催団体名	社会福祉法人親和福祉会 特別養護老人ホーム 小松原園	開催日程	10/30　14：00～16：00		
参加団体	21団体				
	八王子山王病院、右田病院、日の出ヶ丘病院、数井クリニック、恩方病院、サテライト悠杜、スローライフ、ほほえみ、八王子医師会、八王子市高齢者あんしん相談センター川口、養護老人ホーム竹の里、養護老人ホーム楢の里、ウエストケアセンター、ケアサービスセンター虹、ほのぼの、青陽園、山水園、八王子市高齢者あんしん相談センター中野、多摩特養老人ホーム、東京都多摩若年性認知症総合支援センター				
テーマ	その他	参加述べ人数	52名	取組み詳細	P164

事業・イベント名	日野市認知症月間「だれでも交流広場」内 「お食事お困りごと解決コーナー」				日野市
主催団体名	日野市内特別養護老人ホーム（６施設）の栄養士	開催日程	9/27　13：30～16：00		
参加団体	12団体				
	日野市内特別養護老人ホーム６施設（マザアス日野、豊かな里、浅川苑、あすなろ、シンフォニア、ラペ日野）、市内包括支援センター、小規模多機能施設、グループホーム、若年性認知症の家族会、日野社会福祉協議会、ひの社会教育センター				
テーマ	認知症	参加述べ人数	150名	取組み詳細	P42

事業・イベント名	すずらん喫茶 手作りパン販売				昭島市
主催団体名	社会福祉法人同胞互助会　社会福祉法人ゆいのもり	開催日程	毎週火　11：00～15：00		
参加団体	２団体				
	社会福祉法人同胞互助会　社会福祉法人ゆいのもり福祉協会「食工房ゆいのもり」				
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	50名	取組み詳細	P96

事業・イベント名	産業まつり de つながれひろがれ日の出町の輪				日の出町
主催団体名	社会福祉法人道心会 藤香苑　社会福祉法人芳洋会 ひのでホーム　社会福祉法人ほうえい会 栄光の杜	開催日程	11/4、11/5		
参加団体	３団体				
	ひのでホーム、藤香苑、栄光の杜、日の出町産業まつり参加団体多数他				
テーマ	地域交流	参加述べ人数	100名	取組み詳細	P156

区市町村施設長会　主催

事業・イベント名	アクティブ介護29～文京みんなのつどい～				文京区
主催団体名	アクティブ介護29実行委員会（協力：文京施設長・センター長会）	開催日程	11/21　10：00～16：00		
参加団体	28団体				
	文京区社会福祉協議会、文京くすのきの郷、文京白山の郷、文京千駄木の郷、ゆしまの郷、洛和ヴィラ文京春日、文京大塚高齢者在宅サービスセンター、文京湯島高齢者在宅サービスセンター、文京くすのき高齢者在宅サービスセンター、文京向丘高齢者在宅サービスセンター、文京白山高齢者在宅サービスセンター、文京昭和高齢者在宅サービスセンター、文京本郷高齢者在宅サービスセンター文京千駄木高齢者在宅サービスセンター、ケアワーク弥生、ユアハウス弥生、リハビリ道場、老松ケアサービス、トチギ介護サービス、小石川医師会居宅介護支援事業所、ローズケア、太平ヘルスケ、アドワンスサポートコスモス、小石川みやびの郷、アリア文京大塚、ミニケアホームきみさんち、パナソニックエイジフリー介護チェーン城北、社の癒しハウス・文京関口				
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	1000名	取組み詳細	P90

事業・イベント名	東村山市内社会福祉法人連絡会　紹介パネル展				東村山市
主催団体名	社会福祉法人東村山市社会福祉協議会 東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日程	10/24～10/27 9：00～16：00		
参加団体	24団体				
	村山苑、白十字会、東京都社会福祉事業団、いずみ、恩賜財団東京都同胞援護会、土の根会、三篠会、七日会、東村山市社会福祉協議会、敬愛会、東京コロニー、大典福祉会、そらの会、東京蒼生会、梨世会、ユーカリ福祉会、はるび、慈光会、東村山けやき会、山鳩会、緑風会、天童会、林檎の木、小さい共同体				
テーマ	学びの機会	参加述べ人数	234名	取組み詳細	P88

事業・イベント名	お年寄りの手作り作品展				東村山市
主催団体名	東村山市高齢者福祉施設連絡会	開催日程	10/13～10/15		
参加団体	18団体				
	（特養）白十字ホーム、ハトホーム、第二万寿園、東京都ナーシングホーム、はるびの郷、ひかり苑、青葉の杜 （養護）万寿園、さくらコート青葉町 （軽費）サンホーム、第三万寿園 （デイ）白十字八国苑、寿デイサービスセンター、はるびの郷、ハトホーム在宅サービスセンター、東大和市ふれあいデイサービスセンターひかり苑、本町ケアセンター、青葉の杜デイサービスセンター				
テーマ	その他	参加述べ人数	913名	取組み詳細	P165

事業・イベント名	施設・事業所の市民オープン見学会				東村山市
主催団体名	社会福祉法人東村山市社会福祉協議会　東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日程	9/25、10/22、10/23、10/26、10/27、10/28、10/30、11/7、11/11、11/25 ※9～11月の期間中、水･日･祝以外毎日行っていた団体も有り		
参加団体	13団体				
	村山苑：ほんちょう保育園、ほんちょうケアセンター、福祉事業センター、救護施設さつき荘、ハトホーム、救護施設村山荘 白十字会：白十字ホーム 梨世会：グループホーム宝亀、小規模多機能ホーム梨の園 東村山けやき会：グループホームはぎやまはうす、平成の里、地域生活支援センターふれあいの郷 土の根会：花さき保育園				
テーマ	その他	参加述べ人数	9名	取組み詳細	P166

事業・イベント名	市民に向けたイベントの開催				東村山市
主催団体名	社会福祉法人東村山市社会福祉協議会　東村山市内社会福祉法人連絡会	開催日程	9/9、10/22、10/27、10/30、11/1～11/26		
参加団体	9団体				
	①「コロニー祭り」コロニー東村山　②「八国山フリーマーケット」白十字ホーム　③「おはなしコンサート」花さき保育園　④「ハトホーム交流サロン　暮らしの相談室」ハトホーム　⑤「萩山親子のひろば　どんぐり」久米川保育園　⑥「ひきこもり支援講演会」「認知症サポーター養成講座」救護施設村山荘　⑦「ふらっとカフェ」はるびの郷　⑧「文化祭」秋津療育園　⑨梨世会				
テーマ	その他	参加述べ人数	244名	取組み詳細	P167

事業・イベント名	「介護の日」フェア2017 ～考えてみよう家族の介護、考えてみよう親の介護～			東久留米市
主催団体名	東久留米市内介護サービス事業者協議会	開催日程	11/11	
参加団体	42団体			
	高齢者福祉施設、高齢者保健施設、居宅介護支援事業所、通所介護、訪問看護、訪問介護、訪問入浴、福祉用具、配食サービス、グループホーム、有料老人ホーム 共催　東久留米市福祉保健部福祉課　明治薬科大学附属薬局			
テーマ	地域団体との協働	参加述べ人数	255名	取組み詳細	P100

広報グッズ紹介

1　ロゴマーク

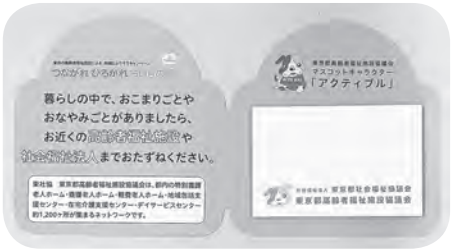
各施設がキャンペーンの一環として都内全域で取組んでいることをPRするためのロゴマークです。東京の街並みや暮らす人を１つの輪にすることで「ちいきの輪」を表しています。パンフレット、名刺、ホームページなど様々な用途に活用いただきました。

2　パンフレット

キャンペーンの趣旨や今年度の実施施設・事業所の取組みを１枚のパンフレットにまとめました。

表紙のイラストには、「誰もが気軽に立ち寄れる場」「地域によりそう場」「様々な高齢者福祉施設の活動の姿」のイメージが込められています。高齢者福祉施設の取組みについて知っていただく機会に都内の関係団体や実施施設・事業所のかかわりのある住民に向けて配布を行いました。

3　ふせん



各施設・事業所の取組みの会場にて配布し、キャンペーンのPRをするグッズとして、今年度新しく作りました。キャンペーンの取組み以外でも配布できるように手に取りやすいデザインとなっています。

4　のぼり

各施設・事業所の取組みの会場に置いてキャンペーンのPRをするグッズ。高齢者施設や社会福祉法人が暮らしの困りごとを気軽に相談できるところであることも伝えています。

5　アクティブルぬいぐるみ

東京都高齢者福祉施設協議会のマスコットキャラクターのぬいぐるみ。今年はキャンペーンのテーマカラーの青いTシャツを着ています。のぼりと一緒に各施設の取組み会場に置いてキャンペーンのPRに活用いただきました。

広報ツール紹介

1　Facebook

キャンペーン期間中、東京都高齢者福祉施設協議会のFacebookページに施設・事業所の各地域の取組み状況について随時掲載しました。

2　つなひろ通信

キャンペーンの進捗状況を都内の高齢者施設や都民の方に定期的に伝えるものとして発刊しました。今年度は、つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO のキャンペーンを企画・運営を担当するワーキングチームに新たに加わったメンバーに見学会の様子を紹介していただきました。実践で取り組まれている視点から感じたことや考えたことをまとめ、伝えています。

2017年6月23日号（送信枚数：全１枚）

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ニュース

つなひろ通信 vol.1

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会（企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO ＷＴ）

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス　キャンペーン申込締切 6/30 まで！～申込状況を公開～

今年度で２年目を迎える、地域によりそう活動取り組むキャンペーン「つながれ ひろがれ ちいきの輪 inＴＯＫＹＯ」（9～11月開催予定）には、５４の事業がお申し込みをいただいております。現在の申込状況は右の通りです。

事業・イベントの種別について、「地域交流」「カフェや居場所」「介護予防や高齢者支援」のお申込みが目立ちます。また連携の予定について、他施設・法人や団体との協働企画と単独実施が概ね半分ずつの割合です。

今回、参加お申し込みをいただいた施設・事業所の中には、下記のような、事業でエントリーされています

・従来から行っている事業、昨年度参加した事業
・９～１１月のキャンペーン期間外の実施事業
※事務局に応相談

各施設の地域をつなぐ取組みをぜひキャンペーンとして都内に一斉にＰＲしませんか？
開催内容が一部未確定でもお申込みできますので、お気軽に事務局までご相談ください。
みなさまのエントリーお待ちしております！

●事業・イベント種別について（複数回答）n=54

事業・イベント種別	申込数	構成比
認知症	2	3.7%
介護予防や高齢者支援	6	11.1%
アウトリーチ（訪問活動）	1	1.9%
相談や家族支援	0	0.0%
カフェや居場所	8	14.8%
学びの機会	2	3.7%
地域団体との協働	4	7.4%
地域交流	22	40.7%
防災	0	0.0%
その他	9	16.7%

●連携の予定について（複数回答）n=54

連携の予定	申込数	構成比
他の会員施設・法人・団体と協働して実施する予定	25	46.2%
単独で実施する予定	28	53.8%

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/
※会員向けメールでもご案内しております。

東京　高齢協議会　で検索！
※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

実施担当者向け説明会 実施 ～地域のネットワークづくりのコツって？～

情報交換会の様子。

６月１４日に「実施担当者向け説明会」を実施し、キャンペーン参加施設を中心に 60 名が参加しました。

講演では、奈良高志 さん（社福 芙蓉会／社福 洛和福祉会）から、「高齢者の暮らしを支える地域の中での施設の役割」また、実践報告として「地域住民とのネットワークづくりのコツ」をテーマに坂井祐さん（博水の郷）、佐藤悦子さん、川戸由美 さん（栄養ケアステーション愛全園）にお話しいただきました。

すでに展開している取組みをより発展させたり、これから新しい取組みをしたりする中で、地域住民や団体とどう手を結んでいくか認知症カフェや栄養に関する学習会などから考える機会となりました。

さらに情報交換会では、各施設の事業・イベント種別ごとにグループになり、これまで取組み状況や課題点、今年度への工夫点など共有し、活動の具体的なヒントを得る場として盛況な様子でした。

参加施設の取組みは今後、つなひろ通信などでリポートしていく予定です。

送信元
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail : kourei@tcsw.tvac.or.jp

○本年度も１００施設・事業所以上のご参加をいただけるようご案内しております。各施設や地域ブロック等からの皆様のご参加とご協力をよろしくお願いします！

2017年8月24日号（送信枚数：全1枚）

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017 ニュース

つなひろ通信 vol. 2

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会（企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO ＷＴ）

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス ９月１日キャンペーン開始！―ホームページに開催情報掲載

本年度の「つながれ ひろがれ ちいきの輪 inＴＯＫＹＯ２０１７」は、都内44の区市町村で、129事業、423団体の参加により９月１日にスタートします。

キャンペーンの概要や、エントリーのあった会員施設等のくわしい情報は、下記ウェブサイトをはじめパンフレットなどによりご覧いただけます。なお、掲載情報に変更がある場合、下記宛にご連絡ください。

また、地域によりそうためのヒントを得る機会として、エントリーのあった事業の見学会を実施予定です。詳細が決まり次第お知らせいたします。

なお、個別の見学希望や活動に関するご相談も、下記の事務局までお問い合わせください。

●事業・イベント種別について（複数回答）n=129

事業・イベント種別	申込数	構成比
認知症	8	6.2%
介護予防や高齢者支援	13	10.1%
アウトリーチ（訪問活動）	3	2.3%
相談や家族支援	1	0.8%
カフェや居場所	15	11.6%
学びの機会	13	10.1%
地域団体との協働	12	9.3%
地域交流	53	41.1%
防災	3	2.3%
その他	8	6.2%

近日開催予定 ちいきの輪

衣類販売会と地域のひろばカフェ（世田谷区）

等々力共愛ホームズ
9/3　10：00～16：00　開催
特養高齢者とその家族や地域住民との交流の場をつくります。

楽夢食(昭島市)

社会福祉法人同胞互助会
9/9　14：00～16：00　開催
医療、食事、介護支援の目的で、ワンポイント健康講座、グループ料理実習を行い、地域住民の健康維持を支援していきます。

地域で学べる介護講座（板橋区）

ケアタウン成増
9/11　13：00～14：00　開催
皆様と共に介護を学ぶ機会を年４回開催します。在宅で役立つテーマを取り上げ、福祉の専門家の方々より分かり易く説明していただきます。

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/
※会員向けメールでもご案内しております。

東京　高齢協議会　で検索！
※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

広報グッズの配布について（エントリー施設・事業所にお送りします）

キャンペーンにエントリーいただいた施設・事業所を対象に、広報やＰＲに必要なグッズやデータをご用意いたしました。ぜひご活用下さい。

上記サイトよりダウンロード可
①ロゴマーク
イベントのちらし等の資料や看板に。PNG形式のデータです。
②チラシフォーマット
パンフレットに挟み込んで使用できます。必要に応じてご利用ください。

キャンペーン参加団体送付中
③パンフレット
キャンペーン概要と参加団体を掲載。地域住民・関係団体等への周知に。
④アクティブルぬいぐるみ・ふせん・のぼり ※のぼりは2017年初参加団体のみ
イベント会場や各施設・事業所の窓口に。のぼりの白地には油性ペンで事業所名等文字がかけます。手早く書くとにじみが少なくなります。

アクティブルぬいぐるみ・ふせん・のぼり

送信元
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail：kourei@tcsw.tvac.or.jp

○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することもできます。送信元までご相談ください。

2017年10月25日号（送信枚数：全１枚）

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017 ニュース

つなひろ通信 vol. 3

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会（企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO ＷＴ）

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス 一緒に続けることで生まれるつながり―炊出し訓練 見学会開催

今年度、はじめての試みとしてキャンペーン参加施設への見学会を実施しました。
キャンペーンの企画を担当しているつながれひろがれちいきの輪 in TOKYO ワーキングチームの相澤和彦さん（高齢者在宅サービスセンター山吹の里）よりレポートいただきました。

10月5日（木）板橋区の特別養護老人ホームみどりの苑にて「前野町　町会合同炊き出し訓練」に参加しました。町会との合同防災訓練は２０年以上続いている取組みだそうです。

薪で火をおこし、おにぎりと豚汁を作り、試食を兼ねて参加者全員で懇談会が行われました。災害時には便利な家電は使えません。火をおこすにも、ご飯を炊くにも地域の方の経験がとても大きな力であると感じました。

施設では年間延べ５５００人の方がボランティアとして活躍しており、町会の方も多く、施設では日頃から地域住民との交流を大切にしているとのこと。町会参加者からも、「施設の人とは仲良くしたいし、交流がある」「施設の行事には毎回呼んでもらえる」という声がありました。

災害はいつ、どこで起こるか分かりません。その時にお互いが協力できるよう、日頃からの関係作りがとても重要だと感じた１日でした。

町会合同炊き出しの様子。長年実施していることもあり、手際よく作っていました。

▼キャンペーンの詳細・お申込みはこちらから
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/
※会員向けメールでもご案内しております。

東京　高齢協議会　で検索！
※申込フォームは、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

わたしの街のちいきの輪～取組み紹介～

お食事お困りごと相談コーナー〔認知症を知る月間〕（日野市）

日野市（協力：市内特養６施設）
９月27日（水）開催

認知症予防に欠かせない「食事と栄養」の分野で、特養の栄養士による食事の展示と情報提供を行いました。困った時に相談できる場があることをお知らせします。

・初めて市内６つの特養の栄養士が集まりました。展示では沢山の方に実際の食事を見ていただきました。
・「食事がとれなくて困っている」「食事の準備や片づけが大変」と相談も寄せられ配食の利用や既製品の取り入れ方などアドバイスさせていただきました。

お知らせ

キャンペーンの今後や研修会等をご案内！

事業レポートの提出のお願い（キャンペーン参加施設向け）

提出いただいたレポート・写真は、今後作成予定の報告書、高齢協 Facebook ページ、つなひろ通信などに掲載を予定しております。

■提出期限　平成29年12月1日（金）

※詳細・レポートフォーマットはＨＰにあります。

▼今後のご案内　※キャンペーン参加施設以外の会員も参加可

11月25日（土） 10:30～12：30 江東園 他 （江戸川区）	実施施設・事業所 見学会 エドガワスマイルコミュニティまつり かつて地域で行っていたお祭りを復活しようという試みのもと、町会の方などと実施する一緒に多世代交流イベント
12月22日（金） 13：30～16：30 （予定） 研究社英語センター	実践報告会 ※実施報告・情報交換を通じて今年の取組みを振り返り、今後のヒントを得る場。

送信元
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail：kourei@tcsw.tvac.or.jp

○各施設や地域でのキャンペーン周知にご協力お願いします。ご希望の施設・事業所にはパンフレットやグッズを追加で送付することもできます。送信元までご相談ください。

2017年12月14日号（送信枚数：全１枚）

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017 ニュース

つなひろ通信 vol. 4

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会（企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO ＷＴ）

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス　高齢者施設が地域の架け橋に　〔社福〕江東園にて見学会開催

キャンペーン参加施設への第２回見学会を実施。参加したつなひろＷＴの方よりレポートをお届けします。

11月25日（土）〔社福〕江東園と地域の団体が協力して開催する「エドガワ“スマイル”コミュニティまつり」に参加しました。多世代の交流と地域づくりを目的に数年前に中止された地域のお祭りを江東園の呼びかけをきっかけに復活させたものです。模擬店や地域の活動に関する講演会など様々な企画があり、各世代の方々が楽しんでいました。体力測定の会場では、法人スタッフが専門職としての力を発揮し、大活躍していました。

このお祭りの企画をすすめる中で、もともと開催していた法人主催のお祭りから、地域の自治会等で構成する実行委員の一人として協力するお祭りへシフトし、地域との繋がりを大切にした流れがあります。また、このイベントを「楽しいお祭り」で終わらせず、12月に開催される地域のことを考えるワークショップへ繋げる企画も用意されているそうです。

印象に残ったのは、「今年の法人のスローガンは『地域にINしてみる』」という担当の方からの言葉―「地域とともに」私たちの使命を改めて考える一日でした。（品川区中延在宅サービスセンター・中延在宅介護支援センター 小山正子）

体力測定コーナーの様子。

▼キャンペーンの詳細はこちらから
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/
※会員向けメールでもご案内しております。

東京　高齢協議会　で検索！
※参加施設向けの情報は、「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO」の「参加施設・事業所専用ページ」にあります。

お知らせ　12/22 つなひろ実践報告会 開催します！

キャンペーンの今後や研修会等をご案内！

昨年度開催した「ふりかえりの会」を、今年度はどなたでも参加いただける「実践報告会」として開催します。今年度の活動報告や、情報交換を通じて地域と施設をつなぐヒントにぜひ、ご参加ください。

実践報告会**「だれもが安心して暮らせるために高齢者福祉施設ができること」**
日　時　**１２月２２日（金）１３時３０分～１６時３０分**（受付：１３時～）
会　場　研究社英語センター地下２階大会議室　　※詳細・お申込みＨＰをご覧ください。

▼報告者一覧

名前	所属	実施事業名	取組み内容
山本 悟 さん	恵比寿苑	牟礼東町会秋祭り太鼓巡行	町会の、秋祭り太鼓巡行の際に、施設に立ち寄って頂き、地域住民とご利用者の交流の場としている。
鈴木 伸亮 さん	南陽園在宅サービスセンター	ももの木トレーニング	筋トレマシンを利用した運動の場及び集いの場提供による、地域在宅高齢者の転倒予防と外出の促進。
正木 直子 さん	マザアス日野	お食事お困りごと相談コーナー他	市内６つの特養栄養士が集まり「お食事お困りごと相談コーナー」と施設の実際の食事展示・摂食嚥下が難しい方へのメニュー提案を行う。
関澤 孝文 さん	ひのでホーム	こどもランチ	地域のこどもや保護者に自慢の食事を提供しつつレクリエーションを通じて、交流を図る。
的場 一信 さん	高齢者在宅サービスセンターみずほ	もう一つの敬老会	瑞穂町８施設の利用者が集まり、一般町民、寿会の皆様にも幅広く声掛けし、一緒に敬老のお祝いをする。
津田 敬子 さん	品川区立杜松地域密着型多機能ホーム	のんきの日	「のんきの日」①地域住民の交流、②地域内資源のネットワーク構築、③地域による見守り活動の支援の３つを目的に開催。今回は、スペシャルデーとして地域の介護保険事業所が集まり、介護相談や野菜即売会を実施。

送信元
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail：kourei@tcsw.tvac.or.jp

○キャンペーン期間は終了しました。ご協力ありがとうございました。今後は、参加施設・事業所の取組みをまとめた報告書を作成する予定です。完成次第、会員の皆様にお届けします。

2018年2月1日号（送信枚数：全2枚）

つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017 ニュース

つなひろ通信 vol. 5

東社協 東京都高齢者福祉施設協議会（企画実施担当・つながれひろがれちいきの輪 inTOKYO ＷＴ）

◎このニュースは、東社協 東京都高齢者福祉施設協議会の会員施設・事業所である養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム（ケアハウスを含む）、デイサービスセンター、地域包括支援センター、在宅介護支援センターにお送りしています。

トピックス　地域に寄り添う一歩を踏み出すためにできること―実践報告会 開催

１２月２２日に「実践報告会 だれもが安心して暮らせるために高齢者福祉施設ができること」を実施し、キャンペーン参加施設や社協のスタッフなど 55 名が参加しました。

実践報告では、地域に寄り添う活動を展開するにあたって、テーマを設け６人の方にお話しいただきました。それぞれの施設や職員そして地域の強みを生かしながら、地域の方と手を結ぶためのちょっとした工夫を学びました。

また、情報交換会では、各施設の事業・イベント種別ごとにグループになり、取組み紹介しながら、報告会の感想共有や今後の活動に生かしたいことを共有し、自分たちの活動を見つめなおす機会としてじっくり話合っていました。参加施設の取組みは今後、報告書でもリポートしていきます。

＜実践報告の内容＞

①施設も地域の一員として
「牟礼東町会秋祭り　太鼓巡行」（共催：牟礼東町会）
山本　悟さん（恵比寿苑）

②施設のもつ強みを生かす
「ももの木トレーニング」
鈴木　伸亮さん（南陽園在宅サービスセンター）

③新しい取組み はじめてみました
「日野市認知症月間『だれでも交流広場』内
『お食事お困りごと解決コーナー』」（開催：日野市内特養）
正木　直子さん（マザアス日野）

④施設内に理解を深める～高齢者施設がつくる親子の輪～
「こどもランチ in ひのでホーム」
関澤　孝文さん（ひのでホーム）

⑤同じまちの事業所が連携
「もう一つの敬老会」（開催：瑞穂町通所介護事業所連絡会）
的場　一信さん（高齢者在宅サービスセンターみずほ）

⑥地域の声によりそう
「杜松地域密着型多機能ホーム『のんきの日』スペシャルデー」
津田　敬子さん（品川区立杜松地域密着型多機能ホーム）

▼キャンペーンの詳細はこちらから
http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/　東京　高齢協議会 で検索！
※会員向けメールでもご案内しております。

キャンペーン実施状況について

今年度実施状況（平成 30 年２月１日現在）

	今年度申込数	前年度申込数	前年度比
参加事業数	131	121	＋10
参加団体数	837	979	－142
参加者数	39,785	19,179	＋20,606

※今後、集計の状況により変更するおそれがあります。

本年度の「つながれ ひろがれ ちいきの輪 in ＴＯＫＹＯ ２０１７」は、都内 44 の区市町村で、平成 29 年９月１日～11 月 30 日実施しました。昨年度と比較して参加事業数・参加者数が増加しています。主な要因としては、大型のイベントや定例開催しているイベント（毎週・毎月実施など）での申込施設が増えたことが挙げられます。今後も都民の方々に地域に寄り添う取組みを知っていただくために、全ての区市町村の会員施設の参加をめざしてキャンペーンをすすめていきたいと思います。

お知らせ

キャンペーンの今後や研修会等をご案内！

平成 30 年度キャンペーンに向けて

ＷＴでは今年度の取り組みをまとめた報告書の作成と次年度のキャンペーンに向けて準備しています。５月よりエントリー施設の募集を開始する予定です。詳細が決定次第、ご案内いたします。

つなひろワーキングチームメンバー募集中!
～都内の取組みに出会いつながるしかけづくりの力に～

キャンペーンをすすめていくために一緒に企画を検討していただける方を募集しています。

＜活動内容＞
・施設・事業所の地域に根づいた活動の都内全域の周知活動や活動にかかわる方の学びの機会に関する企画運営
・年 4 回の委員会でのキャンペーン企画検討、年 3 回程度のイベント（説明会、見学会、報告会等）の実施

＜対象＞　東京都高齢者福祉施設協議会の会員事業所の職員で地域によりそう活動に関わった経験のある方

＜申込＞　2/16 までに送信元にお問い合わせください。
※詳細・参加申込は別添のちらしをご覧ください。

送信元
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
TEL:03-3268-7172 / FAX:03-3268-0635 / E-mail：kourei@tcsw.tvac.or.jp

○【会員の皆様へ】今年度もキャンペーンにご協力ありがとうございました！　今年度の取組みをまとめた報告書は春ごろ完成予定です。会員の皆様に送付いたします。

東京都社会福祉協議会 東京都高齢者福祉施設協議会
平成29年度 つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO ワーキングチーム 名簿

任期　2017年４月１日～2019年３月31日

No.	区分	所属	氏名
1	デイサービス分会	あすなろみんなの家	今　裕司
2	特養分科会	とらいふ武蔵野	大脇　秀一
3	支援センター分会	品川区中延在宅サービスセンター・中延在宅介護支援センター	小山　正子
4	デイサービス分会	桜堤ケアハウス　デイサービスセンター	外山　恭子
5	デイサービス分会	高齢者在宅サービスセンター山吹の里	相澤　和彦
6	支援センター分会	府中市地域包括支援センターあさひ苑	清野　哲男
7	養護分科会	偕生園	樋熊　さとみ
8		東京ボランティア・市民活動センター	野崎　勝也

※所属は2018年３月時点

東京の高齢者福祉施設による、地域によりそうキャンペーン
つながれ ひろがれ ちいきの輪 in TOKYO 2017 報告書

2018年５月発行
編集　東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会
発行者　東京都社会福祉協議会
〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸１-１
TEL　03-3268-7172　　FAX　03-3268-0635
http://www.tcsw.tvac.or.jp/

【お問い合わせ】
社会福祉法人　東京都社会福祉協議会　東京都高齢者福祉施設協議会
事務局　社会福祉法人　東京都社会福祉協議会　福祉部　高齢担当
〒162-8953　東京都新宿区神楽河岸１－１　飯田橋セントラルプラザ内
TEL 03-3268-7172　　FAX 03-3268-0635
URL http://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/kourei/